

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		専門職大学の設置							
フリガナ 設置者		ガッコウホウジン ケイシンガクエン 学校法人 敬心学園							
フリガナ 大学の名称		トウキョウホケンイリョウセンモンシヨクダイガク 東京保健医療専門職大学 (Tokyo Professional University of Health Sciences)							
大学本部の位置		東京都江東区塩浜2丁目22番10号							
大学の目的		東京保健医療専門職大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、敬心学園の理念「他人を敬い、自らを律し、人々の心をもっとも大切にして、一人ひとりが輝いて生きる社会を創造する」の下、「健康者・障がい者、若年者・高齢者など多様な人々が『共生できる社会の実現と発展』を目指す」を建学の精神に掲げ、実践的かつ高度な保健医療の理論と技術を教授研究し、豊かな人間性を備えた「共生社会の実現と発展に貢献する実務リーダー」となる専門職業人材を養成し、保健医療分野の発展に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的		リハビリテーション学部は、保健医療の専門職業人として高い専門知識と技術を涵養すると共に、多様な生活者のQOL（Quality of life、生活の質）の維持・向上に関する知見を身に付け、高度化複雑化する社会ニーズに対する課題解決力と組織の経営・マネジメントの知識を養い、共生社会の実現に貢献する理学療法士、作業療法士を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所在地	
	リハビリテーション 学部 [School of Rehabilitation]	年	人	年次 人	人		年月 年次	東京都江東区塩浜2丁目 22番10号	
	理学療法学科 [Department of Physical Therapy]	4	80	0	320	理学療法学士 (専門職) [Bachelor of Physical Therapy]	平成32年4月 第1年次		
	作業療法学科 [Department of Occupational Therapy]	4	80	0	320	作業療法学士 (専門職) [Bachelor of Occupational Therapy]	平成32年4月 第1年次		
	計		160	0	640				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称の 変更等)		臨床福祉専門学校(東京都江東区塩浜) 介護教員養成学科(廃止△80) 言語聴覚療法学科(廃止△160) ※平成32年4月学生募集停止 理学療法学科/昼(廃止△240) ※平成31年4月学生募集停止 理学療法学科/夜(廃止△160) ※平成31年4月学生募集停止 柔道整復学科(廃止△180) ※平成30年4月学生募集停止 日本福祉教育専門学校(東京都新宿区高田馬場) ソーシャル・ケア学科(廃止△160) ※平成32年4月学生募集停止 社会福祉学科(廃止△70) ※平成32年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	リハビリテーション学部 理学療法学科	86 科目	16 科目	25 科目	127 科目	145 単位			
	リハビリテーション学部 作業療法学科	89 科目	17 科目	28 科目	134 科目	145 単位			

教員組織の概要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等			
			教授	准教授	講師	助教	計		助手		
	新設分	リハビリテーション学部 理学療法学科	12 人 (7)	1 人 (1)	11 人 (7)	3 人 (3)	27 人 (18)	0 人 (0)	40 人 (21)		
		リハビリテーション学部 作業療法学科	11 人 (8)	7 人 (7)	4 人 (4)	5 人 (4)	27 人 (23)	0 人 (0)	44 人 (21)		
		計	23 人 (15)	8 人 (8)	15 人 (11)	8 人 (7)	54 人 (41)	0 人 (0)	- 人 (-)		
既設分	(該当なし)	- 人 (-)	- 人 (-)	- 人 (-)	- 人 (-)	- 人 (-)	- 人 (-)	- 人 (-)			
		合 計	23 人 (15)	8 人 (8)	15 人 (11)	8 人 (7)	54 人 (41)	0 人 (0)	- 人 (-)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員		20 人 (20)		0 人 (0)		20 人 (20)				
	技 術 職 員		0 人 (0)		0 人 (0)		0 人 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		1 人 (1)		0 人 (0)		1 人 (1)				
	そ の 他 の 職 員		0 人 (0)		0 人 (0)		0 人 (0)				
	計		21 人 (21)		0 人 (0)		21 人 (21)				
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地		6,757.50 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		6,757.50 m ²		
	運 動 場 用 地		0.00 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		
	小 計		6,757.50 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		6,757.50 m ²		
	そ の 他		0.00 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		
	合 計		6,757.50 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		6,757.50 m ²		
校 舎		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計			
		13,057.71 m ² (- m ²)		0.00 m ² (- m ²)		0.00 m ² (- m ²)		13,057.71 m ² (- m ²)			
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	16 室		8 室		13 室		1 室 (補助職員 一人)		1 室 (補助職員 一人)		
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称						室 数			
		リハビリテーション学部						55 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	リハビリテーション学部		21,327[325] (19,327[325])	50[1] (50[1])	3[1] (3[1])	650 (650)	3,248 (3,248)	21 (21)			
	計		21,327[325] (19,327[325])	50[1] (50[1])	3[1] (3[1])	650 (650)	3,248 (3,248)	21 (21)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		運動室の他、江東区公共体育館7ヶ所・運動場10ヶ所と利用契約を締結			
		473.00 m ²		130 席		50,000 冊					
体育館		面積		0.00 m ²		運動室141.54m ² -					
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等			250千円	250千円	250千円	250千円	-	-	
		共同研究費等			2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	-	-	
		図書購入費		29,600千円	3,600千円	3,800千円	3,900千円	4,000千円	-	-	
		設備購入費		208,579千円	-千円	8,365千円	-千円	-千円	-	-	
	学生1人当り納付金	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次	第6年次
		理学療法学科		1,900千円		1,600千円		1,600千円		-	-
		作業療法学科		1,900千円		1,600千円		1,600千円		-	-
学生納付金以外の維持方法の概要		経常費等補助金、入学検定料、雑収入等									

大 学 の 名 称									所 在 地	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度		
既 設 大 学 等 の 状 況	臨床福祉専門学校								東京都江東区塩浜2 丁目22番10号	
	介護福祉教員養成学科	1.5 年	40 人		80 人		0.00 倍			H32年度学生募集停止
	言語聴覚療法学科	2	80		160	専門士	0.68	H15		H31年度学生募集停止
	理学療法学科 昼間部	3	80		240	専門士	1.01	H15		H31年度学生募集停止
	理学療法学科 夜間部	4	40		160	専門士	0.84	H15		H30年度学生募集停止
	柔道整復学科	3	60		180	専門士	0.32	H23		
	日本福祉教育専門学校								東京都新宿区高田馬 場2丁目16番3号	
	ソーシャル・ケア学科	4	40		160	高度専門士	0.59	H20		H31年度学生募集停止
	社会福祉学科	2	35		70	専門士	0.76	H24		H32年度学生募集停止
	介護福祉学科	2	80		160	専門士	0.79	S63		
	言語聴覚療法学科	2	38		76	専門士	0.47	H13		
	社会福祉士養成学科	1	80		80		1.04	H16		
	社会福祉士養成科	1	80		80		0.93	H12		
	精神保健福祉士養成学科	1	80		80		0.95	H10		
	精神保健福祉士養成科	1	80		80		0.59	H11		
	日本医学柔整鍼灸専門学校								東京都新宿区高田馬 場1丁目18番18号	
	柔道整復学科 昼間部	3	60		180	専門士	0.93	H14		
	柔道整復学科 夜間部	3	60		180	専門士	0.58	H16		
	鍼灸学科 昼間部	3	60		180	専門士	1.04	H16		
	鍼灸学科 夜間部	3	60		180	専門士	0.78	H14		
	日本児童教育専門学校								東京都新宿区高田馬 場1丁目32番15号	
	総合子ども学科	3	40		120	専門士	0.78	H20		
	保育福祉科 昼間コース	2	120		240	専門士	0.97	H21		
	保育福祉科 夜間主コース	2	80		160	専門士	0.68	H21		
	日本リハビリテーション専門学校								東京都豊島区高田3 丁目6番18号	
	理学療法学科 昼間部	4	40		160	高度専門士	1.06	H09		
	理学療法学科 夜間部	4	40		160	高度専門士	1.03	H12		
	作業療法学科 昼間部	4	35		140	高度専門士	1.05	H12		
	作業療法学科 夜間部	4	35		140	高度専門士	0.97	H09		
附属施設の概要		(該当なし)								

学校法人敬心学園 設置認可等に関わる組織変更の移行表

平成31年度	修業年限	入学定員	収容定員	変更の事由
平成32年度	修業年限	入学定員	収容定員	専門職大学新設
東京保健医療専門職大学				
リハビリテーション学部				
理学療法学科	4	80	320	
作業療法学科	4	80	320	
合計		160	640	
臨床福祉専門学校				
介護福祉教員養成学科	1.5	0	0	平成32年度学生募集停止
言語聴覚療法学科	2	0	0	平成31年度学生募集停止
理学療法学科 昼間	3	0	0	平成31年度学生募集停止
理学療法学科 夜間	4	0	0	平成31年度学生募集停止
柔道整復学科	3	0	0	平成30年度学生募集停止
合計		0	0	
日本福祉教育専門学校				
ソーシャル・ケア学科	4	0	0	平成31年度学生募集停止
社会福祉学科	2	0	0	平成32年度学生募集停止
介護福祉学科	2	80	160	
言語聴覚療法学科	2	78	156	
社会福祉士養成学科	1	80	80	
社会福祉士養成科	1	80	80	
精神保健福祉士養成学科	1	80	80	
精神保健福祉士養成科	1	80	80	
合計		478	636	
日本医学柔整鍼灸専門学校				
柔道整復学科 昼間	3	60	180	
柔道整復学科 夜間	3	60	180	
鍼灸学科 昼間	3	60	180	
鍼灸学科 夜間	3	60	180	
合計		240	720	
日本児童教育専門学校				
総合子ども学科	3	40	120	
保育福祉科 昼間	2	120	240	
保育福祉科 夜間	2	80	160	
合計		240	520	
日本リハビリテーション専門学校				
理学療法学科 昼間	4	40	160	
理学療法学科 夜間	4	40	160	
作業療法学科 昼間	4	35	140	
作業療法学科 夜間	4	35	140	
合計		150	600	
合計			1268	3116

平成31年度	修業年限	入学定員	収容定員
臨床福祉専門学校			
介護福祉教員養成学科	1.5	40	80
言語聴覚療法学科	2	80	160
理学療法学科 昼間	3	80	240
理学療法学科 夜間	4	40	160
柔道整復学科	3	60	180
合計		300	820
日本福祉教育専門学校			
ソーシャル・ケア学科	4	40	160
社会福祉学科	2	35	70
介護福祉学科	2	80	160
言語聴覚療法学科	2	78	156
社会福祉士養成学科	1	80	80
社会福祉士養成科	1	80	80
精神保健福祉士養成学科	1	80	80
精神保健福祉士養成科	1	80	80
合計		553	866
日本医学柔整鍼灸専門学校			
柔道整復学科 昼間	3	60	180
柔道整復学科 夜間	3	60	180
鍼灸学科 昼間	3	60	180
鍼灸学科 夜間	3	60	180
合計		240	720
日本児童教育専門学校			
総合子ども学科	3	40	120
保育福祉科 昼間	2	120	240
保育福祉科 夜間	2	80	160
合計		240	520
日本リハビリテーション専門学校			
理学療法学科 昼間	4	40	160
理学療法学科 夜間	4	40	160
作業療法学科 昼間	4	35	140
作業療法学科 夜間	4	35	140
合計		150	600
合計			1483
			3526

教 育 課 程 等 の 概 要																
リハビリテーション学部 理学療法学科																
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
① 基礎 科目	社会	敬心における共生論	1前	1			○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		心理学	1前	2		○										
		社会学	1前	2		○										
		実務英会話	1前	1					○							
		観光学	2前		2	○										
		経営学	1前	1		○			1							
		音楽文化論	1前・後	2		○							兼1			
		法学	1前・後	2		○							兼1			
	国際関係論	1前・後	1		○								兼1			
	組織	職業倫理	1前	1			○			1		1			兼1	
		チームワーク概論	1後	1			○								兼1 兼1 兼1 兼1	
		リーダーシップ論	1前		1	○										
		社会人基礎力	1前・後	1				○								
		コミュニケーション論	1前・2前	2		○										
	国際協力論	2前・後	2		○									兼1		
	地域・ボラン ティア	スポーツボランティアⅠ	1前・後		2		○					1			兼1 兼1 兼1 兼1	
		スポーツボランティアⅡ	2前・後	1					○			1				
		地域ボランティア論	1前・後	2		○										
		地域防災	1前・後	2		○										
	科学	建築・まちづくり	1前	2			○								兼1	
		統計学序論	1前		2	○									兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		統計学	1後	2		○						1				
		生物学	1前	2		○				1						
		物理学	1後	2		○										
		情報リテラシー	1前・後		1	○										
		ICT概論	2前	1		○				1					兼1	
		健康科学	1前・後	2		○									兼1 兼1 兼1	
		食と健康	1前・後	1					○							
		化学	1前・後	2		○										
小計（29科目）		—	16	30	0	—			5	0	3	0	0	兼19		
② 職業 専門 科目	人体の構造と 機能及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	1			○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		解剖学Ⅱ	1後	1		○			1							
		解剖学実習	1後	1					○	1						
		生理学Ⅰ	1前	1		○			1							
		生理学Ⅱ	1後	1		○			1							
		生理学実習	1後	1				○	1							
		運動学Ⅰ	1後	1		○			1							
		運動学Ⅱ	2通	2		○			1							
		運動学実習	2後	1							1					
		運動生理学	2前	1		○						1				
		人間発達学	1後	1		○									兼1	
	疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の 促進	病理学	3前	1			○								兼1	
		臨床心理学	1後	1			○								兼1	
		精神医学	3前	2			○								兼1	
		整形外科	2前	2			○								兼1	
		神経内科学	2前	2			○								兼1	
		小児科学	3後	1			○								兼1	
		内科学	2後	2			○			1					兼1 兼1 兼1	
		老年医学	3後	2			○									
		救急救命の基礎	2後	1					○							
		薬理学	3前	1			○			1					兼1	
	栄養学	1後	1			○								兼1		
	保健医療福祉 とリハビリ テーションの 理念	リハビリテーション医学	1前	1			○			1					兼1 兼1 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2	
		リハビリテーション概論	1前	1			○				1					
		公衆衛生学	3前	1			○									
		地域福祉論	1前	1			○									
		地域共生のための連携活動Ⅰ	3後	2			○					1				
		地域共生のための連携活動Ⅱ	4後	1				○				1				
		予防理学療法	3前		2	○						1				
		リハビリテーション医療工学	3後		1			○							集中	

教 育 課 程 等 の 概 要															
リハビリテーション学部 理学療法学科															
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
② 職業専門科目	基礎理学療法学	基礎理学療法概論	1前	1			○			1					
		理学療法研究法	3前	1				○				1			
		運動療法学総論	1後	1			○			1					
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	2前	1			○					1			
		理学療法管理学Ⅱ	3後	1			○					1			
	理学療法評価学	基礎理学療法評価学	1後	2			○			1					
		基礎理学療法評価学実習	1後	1					○			1			
		運動器理学療法評価学	2前	2			○				1				
		運動器理学療法評価学実習	2前	1					○			1			
		神経理学療法評価学	2前	2			○			1					
		神経理学療法評価学実習	2前	1					○	1					
		内部障害理学療法評価学	3前	2			○			1					
		内部障害理学療法評価学実習	3前	1					○						
	理学療法治療学	物理療法学	3後	2			○					1			
		物理療法学実習	3後	1					○			1			
		義肢装具学	3前	2			○			1					
		義肢装具学実習	3前	1					○						
		日常生活活動学	2後	2			○					1			
		日常生活活動学実習	2後	1					○			1			
		運動器理学療法学	2後	2			○				1				
		運動器理学療法学実習	2後	1					○			1			
		神経理学療法学	2後	2			○								
		神経理学療法学実習	2後	1					○						
		内部障害理学療法学	3後	2			○			1					
		内部障害理学療法実習	3後	1					○	1					
		小児理学療法学	3後	2			○					1			
		高齢者理学療法学	3前	2			○			1					
		スポーツ理学療法実習	3通	2					○			1			
		健康寿命の延伸	3後	1					○	3	1				
		在宅医療・介護の推進	3後	1					○	1		3			
		アスレティックリハビリテーション	3後		1				○			1			オムニバス オムニバス 集中
	地域理学療法学	生活環境学	3前	1			○			1					
		地域連携学	3前	1			○					1			
		地域理学療法学	3後	1			○					1			
		被災支援と理学療法	3前		2		○							兼1	
	臨床実習	見学実習	1後	1					臨	3	1	11	2		共同（一部）
		検査・測定実習	2後	2					臨	4	1	11	2		共同（一部）
		評価実習	4前	8					臨	4	1	11	2		共同（一部）
		総合実習	4前	8					臨	5	1	11	2		共同（一部）
		地域実習	4後	1					臨	2	1	10	2		共同（一部）
小計（70科目）		—	101	6	0	—			9	1	11	2	0	兼15	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
リハビリテーション学部 理学療法学科																		
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
③ 展 開 科 目	統合分野	共生社会の展開と実践	3後	1					○		2	1				兼9	共同、集中	
		小計（1科目）	—	1	0	0	—			2	1	0	0	0	兼9			
	隣 接 他 分 野	共生福祉論	1後	2			○				1					兼1	共同 共同 共同 共同	
		身体障害への支援システム工学Ⅰ	2後	2			○				1							
		身体障害への支援システム工学Ⅱ	3前	1				○			1							
		コーチングの理論とスポーツとの連携Ⅰ	2後		2		○									兼1		
		コーチングの理論とスポーツとの連携Ⅱ	3前		1			○								兼1		
		障害者の社会参加とスポーツの教育的活用Ⅰ	2後		2		○			1						兼1		
		障害者の社会参加とスポーツの教育的活用Ⅱ	3前		1			○		1						兼1		
		ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅰ	2後		2		○									兼1		
		ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅱ	3前		1			○								兼1		
		手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ	2後		2		○						1					
		手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ	3前		1				○				1					
		小計（11科目）	—	5	12	0	—			1	1	0	1	0	兼4			
	組 織 の 経 営 ・ マ ネ ジ メ ン ト	実務リーダーのための経営戦略論	1後	2			○				1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		組織・人材マネジメントの理論と実践	1後	2			○				1							
		実践マーケティング戦略	2前	2			○											
		保健医療経営Ⅰ	2後	2			○											
		保健医療経営Ⅱ	3前		1		○											
		実務リーダーのための財務会計Ⅰ	1後		1		○											
		実務リーダーのための財務会計Ⅱ	2前		1		○											
		ビジネスのための法律	2前		1		○											
		ビジネスのためのIT	2前		1		○											
		在宅サービスの事業経営	2後		1		○											
		事業計画策定概論	3後		2		○											
		総合事業開発	4後		1				○									
		小計（12科目）	—	8	9	0	—			2	0	0	0	0	兼8			
	小計（24科目）		—	14	21	0	—			3	1	0	1	0	兼16			
	④ 総 合 科 目	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	3前	1					○		4		6					
		理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	3後	1					○		4		6					
		理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	4前	1					○		4		6					
		理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	4後	1					○		4		6					
		小計（4科目）			4	0	0	—			4	0	6	0	0	0		
合計（127科目）			—	135	57	0	—			12	1	11	2	0	兼40			
学位又は称号		理学療法学士（専門職）		学位又は学科の分野							保健衛生学関係（リハビリテーション関係）							
卒業要件及び履修方法										授業期間等								
1. 基礎科目：必修16単位 選択4単位以上										1学年の学期区分							2期	
2. 職業専門科目：必修101単位																		
3. 展開科目：必修14単位、選択6単位以上 隣接他分野の選択科目のうち「コーチングの理論とスポーツとの連携Ⅰ」、「コーチングの理論とスポーツとの連携Ⅱ」の2科目3単位または「障害者の社会参加とスポーツの教育的活用Ⅰ」、「障害者の社会参加とスポーツの教育的活用Ⅱ」の2科目3単位のいずれかを必ず履修し、3単位を修得すること。										1学期の授業期間							15週	
4. 総合科目：必修4単位										1時限の授業時間							90分	
5. 実験・実習科目から40単位以上 うち、臨地実務実習から20単位以上																		
以上、基礎科目20単位、職業専門科目101単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計145単位																		

教 育 課 程 等 の 概 要														
リハビリテーション学部 作業療法学科														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
① 基礎 科目	社会	敬心における共生論	1前	1			○							兼1
		心理学	1前	2			○			1				兼1
		社会学	1前	2			○							兼1
		実務英会話	1後	1				○						兼1
		観光学	2前		2		○		1					
		経営学	1前		1		○		1					
		音楽文化論	1前・後		2		○				1			
		法学	1前・後		2		○							兼1
		国際関係論	1前・後		1		○							兼1
	組織	職業倫理	1前	1			○							兼1
		チームワーク概論	1後	1			○			2				
		リーダーシップ論	1前		1		○		1					
		社会人基礎力	1前・後		1			○						兼1
		コミュニケーション論	1前・2前		2		○		1					兼1
	地域・ ボランティア	国際協力論	2前・後		2		○							兼1
		スポーツボランティアⅠ	1前・後		2		○							兼1
		スポーツボランティアⅡ	2前・後		1			○						兼1
		地域ボランティア論	1前・後		2		○			1				兼1
	科学	地域防災	1前・後		2		○							兼1
		建築・まちづくり	1前	2			○							兼1
		統計学序論	1前		2		○							兼1
		統計学	1後	2			○							兼1
		生物学	1前	2			○							兼1
		物理学	1後	2			○							兼1
		情報リテラシー	1前・後		1		○							兼1
		ICT概論	2前		1		○							兼1
		健康科学	1前・後		2		○							兼1
		食と健康	1前・後		1			○						兼1
		化学	1前・後		2		○							兼1
	小計（29科目）		—	16	30	0		—	3	4	1	0	0	兼18
② 職業専 門科目	人体の構造と 機能及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	1			○		1					兼1 兼1 兼1 共同
		解剖学Ⅱ	1後	1			○		1					
		解剖学実習	1後	1				○	1					
		機能解剖学	2前	1			○		1					
		生理学Ⅰ	1前	1			○							
		生理学Ⅱ	1後	1			○							
		生理学実習	2前	1				○						
		運動学Ⅰ	1後	1			○			2				
		運動学Ⅱ	2前	1			○			2				
		運動学実習	2後	1				○				3		
		運動生理学	2後	1			○		1					
		人間発達学	1後	1			○		1					
	疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の 促進	病理学	2前	1			○							兼1
		臨床心理学	1後	2			○			1				兼1
		精神医学	2後	2			○							兼1
		整形外科	2前	2			○							兼1
		神経内科学	2後	2			○		1					兼1
		小児科学	3前	2			○							兼1
		内科学	2前	2			○							兼1
		老年医学	3前	2			○							兼1
		救急救命の基礎	2後	1				○						兼1
		薬理学	3前	1			○		1					兼1
		栄養学	1後	1			○							兼1
	保健医療福祉と リハビリ テーションの理念	リハビリテーション医学	3前	1			○							兼1
		リハビリテーション概論	1後	1			○							兼1
		公衆衛生学	3後	1			○							兼1
		地域福祉論	1後	1			○			1				兼1
		地域共生のための連携活動Ⅰ	3後	2			○		1		1			オムニバス 共同
		地域共生のための連携活動Ⅱ	4後	1				○		1	1			兼1

教 育 課 程 等 の 概 要															
リハビリテーション学部 作業療学科															
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
② 職 業 専 門 科 目	基礎作業 療法学	作業療法学概論	1前	1			○			1					
		作業療法学各論	2前	1			○			1					
		基礎作業学演習Ⅰ	1前	1				○			1				
		基礎作業学演習Ⅱ	1後	1				○				1			
	作業療法 管理学	作業療法管理学Ⅰ	1前	1				○		1					
		作業療法管理学Ⅱ	4後	1				○			1				
	作業療法 評価学	作業療法評価学概論	1後	1			○			1					
		身体機能作業療法評価学	2前	1			○			1					
		精神機能作業療法評価学	2前	1			○			1					
		発達障害作業療法評価学	2前	1			○			1					
		高齢期作業療法評価学	2前	1			○			1					
		高次脳機能作業療法評価学	2後	1			○				1				
		日常生活動作作業療法評価学	2後	1			○					1			
	作業療法 治療学	身体機能作業療法治療学Ⅰ	3前	1			○				1				
		身体機能作業療法治療学実習Ⅰ	3後	1					○				1		
		身体機能作業療法治療学Ⅱ	3前	1			○			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅱ	3後	1					○		1				
		身体機能作業療法治療学Ⅲ	3前	1			○			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅲ	3後	1					○		1				
		精神機能作業療法治療学	3前	1			○			1					
		精神機能作業療法治療学実習	3後	1					○			1			
		発達障害作業療法治療学	3前	1			○			1					
		発達障害作業療法治療学実習	3後	1					○		1				
		高齢期作業療法治療学	3前	1			○					1			
		高齢期作業療法治療学実習	3後	1					○			1			
		高次脳機能作業療法治療学	3前	1			○				1				
		高次脳機能作業療法治療学実習	3後	1					○				1		
		日常生活活動作業療法治療学	3前	1			○					1			
		日常生活活動作業療法治療学実習	3後	1					○				1		
		日常生活活動支援治療学	3前	1			○			1					
		日常生活活動支援治療学実習	3後	1					○		1				
		健康寿命の延伸	3後	1					○		1	1	2		兼1
		在宅医療・介護の推進	3後	1					○		1	3			兼1
		生活行為を支援するための環境整備	3後		1				○			1			兼1
		緩和ケアと作業療法	3後		1				○						兼1
	地域作業 療法学	地域作業療法学	3前	1			○				1				
		就労支援論	3後	1			○								
		生活環境学	3後	1								1			
		地域作業療法学実習	4後	1					○		1		5		
		障害児教育と作業療法	3前		1		○								兼1
	臨床実習	発達・精神障害に対する社会生活力と 作業療法	3前		1			○							兼1
		体験実習Ⅰ	1前	1					臨	3	5	3	5		共同（一部）
		体験実習Ⅱ	1前	1					臨	3	5	3	5		共同（一部）
		評価実習Ⅰ	2後	3					臨	5	5	3	5		共同（一部）
		評価実習Ⅱ	2後	2					臨	5	5	3	5		共同（一部）
		総合実習Ⅰ	4前	9					臨	5	5	3	5		共同（一部）
		総合実習Ⅱ	4前	9					臨	5	5	3	5		共同（一部）
		地域実習	4後	2					臨	3	5	3	5		共同（一部）
小計(77科目)			—	101	4			—	8	7	3	5	0	兼14	

教 育 課 程 等 の 概 要																
リハビリテーション学部 作業療法学科																
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
③ 展 開 科 目	統合分野	共生社会の展開と実践	3後	1				○		5	4				兼3	共同、集中
		小計（1科目）	—	1	0	0		—		5	4	0	0	0	兼3	
	隣 接 他 分 野	共生福祉論	1後	2			○			1					兼1 兼1	
		ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅰ	2後	2			○			1						
		ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅱ	3前	1				○		1						
		美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ	2後		2		○									
		美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ	3前		1				○							
		音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ	2後		2		○					1			兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ	3前		1				○			1				
		身体障害への支援システム工学Ⅰ	2後		2		○									
		身体障害への支援システム工学Ⅱ	3前		1			○								
		手話による聴覚障害者とのコミュニ ケーションⅠ	2後		2		○									
		手話による聴覚障害者とのコミュニ ケーションⅡ	3前		1				○							
		小計（11科目）	—	5	12	0		—		2	0	1	0	0	兼3	
	組 織 の 経 営・ マ ネ ジ メ ン ト	実務リーダーのための経営戦略論	1後	2			○			1 1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		組織・人材マネジメントの理論と実践	1後	2			○									
		実践マーケティング戦略	2前	2			○									
		保健医療経営Ⅰ	2後	2			○									
		保健医療経営Ⅱ	3前		1		○									
		実務リーダーのための財務会計Ⅰ	1後		1		○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		実務リーダーのための財務会計Ⅱ	2前		1		○									
		ビジネスのための法律	2前		1		○									
		ビジネスのためのIT	2前		1		○									
在宅サービスの事業経営		2後		1		○										
事業計画策定概論		3後		2		○								兼1 兼1		
総合事業開発		4後		1			○									
小計（12科目）		—	8	9	0		—		2	0	0	0	0	兼8		
小計（24科目）	—	14	21	0		—		5	4	1	0	0	兼13			
④ 総 合 科 目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	3前	1				○		2	5	3					
	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	3後	1				○		2	5	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	4前	1				○		2	5	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	4後	1				○		2	5	3					
	小計（4科目）	—	4	0	0		—		2	5	3	0	0	0		
合計（134科目）			—	135	55	0		—		11	7	4	5	0	兼42	
学位又は称号		作業療学士（専門職）		学位又は学科の分野						保健衛生学関係（リハビリテーション関係）						
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
1. 基礎科目：必修16単位 選択4単位以上 2. 職業専門科目：必修101単位 3. 展開科目：必修14単位、選択6単位以上 隣接他分野の選択科目のうち「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ」、「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位または「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ」、「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位のいずれかを必ず履修し、3単位を修得すること。 4. 総合科目：必修4単位 5. 実験・実習科目から40単位以上 うち、臨地実務実習から27単位以上 以上、基礎科目20単位、職業専門科目101単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計145単位									1学年の学期区分				2期			
									1学期の授業時間				15週			
									1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	社会	敬心における共生論 敬心学園の一員として、学園理念「他人を敬い、自らを律し、人々の心をもっとも大切にして、一人ひとりが輝いて生きる社会を創造する」を踏まえ、「共生社会」や「リハビリテーション」さらには「QOL (Quality of life) の向上・獲得」について理解を深める。敬心学園の理事長や大学の学長等、本学のリーダーから、「理念」や「養成する人材像」について、直接学ぶ機会を設け、その真意について学ぶ。 共生社会における自らの役割について考える。	
基礎 科目	社会	心理学 心理学は、全ての専門職の基礎となるコア学問である。心理学では、専門職業人として心理学を学ぶ学生に対し、心理学とはどのような学問で、どのようなことが研究され、どのようなことが明らかにされてきたのか、そしてそれが私たちの日常生活や職業生活にどのように関係するのかについて学ぶ。また、心理学的知見を自己理解や他者理解、障がいを持った患者の心理の理解や精神的健康の維持・促進のために応用できることを目標とする。具体的には、授業は、知覚心理学、学習心理学、認知心理学、動機づけ・感情心理学、人格心理学、発達心理学分野における代表的な心理学実験などを模擬的に体験することを通して学ぶ。	
基礎 科目	社会	社会学 この授業では、受講者が社会学の基礎的な理論や概念を学び理解するとともに、実社会におけるさまざまな現象や問題を考える視座を獲得することを目指す。テーマは、自己、人間関係、家族、ライフコースといった身近に経験されるものを中心としつつ、その背景にある現代の社会・政治問題や、参照軸としての歴史や海外の状況まで幅広い視野を得られるような構成とする。受講者は、社会のなかで「これが当たり前」とされていることを定式通りに考えるのではなく、それに疑問を感じ、新たな視点や切り口でその問題を考え直し、社会的な見方で考察できるようになることが求められる。講義を中心とするが、可能な限りグループワーク等も積極的に取り入れる。	
基礎 科目	社会	実務英会話 近年、グローバル化の波が、福祉の分野にも押し寄せつつある。そうしたことから、英語コミュニケーション能力を高めるため、保健医療福祉の様々な状況の場面を設定した教材を用いて学習をすすめる。それぞれのユニットの登場人物となり実際に演じることにより将来実際に起こりうる場面でも活用されることを期待している。また、ダイアログやエクササイズから保健医療に関する専門用語などを覚え、関連表現を学び現場で役立つ英会話力を身につける。授業はテーマと場面設定等を複数提示し、それに応じたペア、グループなどを組み、英語でコミュニケーションをとりあうことを重ね、実践に役立てられる英会話力を身につけることを目指す。また福祉英語検定への挑戦の機会としたい。	
基礎 科目	社会	観光学 国を挙げて力を入れている観光・ツーリズムとはなにか、基本的なものを学ぶ。 移動・交流に係る観光を支える産業（旅行、宿泊、観光産業等）の特性や事業の仕組みについて、及び、日本各地の観光振興事業等、観光客を受け入れる地域の様々な取り組みなどについて学ぶ。 また、OTA（オンライントラベルエージェント）、インバウンド（訪日外国人旅行）、民泊など、近年の動向についてもとりあげる。	
基礎 科目	社会	経営学 経営について初めて学ぶ学生が興味を持てるように、経営学の基礎的な内容を、実務家教員がビジネスパーソンとして直面した経験・事例の紹介を交え、実践的な授業を行う。 経営者・マネジメント層の役割について解説する。 ヒット・モノ・カネ・情報あるいは昨今注目されるデザインといった側面から経営の基礎について分かり易く解説する。 理論的な解説を土台にしつつ、学生自らが主体的に調査し、議論するプロセスを重視する観点から、グループディスカッション及びプレゼンテーションの機会を設け、実践的な学びの場を提供する。	
基礎 科目	社会	音楽文化論 音楽は趣味として楽しむだけでなく生活の中の様々な場面で活用されており、保健医療の現場も例外ではない。生物と人類の歴史の中で音楽はどのように生まれ、どのような社会的機能を果たしてきたのか、様々な文化の中でどのように発展し、また変容してきたのかを、民族音楽学・音楽人類学・音楽社会学の視点から、西洋音楽・ポピュラー音楽・日本の音楽の歴史を通して見てゆく。最後に、保健医療の現場での音楽の活用例について紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	社会	法学 法律を初めて学ぶ学生でも興味を持てるように、日常の社会生活における身近な事例を通して、法律の基礎知識や原則を分かりやすく講義する。具体的には、毎回の授業において、人権侵害、契約トラブル、犯罪行為、パワハラ・セクハラなどの事例を検討する。その中で、憲法、民法、刑法、労働法の基礎を学習し、社会人として必要とされる法律に対する基本的な素養を身につける。また、学生の関心が高いと思われる医療・福祉現場での事故事例も取り上げ、従事者の刑事・民事上の責任について正しく理解する。	
基礎 科目	社会	国際関係論 国際関係論は、政治、経済、環境分野の今日的な問題を取り上げ、今日の国際社会が直面する諸問題についての問題意識、それら諸問題の解決、あるいは国際社会における日本の位置付けなどに対する関心を高め、国際的な視野・意識の醸成を図る科目である。国際的な事象、問題は極めて身近なものであることを理解し、1つ1つを考える機会を持つことが本科目の主眼である。日本の食料自給率は40%を下回って久しい。このことは、私たちの食卓が他国の生産現場と繋がっていることを意味する。なぜ、TPPが議論されるのか、地球環境問題はなぜ起こったのか、私たちは将来に向けてどのような他の国々と協力していくのか、グローバル化した世界の中で、私たちの前にある現実を、身近なトピックを取り上げながら検討し、自立した個人として自ら考え、行動するための知識を醸成する。	
基礎 科目	組織	職業倫理 職業倫理とは、「特定の職業に要請される倫理、または職業人に求められる倫理」のことをいう。職業人としての行動を律する基準・規範のことであり、多くの職能団体が職業倫理を定め、明文化している。医療福祉に係る限り、業務上、個人情報を得ることがあり、業務上で個人情報を得ることができる仕事には、すべて守秘義務が課せられている。仕事に従事する人一人ひとりが、職業倫理を持って働いていくことが求められる。最新の事例なども題材にして、「職業倫理」の涵養に努める。	
基礎 科目	組織	チームワーク概論 理学療法士は、保健医療の専門職として、その専門性を持ちながら、対象者とその家族の生活支援のために多職種や多くの社会資源とのつながりを活用していく視点も重要である。本科目では、講義により、保健医療の現場で行われているチームとしての連携のあり方を、今後に必要な性が高まる保健医療連携を念頭に、医療の回復期や介護保険関連施設での実践を中心に、多職種連携の基本的な考え方を教授する。このことにより、リハビリテーション職として必要な知識や態度を理解し、本学内での職種間の連携のための科目である「地域共生のための連携活動Ⅰ・Ⅱ」につなげることや実践現場での連携協働に向けた自らの課題解決能力を養うことを目標とする。	
基礎 科目	組織	リーダーシップ論 医療現場では多様な人材が、多様な考え方や背景をもとに業務に当たっている。そういった組織でリーダーシップを発揮するためには、従来のような統率型だけではなく、「チームと個人の成長を支援するリーダーシップ」が求められる。そのためにリーダーシップの二大機能である集団維持機能と課題達成の二大機能を理解し、支援型リーダーとして活躍できる考え方と手法を学ぶ。	
基礎 科目	組織	社会人基礎力 職場をはじめ地域活動や日常生活に欠かせない要素の一つがコミュニケーションである。近年、SNSの発達により利便性は高まったがFace to Faceの心を添わせたコミュニケーションが不足しているのは否めない。自発的なコミュニケーション能力を高めるには学生時代から習慣化させることが望ましい。経済産業省が提唱した3つの能力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を基軸に12の能力要素を授業に取り入れ、即実践できる人材の養成を目指す。またグループワークで協業し実行する「実践的な授業」を積極的に取り入れる。 セルフコントロールを基軸に平常心で相手の話を聴き、心を添わせた「相手を慮るコミュニケーション」を理解し、人間関係における意思疎通と信頼性の重要性を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	組 織	コミュニケーション論	社会人にとっての悩みの多くが対人関係の悩みといわれる。そして多様性のある人材が集まる組織や職場の中では、これだけコミュニケーションツールが発達していながらコミュニケーションの問題は多くの人々を悩ませている。この科目では、友好的なコミュニケーションを阻む要因を手掛かりに、コミュニケーションの主要スキルについて体験的に学び、活用できるようにする。さらに様々な対人関係の問題を効果的に解決する手がかりをつかんでいただくことをねらいとする。	
		国際協力論	国際協力について、国連の動きを中心に国際的な動向を理解する。日本政府の政府開発援助（ODA）、民間の国際協力や国際交流等の具体的な事例を元に、国際協力における参加型開発等の手法について解説する。さらに、「国際関係論」で教授した「地域に根ざした共生社会づくり（CBID）」について、より専門的に取り扱う。世界各国でのCBIDの展開事例を取り上げ、そのきっかけ、活動内容、活動の成果など、国際的に共生社会を推進するための考え方を学ぶ。	
基礎 科目	地域・ボ ラン ティ ア	スポーツボランティアⅠ	ボランティアとはなにか、自分は何ができるか、何のためにするのかを学ぶ。さまざまな領域で行われているボランティア活動を通じて、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深める。さらに、スポーツ活動に対する支援活動（地域、高齢者、障がい者等）に焦点をあて、その価値、意義、役割、実際の活動について理解すると共に、専門職としての知識を生かし、障がい者スポーツについて理解する。また、一人の人間として、将来の医療・福祉専門職として、ボランティアに自分がどう関わるのかについて考える機会とする。	
基礎 科目	地域・ボ ラン ティ ア	スポーツボランティアⅡ	スポーツ関連団体（日本障がい者スポーツ協会等）と連携し、学生がスポーツイベントの運営に関わる機会を設け、ボランティアとして参加する。スポーツイベントを「競技の場」として捉えるだけではなく、障がい者の「社会参加の場」と位置付け、ダイバーシティ社会を実現するために何が必要かを体験的に学ぶ。イベント終了後、振り返りのグループディスカッションを行い、様々な知見に触れる中で実践力や応用力の醸成につなげる。また、障がいのある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためには、既存のルールや用具をどのように工夫したらよいかを実技を通して学ぶ。	
基礎 科目	地域・ボ ラン ティ ア	地域ボランティア論	ボランティア活動の思想、全国の活動の実態、地域におけるその意義や課題等について多角的に考察する。「ボランタリズム」理念の理解、欧米と日本のボランティアに関する認識や活動実態の比較、ボランティア活動の先進事例、ボランティア活動とNPO法人活動の相違等を理解する。欧米のシチズンシップ教育やサービス・ラーニングについての理解も深める。日本のコミュニティ再興の柱の一つといわれるボランティア活動を、地域の中でどのように展開し根付かせていくことができるか、ボランティアコーディネーターの資質とはどのようなものか等を深く考察することで、将来、地域ボランティアのリーダーになりうる人材の養成を目標とする。	
基礎 科目	地域・ボ ラン ティ ア	地域防災	わが国における防災行政、地域防災計画、市民活動による防災のまちづくり等、地域防災の理論と実践について学ぶ。前半では、日本の災害の歴史、災害の地域特性、防災および災害支援行政の変遷について理解する。後半では防災のまちづくりとソーシャルワーク、「防災福祉」概念、学校および福祉施設における防災活動、地域における防災・減災ネットワークの構築等について学ぶ。地域防災に取り組む先進自治体の事例や災害ボランティアの事例を多く学び、防災ゲームの体験ワークショップ、地域特徴別の防災マップ比較検討のグループワーク等を行うことで、受講生に地域防災のリーダーとしての資質や実践力を涵養することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	科学	建築・まちづくり	建築及び都市計画・まちづくりについての基本的知識を修得する。建築については、建築物の設計や建築計画の基本を学ぶとともに近年の建築物において注目されている視点や事例について学ぶ。都市計画・まちづくりについては、法制度に基づく都市計画の基本を学ぶとともに、都市開発や都市基盤の整備の考え方や、地域レベルのコミュニティ形成、まちづくりのプロセス、その主体のあり方などについて学ぶ。また、福祉政策とまちづくりなど専門科目との関係や、官民市民が連携した地域のマネジメントや公共空間の利活用のあり方など、この分野で注目されている取り組みや事例について学ぶ。	
基礎 科目	科学	統計学序論	医療・福祉へ携わる際に、確率と統計に関する基礎的知識は、臨床や研究の分野で必要である。特に統計学を学ぶにあたり確率及び統計について基礎的な知識の修得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方を認識できるように統計の見方、考え方、応用と具体的な計算方法を学ぶ。なお、はじめて確率・統計を学ぶ者にとっては、統計学への理解を深めるために必要な内容を学修する。	
基礎 科目	科学	統計学	本講義では、仮説をデータに基づいて統計的に検証したり、データ解析の結果から、新たな事実を発見したりするときに役立つ統計的手法を身につける。講義はデータの整理の仕方、平均、分散等を求める記述統計学より始め、確率、母集団、標本抽出、確率分布を学び、探索データ解析を行い、最終的に推定、検定といった推測統計学を解説、演習する。演習は統計ソフトRコマンドーを使用し、結果の解釈や使用法の注意点を理解できるようにする。本講義は「理学療法研究法」の基礎となる科目である。	
基礎 科目	科学	生物学	生物学では、個々の生物のあらゆる構造（造り）や性質について、その特性や機構を分子レベルに至るまで学修する。さらに生命の起源、生物の多様化、ヒトの起源と進化を学び、次に、生物の集団、動物の社会、生態系のエネルギーの流れを学び、生物と環境とのかわりを学修する。最後に、地球環境とヒトとの共存を理解すべく、人間活動による環境への影響を学修する。	
基礎 科目	科学	物理学	物理学は自然科学の中心的分野であり、多くの科学・技術を理解し利用する上で有用な学問である。今回は物理学の諸領域の中でも最初期に数理化に成功した古典力学の領域を中心に講義を展開する。古典力学は日常感覚に近い領域であり、比較的簡単な実験によって様々な原理を確認することができ、入学以前に物理学に接したことがなかった学生も、無理なく履修できる。授業は自然科学を題材としたディベートや演示実験を実施する予定であり、アクティブな授業とし、既にある程度物理学を理解している学生にも十分な内容である。	
基礎 科目	科学	情報リテラシー	コンピュータとインターネットは20世紀終盤から今世紀にかけて急速に普及し、生活とビジネスの仕組みを大きく変えた。今後の情報系科目の基盤として、コンピュータとインターネットの基本的な仕組みと効果的な使い方、セキュリティの課題と対策を中心に学ぶ。情報分野の基礎概念と各種用語の正確な理解、情報システムの基本的な構成と利用、アルゴリズムの基礎概念、機械学修・認識技術の基本について学ぶ。	
基礎 科目	科学	ICT概論	ICTを代表するものとしてクラウドサービスとIoT（Internet of Things）に焦点を当て、AIとともに、その特徴と今後の動向を身近な適応事例としてのスマホアプリや音声認識サービスの体験を通して学ぶ。次に、ICTの進化による医療福祉分野における今後の活用見込みについて、省力化とQOLの向上の観点から、同分野におけるこれら技術の適応事例における考察結果も踏まえて学ぶ。	
基礎 科目	科学	健康科学	運動不足、飽食、不規則な生活習慣を送る者が多い現代人の生活様式では、生活習慣病のリスクが大きくなっている。健康作りの3要素である運動、栄養、休養を中心に講義し、対象者や自分自身の健康を維持、増進するために健康に関わる基本的な知識を修得することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	科学	食と健康 この科目は、食生活の観点から「健康」について考え実践していくことを目的とする。 氾濫する様々な情報から適切な知識を選択し、活用していくスキルを習得することでバランスの良い食生活を実践し、健康を維持・増進していく力を養う。 また、食事の在り方や留意点などの基礎知識・技術を身につけ、自ら献立を考え調理できる能力を習得する。	
基礎 科目	科学	化学 化学は物質の構造や性質さらにそれらの相互の反応を研究する学問であり、様々の有用な物質に関わり、興味深い理論体系を持ち、我々の体内で起こる様々な現象を説明するツールである。今回は化学の諸領域の中から、基礎となる理論化学と無機化学を中心に講義を展開する。化学では、個々のバラバラに見える性質が、実はある種の関連を持っているということを認識することが大切であり、物質たちの相互の関係をいかに少ない原理で統一的に理解するかというところである。授業は自然科学を題材としたディベートなど、単純な座学とはしない。	
職業専門 科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ 人体は、200個ほどのさまざまな形や大きさの骨とその骨を連結する関節からなる骨格系、それらの骨に付着して身体の運動や姿勢の保持などに関与する約400個の骨格筋からなる筋系、心臓とそれに続く血管およびリンパ管とリンパ節などからなる循環器系、胃や腸および肝臓や膵臓などを造りあげる消化器系など、合計10の系統で造られている。この人体の造り（構造）を学ぶのが解剖学であり、解剖学はこの後に学ぶ人体の働き（機能）を学ぶ生理学などの科目の入り口となる重要な学問である。本科目では、人体を構成する10系統の内、骨格系と筋系および循環器系の構造を学習する。	
職業専門 科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅱ 本科目では、神経系（脳と脊髄からなる中枢神経系、脳神経、脊髄神経および自律神経系からなる末梢神経系）と感覚器（視覚器、平衡聴覚器、皮膚）、および内臓と呼ばれる消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の合計7系統の構造を肉眼および微細構造レベルで学修する。これらの系統では始めにその器官の発生を学び、なぜその器官が人体のその位置にあるかなど、胎児の時期に受けた障害が原因で形成される先天性奇形の理解に役立つ少しレベルの高い知識も修得する。	
職業専門 科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学実習 本科目では、「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」の講義で学んだ解剖学の知識を、実際の骨・筋の人体標本やプレパラート標本、DVD等の視覚教材等により、「見る」「触る」「動かす」等の学生自身の体験を通じて理解を深める。 また、学生同士による視診・触診・聴診等の方法により、人体における筋・骨・内臓器や感覚器等の部位や位置関係、大きさ等を体験することにより、「身体構造」と合わせて「心身機能」の理解につなげることを目標とする。	
職業専門 科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅰ 生理学とは生体の正常機能について研究する学問分野である。生体内の各細胞・組織・器官の個体維持における役目を理解する。神経系が関与する部分は生理学Ⅱで取り扱い、生理学Ⅰでは、生体の持つ調節機構の概説に始まり、細胞膜、細胞膜にあるタンパク、興奮性細胞の性質、興奮伝導、細胞間の情報伝達、筋収縮機構については分子レベルから、心臓を始めとする循環器、呼吸器、泌尿器、消化器それぞれは器官としての機能について学び、エネルギー消費の観点から代謝についても学ぶ。講義だけではなく、適宜に課題を設定し、学生自身で考えることで理解を促す。	
職業専門 科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅱ 生理学では生体の正常機能について学修する。生理学Ⅰで取り扱わなかった神経系を中心に学修する。末梢神経系（体性神経系、自律神経系）、中枢神経系（大脳皮質から脊髄まで）のニューロンの構成と機能を学修し、体性感覚と特殊感覚である視覚、嗅覚、味覚、聴覚、平衡感覚について求心性情報から大脳での情報処理機構とその出力について学ぶ。睡眠、記憶のメカニズムについても言及し、さらに内分泌、血液、免疫についても、個体の正常機能を維持するという観点から学修する。講義だけではなく、適宜に課題を設定し、学生自身が考えることで理解を促す。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学実習	講義で学んだ生体の正常機能について実験を通して学修する。実験データを取りまとめるための最小限の統計処理方法を学習し、浸透圧の計測のような物理化学的なレベルから前庭動眼反射に至る個体あるいは器官レベルでの生体の持つ統御メカニズムについて実験を通して学修する。医療機器の測定原理からその取り扱い方法を学習しつつ、医療人として常識となるバイタルサインの計測、体力の計測、体液pHの維持機構、神経伝導速度の計測、筋活動の記録と分析、反射の記録・解析等を行い科学的なレポートを書くことができるようにする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学Ⅰ	本科目では、人間の運動（動き）を理解する上で必要なトルクや速度、また重力や時間的な変位などの基本的な知識を中心として、講義により学ぶ。 本科目の内容は、力学的な基盤とともに、運動生理学につながるような基礎代謝、呼吸・循環、疲労等を含み、人間が運動する（動く）ということを解剖学・生理学等の知識を統合しながら、理解することを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学Ⅱ	本科目では、「運動学Ⅰ」の基本的な知識を基盤として、人間の運動（動き）を理解する上で必要な時間的な連続という概念から関節運動を統合した観点から運動について講義により学ぶ。 本科目の内容は、静止姿勢や姿勢の連続した変換という視点での運動に至るイメージを、座位・立位といった姿勢の維持調節、寝返り・立ち上がり・歩行といった連続した姿勢変換の結果の運動（動作）等について、人間が運動する（動く）ということを解剖学・生理学等の知識を統合しながら、理解することを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学実習	本科目では、解剖学や生理学を基盤としながら学んだ運動学の講義の知識を基盤として、「運動」がどのようにして起こるのか、どのように調節しているのか、どのように理解すべきか等の観点から、「運動（動き・動作）」について学生同士の体験実習等により学ぶ。 本科目の内容は、運動生理学の講義内容の体験実習に加えて、動作分析・解析を「歩行分析」等を題材として、動画再生による視覚的な分析のほか、動作解析機器や反力計等の機器計測によるデータ抽出を検討し、レポート等にまとめることを通じて、「運動（動き・動作）」について理解することを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動生理学	本科目では、「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した知識と「生理学実習」による実験的な体験による理解を基盤として、理学療法の実践に結び付くような人間が運動（動く）ことによる生理学的な機能に着目した内容を講義により学ぶ。 本科目の内容は、運動に着目した観点から、「運動と呼吸機能」「運動と循環機能」「運動と筋疲労」「運動と栄養（消化と吸収含む）」「運動と代謝」「運動と消化・排泄」等のテーマを設定して、理解を深めることを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	本科目では、発育・成長・発達（狭義）を新生児期から終末期までを発達（広義）に捉えて、運動発達と精神心理的な発達を中心として、講義を通じて学ぶ。特に、成人から老年期、終末期では、さまざまな退化や退行による課題も一連の流れとして捉えることやライフサイクルという観点からの対人関係やコミュニケーション、また成人期以降の退化・退行などについての「ひと」としての一生涯という全体的な観点で理解することを目標とする。	
職業専門科目	疾病と障害の回復の過程	病理学	本科目では、疾患の成り立ちやメカニズムについて、組織学的な理論を基盤に「正常な状態」から逸脱した状態という「病気」の原因についての基本的な考えを、講義により学ぶ。 内容としては、解剖学や生理学の基本的知識を踏まえながら、プレバートなどの病理標本等を観察することで、病気（疾患・疾病）等の原因とその治療に対する考え方を、発展的に理解することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	ち 疾 及 病 び と 回 障 進 害 復 過 程 の 成 り 促 立	臨床心理学	臨床心理学は、医療専門職として臨床実践する際の基礎（コア）となる学問である。患者のニーズを的確に把握し、患者から信頼されるためには、臨床心理学の知識と対人援助スキルは必要不可欠である。具体的には、フロイト精神分析学の基礎や認知行動療法、医療実践において必須であると考えられるロジャーズの対人援助技法としての傾聴技法や共感技法などのカウンセリング技法から各種心理検査法、各種心理療法の基本的な考え方や実践法までについて、座学と演習を通して学ぶ。	
職業専門科目	立 疾 病 と 及 び 回 障 害 の 促 進 復 過 程 の 成 り	精神医学	本科目では、診断学と治療学を基本とした総論と器質性・気分障害等の疾患疾病による病理や治療法に当たる各論を中心として、精神心理的な疾患疾病（認知症を含む）について、講義を通じて学ぶ。内容としては、診断のための各種検査とその結果の考え方（CTなどの読影を含む）、治療学としての行動療法やその他の治療方法とともに、精神心理的な病因から表出する行動に対して、理学療法の治療的理論の適応について応用的に理解することを目指す。	
職業専門科目	疾 病 と 障 害 の 回 復 過 程 の 成 り 立 ち の 促 進	整形外科学	本科目では、整形外科領域における外傷学等の総論と各身体部位等による各論により、理学療法の対象となりやすい骨折や筋・腱損傷、脊髄損傷等の神経障害、骨軟部腫瘍とともに切断などの診断と治療の各論について、また、ロコモティブシンドロームなどと健康寿命の延伸との関係についても講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査結果の考え方（X線、CTやMRI等の読影を含む）や観血的治療などの治療方法、その他の保存的治療法について、理解する。 なお、がんによる骨転移等についても、本科目で取り扱う。	
職業専門科目	ち 疾 及 病 び と 回 障 進 害 復 過 程 の 成 り 促 立	神経内科学	本科目では、神経内科領域における疾患疾病の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と脳血管疾患、神経・筋疾患、変性疾患（認知症を含む）等の診断と治療の各論について、また、神経内科領域における疾患疾病の在宅医療についても講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査結果の考え方（CTやMRI等の読影を含む）や投薬等の治療方法について理解する。 なお、脳血管疾患や頭部外傷等に起因する高次脳機能障害や認知症に伴う認知機能障害についても、本科目で取り扱う。	
職業専門科目	疾 病 と 障 害 の 回 復 過 程 の 成 り 立 ち の 促 進	小児科学	本科目では、小児科が対象とする0歳から16歳までを中心とした年齢期に発症等による疾患疾病の発現機序等の診断（検査含む）等の総論と感染、代謝、神経・筋等の疾患疾病の診断と治療の各論について、講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査の結果の考え方（X線、CTやMRI、その他の発達学的諸検査を含む）や投薬等の治療方法について理解する。 なお、新生児期に関連する周産期や胎児期からの染色体異常等、また年齢に因らず治療を必要とする場合の青年期や成人期等の対象についても、可能な限り本科目で取り扱う。	
職業専門科目	ち 疾 及 病 び と 回 障 進 害 復 過 程 の 成 り 促 立	内科学	本科目は、内科領域における疾患疾病の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と呼吸器・循環器・消化器・代謝・感染症等の診断と治療の各論について、講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査の結果とその考え方（血清・生化学、X線、CT・MRI等を含む）や投薬等の治療方法について理解する。 特に、糖尿病、高血圧等の生活習慣病等、その危険因子等の理解についても、健康寿命の延伸との関係を含め、本科目で取り扱う。	
職業専門科目	疾 病 と 障 害 の 回 復 過 程 の 成 り 立 ち の 促 進	老年医学	本科目では、老年医学が対象とする加齢に伴う機能的変化を主変とする疾患疾病の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と内科疾患を中心とするほか、認知症を含めた診断と治療の各論について、またフレイルなど健康寿命の延伸の阻害要因なども、講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査の結果とその考え方（認知機能評価、CTやMRI等を含む）や投薬等の治療方法について理解する。 なお、がんに限らず、終末期や緩和ケアの考え方や見取り、健康寿命の延伸についても本科目で取り扱う。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	り疾病 過程 の及 障 害 の 促 進 の 復 成	救急救命の基礎	本科目では、救急救命の基本的な理論と実際について、一般的に身につけるべき対応を、実技（実習）を通じて学ぶ。 内容としては、ABCDEアプローチ、気道の確保、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの取扱い等のほか、外傷の応急手当（止血法）、傷病者の管理（安全確保）や搬送法等を体験することで、救急救命の必要性の理解と基本的な行動について体験する。	
職業専門科目	ち疾病 及び 障 害 の 復 過 程 の 成 り 促 立	薬理学	本科目では、治療の1つである薬物療法について、生体に対してどのような影響を与えるのかという効果の機序等の基本的な考え方を、講義を通じて学ぶ。 内容としては、炎症、免疫や代謝等の病因別、呼吸器・循環器といった臓器別、腫瘍等の疾患疾病等に対する効果の機序とともに有害事象についても理解する。 なお、本科目では、最近のトピックスや過去の薬剤訴訟等についても、できる限り取り扱う。	
職業専門科目	疾病 及び 障 害 の 成 り 立 ち の 促 進	栄養学	人の生命の維持や日常生活活動をするために栄養素を摂取し生体内で代謝としてエネルギーを取る。食事療法や栄養学を学ぶことは、療法士が管理する多くの健康状態の重要な要素のひとつである。その過程を学習し、リハビリテーションに関わる質の高い治療を実践するために学ぶことが必要である。積極的に障がい者や高齢者の栄養状態・栄養素摂取の方法や維持を理解することで、身体機能・日常生活活動・社会参加、QOLを最大限高め、質の高い栄養素を論理的に学習する。また、疾患の予防や治療に必要な回復力や機能維持のための専門的な知識と実践力を身につける。	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	本科目では、医学的・心理的・社会的・職業的リハビリテーションのうち、「医学的リハビリテーション」を中心として、疾患疾病・外傷等に伴うさまざまな障害に対して、その障害の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と対象とする疾患疾病・外傷等による障害の診断と治療の各論について、講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断に必要な各種検査（X線、CTやMRIの読影を含む）や治療方法としての作業療法・理学療法・言語聴覚療法等に対する指示内容、特に適応と禁忌のうち運動負荷の程度や運動・動作上の禁忌（運動方向の禁止等）等について、理解する。	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	本科目では、リハビリテーションを学ぶ上で必要なノーマライゼーションやIL（Independent living：自立生活）の考え方、また欧米と日本のリハビリテーションの考え方の相違などを学ぶ。 また、関連するさまざまな職種が、どのような定義に基づいて、どのようなことをしているのか、またどのような場所（施設等）で働いているのか等について知ること、自職種の専門性と他職種の専門性について理解する。	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	公衆衛生学	本科目では、地域保健、環境保健、産業保健や学校保健、母子保健等の幅広い領域を持つ公衆衛生のうち、疾病予防、生命の延長、心身の健康の維持・向上を図る方法等について、講義を通じて学ぶ。 内容としては、生活習慣改善等の健康増進、検診を受診すること等による早期発見・早期治療、社会生活維持のための社会復帰等を含めた健康寿命の延伸に関わる様々な課題とその解決について理解する。	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域福祉論	地域福祉の基本的な考え方、歴史、地域福祉を推進する様々な組織や団体について理解する。前半は古代から現代までの、地域福祉の歴史的発展について学ぶ。わが国の現在の地域福祉の様相と課題を、政治・経済・文化の歴史的展開という視点から理解する力を身につける。後半は、在宅福祉サービスの発展と課題、社会福祉協議会の機能、NPO法人の実践と課題といった地域福祉を推進する様々な機関や人材について学ぶ。これらを通じて、コミュニティワークからコミュニティ・ソーシャルワークへの変遷と現代の地域福祉の課題について考察する。また受講生の地域福祉への関心を深めるため、地域課題別のNPO法人立ち上げのワークショップも行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域共生のための連携活動Ⅰ 2025年の地域包括ケアシステム構築のために、各自治体は、様々な取り組みを試行している。その人が住み慣れた地域でその人らしい生活を送るといった、保健医療福祉等の生活支援にかかわる諸サービス・諸活動を一体的かつ有機的・効果的に展開していくためには、当事者である本人とその家族を中心として関連する専門職間の連携・協働と地域住民のネットワーキングが不可欠なものとなる。この講義では特に、本人とその家族が生活するための地域社会における専門職の役割、地域住民の主体的参加、関連専門職の連携・協働と地域住民との相互的関係づくりを通して、いかにしたら地域共生の実現に向けての礎ができていくのか、多面的かつ具体的・実践的に学ぶことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （ ㊶ 柳澤 孝主／9回） 地域共生の連携活動における各種制度を担当 （ ㊵ 中村 泰規／6回） 各種制度を学修した上で、リハビリテーション職・理学療法士としての事例を担当。	オムニバス方式
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域共生のための連携活動Ⅱ 地域共生社会の創造や地域包括ケアシステムの構築に当たっては、それぞれの地域の特性に応じた職種間の連携・協働、また、対象者とその家族とのつながりが重要である。この科目では「チームワーク概論」、「地域共生のための連携活動Ⅰ」で修得した知識を基盤として、学科を横断した小グループでインタビューなどのフィールドワークにより周辺地域での現状やニーズの把握や抽出の方法等について学ぶ。グループワークの結果については、発表のためのプレゼンテーションを行うために内容を整理すると共に、他の症例や事例を共有することで広く実践に資する関連職種との連携や協働、対象者とその家族とのつながりをもつ能力を養う。	共同
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	予防理学療法 理学療法士の活動範囲は医療保険、介護保険分野におけるリハビリテーションに留まらず、健康寿命の延伸のための予防を目的とした介入へと広がっている。他の専門科目の一部として触れられてきた内容を、予防理学療法学という視点で理学療法士の役割、活動内容を整理することで、健康寿命の延伸に関わるための基礎的な知識を身につけることを目的とする。	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医療工学 リハビリテーション医療工学は、機能障害や能力障害の問題に対して工学的アプローチを用いて解決を考える学問である。本科目では、医工学で必要な計測を学び、近年、加速的に広がつつある工学的アプローチを理学療法士の視点から理解することを目的とする。	
職業専門科目	基礎理学療法学	基礎理学療法概論 理学療法概論は、専門職としての理学療法士の必要性や業務内容について、理学療法の歴史と今後の展望や、関連法規、職業内容等を解説し、理学療法各分野の活動や入学後の学修活動に必要な事項をとりあげて解説する。また、理学療法の対象となる疾病や傷害を理解し、基本的な理学療法を紹介・体験する。さらに理学療法の手法、理学療法を展開する施設別と急性期、回復期、維持期における時相別の理学療法の専門性とその役割、地域包括ケアを踏まえた多職種連携等についても学修する。	
職業専門科目	基礎理学療法学	理学療法研究法 理学療法研究を通して、理学療法領域における課題を探索し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定を中心に展開する。それら一連の研究過程を経て、問題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶ。併せて、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、動物実験の適正な実施に向けたガイドラインなどを通して研究倫理について理解する。また、各専門研究分野におけるトピックスについて紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	基礎理学療法学	運動療法学総論	理学療法の主たる治療手段である運動療法の基礎知識として歴史および変遷、運動療法の概念、身体機能と運動、基本的な運動療法の種類や適応と禁忌を学び、様々な機能障害に対する運動療法の実践に際し、関節可動域運動、筋力増強運動、持久力増強運動、協調性運動などの各種運動療法の目的、効果、基本的な進め方や運動内容を学修する。
職業専門科目	理学療法管理学Ⅰ	理学療法士の健康の維持・増進や疾患の治療のために行われる様々な活動についての概要を学ぶ。さらに保健、医療、福祉など様々な領域において就労する理学療法士としての心構え、接遇、マナー、インフォームドコンセント、守秘義務、インシデント・アクシデントなどについて学修する。また、ロールプレイ等のシミュレーションを通して、理学療法を享受する対象者およびその家族の心理状態、生活環境の変化や問題点などについて理解する。	
職業専門科目	理学療法管理学Ⅱ	理学療法士は、様々な職種で就業しており、各職域に応じた管理安全対策について理解する必要がある。医療機関に限らず、施設、地域などさまざまな場面での医療安全および管理方法について学ぶ。また、安全文化を形成するための、施設組織および実践活動のシステムの理解を深める。その上で危機状態の問題解決、システム変革などの方策を学修する。	
職業専門科目	理学療法評価学	基礎理学療法評価学	理学療法における評価の目的、対象、方法、記録、解釈までの一連の流れを学ぶ。理学療法評価として基本的な問診、観察から基本的な形態計測、関節可動域、筋力の評価能力を学修する。また、評価に必要な情報の収集、評価結果の記録方法、問題点の抽出から、理学療法プログラム作成まで一連の手法を理解する。
職業専門科目	理学療法評価学	基礎理学療法評価学実習	基礎理学療法評価学で学修した基本的な評価技術について実習を行い、基礎理学療法評価技術を高めることを目的とする。問診、観察から基本的な形態計測、関節可動域、筋力の評価までを実際に行い、基本的な身体運動機能評価法を理解するために必要な技術を修得する。
職業専門科目	理学療法評価学	運動器理学療法評価学	運動器理学療法は、骨、関節および骨格筋等における運動器疾患を対象として理学療法が実施される。運動器理学療法評価学では、各運動器疾患における病態の特徴と評価方法について学修し、各運動器疾患の病態に対する理学療法の理解を深める。
職業専門科目	理学療法評価学	運動器理学療法評価学実習	運動器理学療法評価学実習は、運動器理学療法評価学で学修した運動器疾患を対象とした評価方法と技術を実習し、習得することを目的とする。また、運動器疾患における病態の特徴と評価方法について、実習を通してさらに理解を深める。
職業専門科目	理学療法評価学	神経理学療法評価学	神経理学療法評価学は、反射反応、意識、高次脳機能、ADL、動作分析など神経理学療法領域で共通して用いられる検査手技を学修し、障害像を把握するための具体的評価方法について修得する。併せて、疾患ごとに行われる個別の検査、評価方法を学び、障害の重症度や問題点を把握する方法を学修する。
職業専門科目	理学療法評価学	神経理学療法評価学実習	神経理学療法評価学実習は、神経理学療法評価学において学修した反射反応、意識、高次脳機能、ADL、動作分析など神経理学療法領域で共通して用いられる検査手技を実習し、障害像を把握するための具体的評価方法について習得する。併せて、神経疾患ごとに行われる疾患別の検査、評価方法についても実習し、障害の重症度と問題点を把握する方法を学修する。
職業専門科目	理学療法評価学	内部障害理学療法評価学	内部障害理学療法評価学は、内部障害の病態を適切に理解したうえで、各病態に起因する身体運動障害の要因を明らかにするための検査・測定法および理学療法評価法について学修する。また、内部障害により生ずる身体運動機能への影響についての基礎知識を修得する。

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法評価学	内部障害理学療法評価学実習	内部障害理学療法評価学実習は、内部障害理学療法評価学において学修した内容を踏まえて、内部障害の各病態に起因する身体運動障害を正確に評価し、各内部障害の病態を把握するために必要な検査・測定法を実習を通じて学修する。また、呼吸機能、循環機能代謝機能検査の目的や実施方法を習得し、得られた情報を解析・分析したうえで、内部障害患者に対して適切な検査項目を選択する能力を習得する。	
職業専門科目	理学療法治療学	物理療法学	物理療法は、理学療法における治療手段の一つであり、物理療法が身体に与える影響について正しく理解することが必要である。物理療法学では、物理療法で用いる物理的エネルギー特性を学修し、物理的エネルギーによる生体反応を学び、物理療法の概論、温熱療法・エネルギー変換療法・超音波療法・寒冷療法・電気刺激療法・光線療法・力学的機器を用いた治療法・水治療法、適応、禁忌を理解する。物理療法は、物理的エネルギーを適切に身体へ適用することが重要であることから物理療法による生体反応の理解を深め、物理療法実施前後における身体の評価方法を理解する。	
職業専門科目	理学療法治療学	物理療法学実習	物理療法は、物理的エネルギーを適切に身体へ適用することが重要である治療法で、物理療法機器の特性と操作方法を学び、実際に物理療法において用いる各機器を使用し実習を行う。さらに、機器を用いた実習より物理療法による生体反応および物理療法前後における身体の評価方法を理解する。	
職業専門科目	理学療法治療学	義肢装具学	義肢補装具療法は、理学療法治療の基本的介入手段であり、正しく義肢装具の概念とその歴史を解説し、義肢と装具の種類、構造、適応について理解していることが求められる。また、義肢と補装具の役割や位置づけを各領域におけるリハビリテーションの視点から理解を深め、様々な障害に対応した義肢装具治療、及び日常生活活動や参加に対して必要とされる補装具についても学修する。	
職業専門科目	理学療法治療学	義肢装具学実習	義肢装具学実習は、義肢装具学で学修した知識を実習を通じて生体力学、バイオメカニクス、装具の構造、使用する部品、組み立て修理について理解をする。義肢装具療法における実際に使用される義肢装具の目的・機能的分類・身体に使用する部位別の分類について学修を行う。さらに、義肢装具の作成手順や適合等について理解し、実践できるようにする。	
職業専門科目	理学療法治療学	日常生活活動学	高齢者や障がい者による、日常生活に生じる問題点を理解し、日常生活支援に必要な日常生活状況の分析・評価方法について学修し、在宅医療、介護予防の視点を含めて地域社会で生活する高齢者や障がい者の生活の質の維持・向上に向けた工夫と指導方法、プログラム立案について、講義により基礎理論を学ぶ。また、日常生活活動の概念、範囲、意義を学修する。特に国際生活機能分類(ICF)との関係の中で日常生活の質を改善することの意味への理解を深める日常生活活動の障害程度を測定するための方法を学び、障害像や障害程度により異なる日常生活活動への援助のための具体的方法を学修する。	
職業専門科目	理学療法治療学	日常生活活動学実習	日常生活活動学実習は、障害像や障害程度により異なる日常生活活動への援助のための具体的方法のうち、基本的に共通項目となりうる疾患特異的ではない基本的な日常生活活動の障害程度を測定する方法を実際に実習し、理学療法対象者への日常生活活動の援助や介入方法を体験する。	
職業専門科目	理学療法治療学	運動器理学療法学	運動器理学療法学は、整形外科疾患等に起因する骨・関節機能障害に対する理学療法を修得する。そのために、関節の機能解剖学、病態運動学を学び、各種疾患の障害に対する知識を深め、各種の骨折や変形性関節症などに対して術前後の状態に応じた評価、治療、リスク管理の実践を学ぶ。また、情報収集、画像診断、電気診断のポイントを理解し、各種疾患に対し最善の理学療法を行えるよう、各種運動療法技術や物理療法の効果と、疾患への適応を学ぶ。ロコモティブシンドロームなど在宅医療・介護状態との関連や、その予防としての健康増進について含めて考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法治療学	運動器理学療法実習	運動器理学療法実習は、整形外科疾患等に起因する骨・関節機能障害に対する理学療法技術を、実習を通して習得する。そのために、関節可動域改善のための関節包内運動やストレッチ、疼痛抑制や筋力・持久力増強、協調性向上のための理学療法技術を実習する。また、物理療法効果の検証を行い、運動器疾患に対する理学療法の実施に向けた立案を考える。	
職業専門科目	理学療法治療学	神経理学療法学	中枢神経系疾患に対する理学療法の基本的知識を概説し、評価から治療までの流れについて理解を深める。主に脳血管障害、パーキンソン病、運動失調などの各疾患に対する基本的な理学療法を概説する。神経障害に伴う機能解剖や神経生理を理解したうえで、それぞれの疾患・障害による神経疾患の障害像の見方と画像診断によって理学療法の実践を学修する。障害を持ちながらの日常生活での指導管理に関する知識を深めるとともに、一方で在宅医療・介護予防の視点を含めて障害予防としての生活指導を見据えた理学療法の展開ができるよう指導する。また、脳血管系疾患に代表される生活習慣病予防のための健康増進の考え方についても学ぶ。	
職業専門科目	理学療法治療学	神経理学療法実習	中枢神経系疾患の理学療法の基本的知識技術を実習し、実際の評価、検査・測定、問題点の抽出、目標の設定、プログラム立案ができるよう概説する。様々な中枢神経系疾患に対する運動療法介入について実技指導を実施する。更に、代表的疾患を症例として検討を深め、臨床的応用につなぐことができるように学修する。臨床的な対応について検討を深める。	
職業専門科目	理学療法治療学	内部障害理学療法学	内科疾患(代謝系・呼吸器・循環器疾患・悪性新生物)により生じる病態像と内科疾患による障害像を理解した上で、内科系疾患に対する理学療法展開方法を学修する。 主に代謝系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、悪性新生物に関する医学領域知識に触れながら、各疾患病態に対するリスク層別方法や対処方法を提示する。また、内科障害を評価する諸々の評価指標(身体所見、臨床検査データ等)のとりえ方や確認方法、及び臨床場面における理学療法介入を示す。さらに、生活習慣に起因する様々な内科疾患の予防と健康増進を通じた健康寿命の延伸の為の対応について学ぶ。	
職業専門科目	理学療法治療学	内部障害理学療法実習	疾患ごとの問題点を通じて、医療現場で役立つ知識や技術を修得することを目的とする。内部障害理学療法を修得することで、運動負荷試験・排痰法、吸引法の基本的な手技を実践し、理学療法におけるリスク管理についても理解を深めることができる。運動中の心拍数、血圧、酸素摂取量を実際に計測して、適切な運動強度を処方する技術を学習する。呼吸器、循環器、代謝などの機能障害により、健康が損なわれている患者の基礎的な解剖学、病理学などをしっかり学習した上で、適宜運動療法を実践できるように学修する。	
職業専門科目	理学療法治療学	小児理学療法学	小児理学療法は、代表的な疾患に対する評価から治療までの流れを理解し、評価および治療手技を健常な学生をモデルに実践ができることを目標とする。新生児期から成人期まで長期に渡り医療福祉教育の関わりが必要となることから、現時点での問題点のみならず将来的問題に対する知識を理解する。「療育」についての理解を深め、小児理学療法対象者・家族の支援を中心に地域療育についての概要や代表的な理学療法の進め方について学修する。さらに、正常発達に基づき次の発達段階に必要な運動要素について理解を深め、運動機能障害に対する基礎的な援助方法を学ぶ。	
職業専門科目	理学療法治療学	高齢者理学療法学	高齢者の特性として身体的・精神的に抱える問題を理解し、病院・施設・在宅などで展開される理学療法について総合的な知識を得て、安全に理学療法を遂行するために必要となる知識・技術、地域社会について学ぶ。また、高齢者の治療では多くの留意点を学び、生活期の高齢者特性を理解し、積極的に介入することが治療効果の向上につながり、地域医療・在宅医療とQOL・ADLの向上に貢献できる知識と技術を学修する。また、介護予防・健康増進の視点から健康寿命の延伸のために必要な事項について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法治療学	スポーツ理学療法学実習	スポーツ医学に基づいて、外傷・障害発生のメカニズムを、生体力学、運動生理学的視点から分析し、その評価、機能診断から理学療法、アスレティックリハビリテーションプログラムの実際について学ぶ。そのため、実際のスポーツ場面における姿勢・動作観察から障害の分析を行う。また、徒手的治疗やテーピングからマネジメントまで、その理論と実際について習得する。加えてスポーツ外傷、障害の予防策について学び、広い年齢層の健康増進についての視点を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法治療学	健康寿命の延伸 我が国は、医学の発達、生活水準の向上に伴って、世界トップクラスの平均寿命の国となった。一方、健康寿命との乖離が大きいたことが社会問題として指摘され、健康寿命の延伸により「寿命と健康寿命の差を限りなく縮める」ことが国家的な目標である。このためには、健康増進、介護予防のための様々な活動を生活の全ての場面で取り入れることが必要である。そして、理学療法士の有する知識、技能やその役割は、障がい者を有する人の社会復帰に留まらず、その原因となる疾患を予防し、多くの人が健康である社会を構築することにも役立てるべきである。また、健康とは単に医学的視点のみで考えるのではなく、世界保健機関（WHO）の健康の定義に謳っているように、身体的、精神的、社会的など人間を取り巻くあらゆる方向から考えることであり、理学療法士がどんな役割を担えるかを考える必要がある。 この科目では、これまで学修してきた知識や技能を基盤にして、多角的に健康について考え、健康寿命の延伸に広く活躍できる能力を身に付けることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （△ 田畑 稔／2回） 第9～10回：生活習慣病の予防と健康の維持・増進のための課題 （△ 沼田 憲治／2回） 第7～8回：中枢神経系疾患の予防と健康の維持・増進のための課題 （⑤ 佐久間 肇／2回） 第5～6回：公衆衛生学的視点からの健康寿命延伸のための課題 （△ 鳥居 昭久／9回） 第1回：オリエンテーションおよび健康寿命延伸のための学びについて 第2～4回：健康の概念と多角的側面から見た健康づくりのための課題 第11～12回：運動器疾患の予防と健康の維持・増進のための課題 第13～14回：健康運動・スポーツの実践と理学療法士の役割 第15回：まとめ	オムニバス方式
	理学療法治療学	在宅医療・介護の推進 超高齢社会の中で、住んでいる地域社会において医療、福祉サービスを受けられる体制を整備することが重要になり、その中心となっているのが地域包括ケアシステムの導入であろう。ここでは、本人や家族の選択の上で、介護予防、介護支援、医療や看護、リハビリテーションなどの要素を組み合わせ、地域社会における多角的な支援を目指している。理学療法士は、このシステムの中で、全ての要素に関わりをもち、在宅医療や介護予防、介護支援の中心として活動すべき職種である。 この科目では、これまで学修してきた知識や技能を基盤にして、在宅医療・介護の推進について学び、対象者の背景や環境など多様な側面を考慮して、在宅や地域における問題を解決するために活動できる能力を身に付けることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （△ 富田 義人／2回） 第12～13回：地域連携と包括ケアシステムにおける課題と方策 （△ 清宮 清美／6回） 第1回：オリエンテーションとこの科目の意義と目的 第2～3回：高齢者における在宅医療と介護支援の実践 第8～9回：生活環境における在宅医療と介護支援の課題 第15回：まとめ （△ 杉山 真理／2回） 第6～7回：日常生活活動に対する介護支援の課題 （△ 大塚 幸永／3回） 第10～11回：地域における理学療法士の役割 第14回：家族介護と社会的支援の総合的課題 （△ 佐藤 政広／2回） 第4～5回：重度心身障害児に対する在宅医療と介護支援の実践	オムニバス方式

授業科目の概要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法治療学	アスレティックリハビリテーション	スポーツ分野における理学療法は、単にスポーツ外傷やスポーツ障害への対応に留まらず、競技復帰に向けてのトレーニングや、再発予防のためのアプローチなどを含めて、それぞれの競技特性を考えた上での全体的な考慮が必要である。また、対象選手の体力特性やポジション、戦略などを考慮した個別のプログラムを立案、実践のための指導をする必要がある。スポーツ場面での怪我に対する治療や社会復帰までの過程をメディカルリハビリテーションと表現するのに対して、これら全体的なスポーツ競技復帰までの一連の流れをアスレティックリハビリテーション（以下アスリハ）と表現される。この科目では、スポーツ理学療法学実習やその他の関連科目で学んだ知識を背景に、競技場面を想定して、スポーツ外傷やスポーツ障害の予防、復帰のための様々なアスリハの実際、再発予防のためのトレーニングの実際などを具体的に学び、そのプログラムを立案・実践できる能力を養うことを目的とする。この科目は、演習形式を中心に進め、アスリハの基礎知識の学びに加えて、様々な競技を想定した具体的なアスリハについて検討、立案、実技を含めた発表、ディスカッションを行う。それにより知識を確実に技術に繋げ、スポーツ現場で実践できる能力を養う。	
		生活環境学	生活環境学では、地域社会における日常生活を理解し、高齢化に伴う社会変化と生活環境の変化について学ぶ。地域で生活することは、行政・医療・保健を理解し、身近な問題を解決できるシステムを学習する。老人保健法、介護保険法に基づいて地域活動の生活領域が拡大を見せている。在宅、通所事業、訪問事業など目的や現状を理解し、在宅医療・介護を推進し、安心して地域で暮らす全般的なサービスの必要性を理解し、環境整備に必要となる知識を学修する。	
職業専門科目	地域理学療法学	地域連携学	地域医療・在宅医療を実践する上で、在宅医療に必要不可欠である多職種連携が今日のリハビリ医療として様々な場面で行われている。講義では、患者について多職種間で情報交換の意義や方法、患者情報と適切なサービスを受けるために必要となる連携について学修する。実際に地域で活躍している医療者を招いて、地域包括ケアシステムを実現するために必要となる在宅医療・介護の推進と多職種連携する情報共有システムの方法と医療・介護・福祉の専門職で必要とされる情報の提供システム・チームケアを実現するための方法を学ぶ。住み慣れた地域で、生活する高齢者や障がい者に質の高い地域サービスの提供や情報共有基盤の整備について学ぶ。	
職業専門科目	地域理学療法学	地域理学療法学	誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために、2025年を目途に地域包括ケアシステムが構築される。医療的問題を抱えた多くの障がい者・高齢者が医療・介護・福祉の支援を受けながら在宅生活を送ることになる。今後、医療職も地域での活動の場が広まることから、医療職が地域で活躍するための意味と具体的技術、ならびに地域福祉活動の組織・専門職についての理解をもとに、在宅医療・介護の推進やコミュニティ・ワーカーの基本的態度と資質を身に付ける。	
職業専門科目	地域理学療法学	被災支援と理学療法	東日本大震災に代表される大規模自然災害が発生した際、被災地域自治体を中心に避難所の開設や運営を行っている。この際、長期に及ぶ避難生活により、被災者においては心身の機能における様々な問題が発生する。特に、避難所において、障がい者を有する人や、高齢者の廃用症候群の予防策、避難所生活上の日常生活活動の適応・改善訓練などは、理学療法士が中心になって支援すべき事項である。しかし、一般の医療施設における理学療法とは異なり、被災者の状態、被災地域の実情、避難所の環境、行政システムなどを理解し、その状況に対応できる能力が求められる。そこで、この科目では、災害に対する行政の取組み、避難所などの開設や運営、災害時に発生する諸問題などについて事例を中心に学び、理学療法を有効に実施できる知識を得ることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	臨床 実習	見学実習	臨床実習施設において展開されている理学療法を臨床実習指導者と共に、診療参加型かつクリニカル・クラークシップ形式を踏まえて見学し、施設の役割や機能を理解し、理学療法士の業務を把握した上で、理学療法対象者の概要を認識して、臨床実習施設のスタッフや理学療法対象者とのコミュニケーションを図ることを学修する。また、医療従事者としての心構えや立場を深めるとともに、理学療法士としての責務を認識する。 実施方法は、1週間臨床実習施設へ出向き実施する。実習後、学内セミナーにて、学修内容を担当教員と振り返り、実習内容を発表し、実習内容を共有し、体験した内容をさらに深化し、自分の知識として定着させる。	共同（一部）
		検査・測定実習	臨床実習施設において理学療法評価として必要な基本的な検査・測定項目を挙げ、診療参加型かつクリニカル・クラークシップ形式で担当症例に対して実際に検査・測定を行う。臨床実習指導者の指導により学内で学んだ検査・測定項目を実際の臨床場面で実施する。検査・測定結果を障害に応じ解釈を行うための臨床知識を習得し、障害程度の把握ができるようになる。実施方法は2週間臨床実習施設へ出向き実施する。実習後、学内で実習内容を振り返り、実習内容の確認等について担当教員から指導を受ける。実習前と実習後に実技試験を実施することで、基礎理学療法学・評価学および実習の習熟度を評価する。 検査・測定実習では理学療法対象者に応じた理学療法評価のために必要な検査・測定項目を挙げ、実際の理学療法対象者において検査・測定を実施し、測定値の理解をもとに障害程度の把握を行うが、理学療法治療プログラムの作成や理学療法の目標設定を行うことは求めない。	共同（一部）
職業 専門 科目	臨床 実習	評価実習	臨床実習施設において、臨床実習指導者の指導のもとで診療参加型かつクリニカル・クラークシップ形式により理学療法評価を幅広く体験しながら理学療法実施上の問題点を探索し、プログラム作成過程を習得する。この科目は、理学療法対象症例に対する評価方法の選択・実施、評価結果より問題点を抽出し、症例の障害像を把握する課程を学修する。また、理学療法士としての役割をチーム医療の観点から学ぶため、適宜、関連職種の業務体験や見学を行い、臨床実習指導者や症例担当者による理学療法実施場面では、学生が可能な理学療法補助業務に積極的に参加させ、幅広く理学療法場면을体験することで理学療法士に求められる知識、技術を習得する。 実習前と実習後に実技試験を実施することで、運動器・神経・内部障害理学療法学・評価学および実習の習熟度を評価し、実習後、学内セミナーにて、学修内容を担当教員と振り返り、実習内容を発表し、討論することでさらに実習内容を深く修める。	共同（一部）
職業 専門 科目	臨床 実習	総合実習	臨床実習指導者の指導の下で診療参加型かつクリニカル・クラークシップ形式により、学内で学修した理学療法評価、治療を基に理学療法対象者の評価、結果の統合と解釈、治療計画の立案と実施、記録・報告等の理学療法の一連の過程について、臨床現場で模倣しながら体験・実践する。理学療法評価から治療目標を設定し、治療プログラムを作成する。加えて基本的な治療手技を実施する。総合実習前は、まず筆記試験を行い、実習に必要な知識が備わっているかを確認し、その後 OSCE（ Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）を実施し、理学療法専門科目とその実習における総合的な習熟度を評価した上で、理学療法士として必要な知識、態度や技能について、理学療法対象者を想定した臨床能力を客観的に確認する。総合実習では、学生が1日の実習行動計画を作成し、実習内容を実習記録へ記載した上、臨床実習指導者へ報告する。臨床実習指導は、臨床実習指導者と専任教員が連携し、適宜、必要に応じて連絡を取り合い、学生の実習状況についての情報を共有し、助言・指導を行う。 総合実習後、技術・態度面の確認をOSCEで行い、学内セミナーにて、総合実習での体験・学修内容を発表し討論した上で、担当教員と振り返り理学療法の実践能力について学修内容を深める。	共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	臨床 実習	地域実習	生活期において在宅や施設に居住する地域在住の理学療法対象者における理学療法について実地見学、体験を通じて地域における理学療法評価や治療、支援方法、理学療法士として必要とされる役割や考え方、実践方法について学修する。また地域理学療法における多職種協同の必要性や地域包括ケアについても学ぶ。具体的には、健康維持・増進および介護予防事業、通所リハビリテーションや集団理学療法プログラムの体験、訪問理学療法の見学に加えて、バイタルサインチェックや施設内相談員やケアマネージャーの業務やカンファレンス見学、入所調査、相談業務の見学、地域ケア会議や多職種連携会議などへの見学や体験参加、退所前訪問の見学等から地域生活に対する知識技術の適応方法を学修する。地域実習終了後、学内セミナーにて、学修内容を担当教員と振り返り、体験や学んだ内容を発表し、学修内容を深める。	共同（一部）
		共生社会の展開と実践	超高齢社会、健康寿命の延伸など、現代社会の課題を認識し、共生社会の維持・向上に寄与できる理学療法士として、将来活動するための考え方を養う。「隣接他分野」で学修した身体機能の回復に隣接する他分野の知識・技術と「組織の経営・マネジメント」の学修を統合・総括し、共生社会の維持・向上に貢献しうる役割や支援にどのように展開・実践できるかについて、グループ演習により考察する。グループによるディスカッション結果の発表は、理学療法学科と作業療法学科の合同で行い、他学科における応用の考え方に触れる機会を設け、積極的に他職種と協働するための姿勢を育成する。この科目は展開科目と職業専門科目の担当教員が共同で行う。	共同
展開 科目	隣接 他 分野	共生福祉論	“共生福祉”に関する様々なとらえ方を把握した上で、“共生社会”との関連性を明確にする。また、援助専門職にとつての“共生福祉”の意味と意義を明らかにし、地域社会において多職種による連携・協働、市民の協力を得た上でのネットワーキングの必要性を明確にする。これらを具体的かつ実践的に学んでいく。	
展開 科目	隣接 他 分野	身体障害への支援システム 工学Ⅰ	ロボットに代表される保健医療分野における支援システムの開発から市場投入までの一連のプロセスを、実証実験手法も含めて体系的に学ぶ。 基礎として、人間の感覚、認知、認識特性に基づくヒューマンインタフェースの設計手法について学習する。次に障害特性の定義と代行手段の選択に基づいた要件定義と製品化手法について、福祉介護の現場で行う試作機を用いた実証実験による仮説検証手法とアンケートの評価手法に重点を置いて学ぶ。	
展開 科目	隣接 他 分野	身体障害への支援システム 工学Ⅱ	保健医療機器の製品化プロセスを障がい当事者向けのマウス操作作用のインタフェースを事例に学ぶ。インタフェースは、障害種別を想定して試作する。実証実験では、試作したインタフェースをPC（Windows）の補助機能の組み合わせで機能評価とアンケートを実施し、統計的解析手法を用いてその有効性を検証する。	
展開 科目	隣接 他 分野	コーチングの理論とスポーツとの連携Ⅰ	健康寿命の延伸の指導・支援に関わるためのコーチングの知識、考え方、スキルを学ぶとともに、コーチングの場面における課題を明確にし、それに対する問題解決スキルを習得することをねらいとする。また指導者・支援者としてのコーチングスタイルを明確にする。ともに継続的に学習するための考え方を醸成する。この科目はコーチングの哲学を理解することを中心に置き、個人およびチームのコーチングを実現するためのケーススタディも含めて展開していく。	共同
展開 科目	隣接 他 分野	コーチングの理論とスポーツとの連携Ⅱ	「コーチングの理論とスポーツとの連携Ⅰ」で学んだコーチングの基本的な考え方をもとにして、指導者・支援者が様々な現場で直面する課題を解決する力を身につけ、不測の事態に直面しても方法論にとどまらない本質的な課題を抽出し、解決策を立案・提示できる力を身につけることをねらいとする。同時に自分自身の関心のあるテーマでのグループ討議、まとめ、発表を通じてチームワークを醸成し、チームマネジメントの考え方も体験的に学ぶことももう一つのねらいとする。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開 科目	隣 接 他 分 野	障害者の社会参加とスポーツの教育的活用Ⅰ	「障がい者の社会参加促進」は、共生社会において重要なテーマであるが、実際には社会参加のための情報・知識・技術を持つことが難しいという課題がある。障がい者スポーツは、スポーツというアイテムを通して障がい者の社会参画機会を増やし、生活の質の向上に役立つ有効な活動である。本講義では教育原理や教育方法論的な視点から障がい者スポーツについての理解を深め、障がい者スポーツとその教育の普及促進のために出来ることを学ぶ。	共同
展開 科目	隣 接 他 分 野	障害者の社会参加とスポーツの教育的活用Ⅱ	この授業では、「障害者の社会参加とスポーツの教育的活用Ⅰ」で学んだ知識を活かし、障がい者スポーツ教育を実践できる力の習得をめざす。グループワークによる障がい者スポーツ教育の指導案作成、ロールプレイによる発表を行い、実際に障がい者スポーツ教育の現場を見学したり、指導者の話を聞く等の授業も行う。	共同
展開 科目	隣 接 他 分 野	ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅰ	年齢や障がいなどに関わらず、誰もが外出や旅行を楽しむユニバーサルツーリズムの定義、意義について学ぶ。高齢者や障がい者などは施設や住宅での限られた環境下の生活から、「お出かけ」をすることで徐々に社会参加が促進される。本人への刺激、生きがい、健康増進への意欲が促進されるだけでなく、周囲の人々への理解を深めるなど、外出の意味は大きい。外出や旅行の意義、共生社会へつながる一歩であることなどを、ユニバーサルデザインやバリアフリーとの関係、障がいの社会モデルについて、先進事例などを紹介しながら国内の状況について考える。	
展開 科目	隣 接 他 分 野	ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅱ	年齢や障がいなどに関わらず、誰もが外出や旅行を楽しむユニバーサルツーリズムについて、実際の街を歩いてその課題と解決策についてグループワークを通して学ぶ。高齢者や障がい者が実際の街でどのような不便があり、誰もが外出や旅行を楽しむためには何が必要かをグループワーク、フィールドワークを通して考える。改善提案では地域の活性化につなげたプランについて、プレゼンシートを作成し、コンテスト形式で発表を行う。	
展開 科目	隣 接 他 分 野	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ	手話とは日本語とは異なる独自の文法・語彙体系を持った視覚言語であり、聴覚障害者とのコミュニケーションツールの一つである。手話をはじめとするさまざまなコミュニケーションを持つ聴覚障害者についての学習（障害について、コミュニケーション方法、暮らし、置かれている社会状況など）を通して、聴覚障害に関する基礎知識を理解することを目的とする。コミュニケーションの一つである手話であいさつや自己紹介程度の簡単な会話ができることを目指す。	
展開 科目	隣 接 他 分 野	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ	手話とは日本語とは異なる独自の文法・語彙体系を持った視覚言語であり、聴覚障害者とのコミュニケーションツールの一つである。手話をはじめとするさまざまな聴覚障害者とのコミュニケーション方法を学び、手話で日常会話ができることを目指す。また学んだ手話を活かして療法実践の場で活用できるようにする。	
展開 科目	組 織 の 経 営 ・ マ	実務リーダーのための経営戦略論	経営戦略の基本概念を、経営理念と経営ビジョンとの関係を交えて理解する。事業別戦略や機能分野別戦略について、各分野の実務家講師による事例を扱った講義と意見交換を通じ、実践的に理解をする。保健医療に関する事例も取り上げる。グループワークや発表を通じて、将来を主体的に構想し、その実現に向けて関係者の協力を形成する基礎的な能力を養う。	
展開 科目	組 織 の 経 営 ・ マ ネ ジ メ	組織・人材マネジメントの理論と実践	人材の持つ潜在能力を引き出し発揮させる仕掛けやしぐみは重要な経営の要素である。 本科目では、組織を一から創っていく時に必要な考え方を時系列に学ぶことによって、組織および人材マネジメントの考え方を理解できるようにカリキュラムを組んでいる。 また人が成長し活力ある組織にするために良い組織の要件の理解から始まって、組織のあり方、組織の創り方や組織と人を主体的に動かすマネジメントのあり方、そして人材のマネジメントの仕方とともに、保健医療の組織論についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開 科目	組織 の 経営・ メン ト・マ ネジ	実践マーケティング戦略	顧客のニーズを理解し、顧客に対しどのような価値を提供するべきかを考えることは、企業活動の基本であるだけでなく、社会的組織においても重要である。本科目では、マーケティングの基本的な考え方から、各種のフレームワーク、理論、調査分析手法を学ぶことにより、顧客のニーズを把握し、事業や商品サービス開発につなげるための知識を身に着ける。保健医療分野とともに、保健医療分野に親和性の深いサービス業におけるマーケティングについても、考え方を事例により学ぶ。	
展開 科目	組織 の 経営・ メン ト・マ ネジ	保健医療経営Ⅰ	急激に進行しつつある超高齢化、人口減少社会にあって、保健医療分野の役割が重要化しつつある。また、膨らむ医療費・介護費の問題、医師不足など人的資源の問題、情報資源活用等、問題・課題が山積している。本講義では、保健医療の経営を考えるうえで根幹となる介護報酬（社会報酬）や診療報酬等制度の仕組みを中心に解説する。保健医療経営の事業構造を経営主体別に学び、介護経営、病院経営等のソリューション（問題解決）に役立つ人材育成を目指す。	
展開 科目	組織 の 経営・ メン ト・マ ネジ	保健医療経営Ⅱ	保健医療経営Ⅰを踏まえ保健医療経営Ⅱでは、各分野の経営（病院、介護、社会福祉法人、在宅サービス）をヒト、モノ、カネ、情報から捉え、そのマネジメント手法を解説する。具体的には、病院、介護、社会福祉法人、在宅サービス等を実践している施設のケースを通し、業務改善、経営改善手法を学び、診療報酬、介護報酬（社会報酬）、地域福祉計画（社会福祉増進計画）、医療計画等についてより実践的に学ぶ。また、起業した人材や会社の事例から、保健医療領域での現場改善や起業のニーズ、シーズの活かし方を深める。	
展開 科目	組織 の 経営・ メン ト・マ ネジ	実務リーダーのための財務 会計Ⅰ	財務諸表の理解は、ビジネスの世界で必須であるが、単に会計ルールや会計用語を学んでも意味はなく、経営に活かす視点こそが重要である。 当授業では、長年、様々な法人の会計監査を行ってきた専門家が、実際の財務指標を教材にしながら、経営と関連付けた実践的な授業を行う。 「実務リーダーのための財務会計Ⅰ」では、実務リーダー・マネジメント層として理解すべき基本的な会計理論を学び、保健医療分野の会計についての講義も行う。	
展開 科目	組織 の 経営・ メン ト・マ ネジ	実務リーダーのための財務 会計Ⅱ	財務諸表の理解は、ビジネスの世界で必須であるが、単に会計ルールや会計用語を学んでも意味はなく、経営に活かす視点こそが重要である。 当授業では、長年、様々な法人の会計監査を行ってきた専門家が、実際の財務指標を教材にしながら、経営と関連付けた実践的な授業を行う。 「実務リーダーのための財務会計Ⅱ」では、実務リーダー・マネジメント層として実務上把握すべき財務数値とその活用方法について講義を行う。金融機関との付き合い方など、実務上役立つ知識も提供する。	
展開 科目	組織 の 経営・ メン ト・マ ネジ	ビジネスのための法律	専門的・実務的な能力を活かして就職あるいは起業する上では、その事業に関する様々な法令を遵守する必要がある。 当授業で、事業に必要なライセンス、会社や法人の立ち上げ、人の雇用、事業遂行上のリスク管理などすべてのビジネスに共通する情報とともに保健医療分野にかかわる情報をインプットし、保健医療の世界で活躍するための実践力を身に付ける。 長きに渡り法律のプロフェッショナルとして実務に当たってきた教員が、経験を通して得た、実践で役立つエッセンスを分かり易く解説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 理学療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	組 織 の 経 営 ・ マ ネ ジ メ ン ト	ビジネスのためのIT	情報技術（IT）は一般企業にも行きわたり、ビジネスを組み立てる、実行するうえでも必須の要素となっている。ITがビジネスで活用されている身近な事例を教材として用い、ビジネスの具体的な場面で用いられているITの用語や、保健医療分野ではどういった目的でITが活用されているか等を学習する。講義内では、本講義で学ぶ事例、いままでに情報関連の科目で学んだ知識を活用するためのグループディスカッションの機会を複数回設け、学習した事例をもとにITを活用したビジネスアイデアを練る力を身につける。 (キーワード) IT、Webサービス・アプリケーション、ビッグデータ、IoT、ウェアラブルコンピュータ	
		在宅サービスの事業経営	地域包括支援システムの構築にあたり、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし、安定した日常を送るためには、適切な住まいが必要である。 本講座では、地域密着型サービス、小規模多機能型サービスやサービス付き高齢者向け住宅等を全国で展開している企業で実務を担う専門家が、実際の施設やサービスを元に、「市場認識」・「事業継続」・「事業運営」など、実際の事業において成否を決める視点を教授する。地域包括支援センターとの関係や地域交流など、運営面でのポイントも学ぶ。	
展 開 科 目	組 織 の 経 営 ・ マ ネ	事業計画策定概論	企業の継続的成長や顧客創造を実現するために新たな事業活動は不可欠である。新たな事業活動の出発点である事業を構想（アイデア出し）する発想法を学び、グループで協力し、保健医療分野において新しい事業やサービスを計画するための事業計画書を策定するプロセスを習得する。策定過程において、ビジョン、事業コンセプト、マーケティング戦略、財務戦略等の重要性を理解する。グループの意思集約を重視したオンリーワンの構想を形にする。	
展 開 科 目	組 織 の 経 営 ・ マ ネ	総合事業開発	経営分野の学びを、どのように保健医療分野及び隣接他分野で活かすことができるか、両者の接続を図ることを目的とする。事例研究を基に、ディスカッション形式による授業を展開する。保健医療福祉分野の経営戦略・マーケティング・財務戦略・IT・人事戦略の事例、隣接他分野での新しいサービス開発事例などを取り上げる。ゲストスピーカーを招き、実務現場の臨場感を伝える場を設けるなど、実践的な授業を行う。	
総 合 科 目		理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	「理学療法研究基礎ゼミナールⅠ」は、学問研究の基盤である「判断力」「理解力」「表現力」を養い、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を修得することを目的とする。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総 合 科 目		理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	(△・田畑 稔) 研究ゼミナールは、理学療法諸領域の具体的なテーマを設定し、文献検索や資料の収集、仮説に基づいた実験・調査の実施とその解析から論文作成までの一連の研究過程を体験していく。「理学療法研究基礎ゼミナールⅠ」では、最初の段階として、研究テーマを具体的に設定することを中心に演習を行う。研究方法の種類や方法論を学んだ上で、設定したテーマに即したプレゼンテーション資料で発表することを目標とする。	
総 合 科 目		理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	(△・灰田 信英) 学生は医療・企業・事業などに関する深い専門的な知識、経験、そして技術を有する講師によりゼミ形式で展開される講義や演習を受講する。そこでは、医療・地域生活に対し、専門的な能力と共に洞察力・コミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを担当教員の指導を受けて自らテーマを探索することを目的とする。このゼミナールでは、医療・経済・環境などの社会的変化に興味をもち、より多様な課題に着目し継続的に社会構造・未来的創造をもった能力と資質を養い専門性を身につけることを学修課題とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△.岩本 浩二） 運動器障害、スポーツ外傷・障害の課題を通して、研究の進め方について効果的なプレゼンテーションの作成、発表、評価など基本的な内容について学習する。プレゼンテーションを行う研究課題は学生が自主的に提案することが望ましいが、進捗においては共同で行う。指導教員は研究に必要な「判断力」「理解力」「表現力」を学習するプレゼンテーション発表において助言を与えることで研究を支援する。学生の希望や進捗に応じて研究課題やスケジュールを変更することがある。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△.大矢 暢久） 運動器系疾患、物理療法分野での「判断力」「理解力」「表現力」を養い、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を習得することを目的とする。プレゼンテーションの発表、評価については、学生が主体的にゼミナール内で活発に議論し、改善点などを自身の肌で感じ、自身で工夫する能力が高まるように授業を進める。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じてその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△.加藤 剛平） 「理学療法研究基礎ゼミナールⅠ」は、学問研究の基盤である「判断力」「理解力」「表現力」を養い、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を修得することを目的とする。このため、プレゼンテーションの作成、発表、評価の経験を学生が得られるように授業を構成する。プレゼンテーションの発表、評価については、学生が主体的にゼミナール内で活発に議論し、改善点などを自身の肌で感じ、自身で工夫する能力が高まるように授業を進める。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△.武井 圭一） 脳卒中片麻痺者に対する理学療法、および糖尿病患者に対する運動療法をテーマとして、各テーマの領域における理学療法の現状と課題についてPBLを含む演習課題を通して明確にし、研究テーマを決める。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△.富田 義人） 「理学療法研究基礎ゼミナールⅠ」は、学問研究の基盤である「判断力」「理解力」「表現力」を養い、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を修得することを目的とする。このため、プレゼンテーションの作成、発表、評価の経験を学生が得られるように授業を構成する。本ゼミナールでは、医療・福祉に関する様々な問題から、学生自身がテーマを選択しその内容についてプレゼンテーションを作成し発表する。学生の主体的発想を尊重するアクティブラーニング形式を採用する予定である。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△.田中 直樹） ロボット技術を用いたリハビリテーション領域、バーチャルリアリティを用いたリハビリテーション領域、電気刺激療法を用いたリハビリテーション領域について講義を受け、担当ゼミ教員とともに研究対象領域を決定する。研究課題を決定するのに必要な文献の検索方法や文献抄読方法を学習し、研究対象領域の文献調査を行う。文献調査を行うことにより、研究対象領域の現状把握、課題の整理を行い、整理した課題の中から担当ゼミ教員とともに各自の研究課題を決定する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△.清宮 清美） 医療専門職である理学療法士として、どのように地域社会との関わりを持って行くか演習する。医療・経済・環境などの社会的変化が醸し出す課題を抽出し、それらを踏まえて個々に研究テーマを決め、文献検索からはじめ、研究デザインを考えることができるよう援助する。研究テーマを決定するまでに至らなくても、興味のあるジャンルを決めることができることが望ましい。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△△．杉山 真理） 理学療法研究法を基礎として、理学療法研究の意義と臨床研究課題の探索方法を学ぶ。理学療法研究卒業ゼミナールに向けて、テーマの選定、論文の探索方法、論文構成を学修し、論文内容を理解できるようにする。学修の習慣を身に付け、将来理学療法を行う時に必要な情報収集能力や、学修態度を身に着ける。 ゼミ形式をとり、論文抄読を通してお互いに情報交換する。また卒業論文のテーマを探してゆく。主に車椅子シーティング、褥瘡予防・治療、障がい者スポーツをテーマとする。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	「理学療法研究基礎ゼミナールⅡ」は、理学療法諸領域における課題を探索し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定を中心に展開する。それら一連の研究過程を経て、問題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶ。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△．田畑 稔） 研究テーマを具体的に設定することを中心に演習を行う。研究方法の種類や方法論を学んだ上で、論文検索、文献抄読を行い、研究テーマを設定し、仮説を立てた上で研究計画書を作成する。研究の準備実行段階として位置づけ、設定した研究テーマと研究テーマに即した具体的な実験または調査方法の妥当性について吟味し、研究計画書を完成することを目標とする。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△．灰田 信英） 医療・企業・事業など専門的なスキルを展開した講師より講義を受け、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを担当教員の指導を受けて自ら研究デザインを探り出す。ここでは、医療・経済・環境などの社会的変化に興味をもち、より多くの課題に着目し継続的に社会構造・未来的創造をもった能力と資質を養い専門性を涵養することを目的とする。学生は教員の指導のもと、主体的に研究を企画・立案できることを目標とする。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△．岩本 浩二） 主に運動器障害、スポーツ外傷・障害の課題を通して、基礎的な研究の進め方である文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定を通じて基本的な内容について学習する。研究デザインは各自が自主的に提案することが望ましいが、進捗においては共同で行う。指導教員は、学生が行う文献検索による情報収集、研究方法・研究結果の解釈などにおいて、助言を与えることで基礎的な研究方法の学習を支援する。学生の希望や進捗に応じて研究課題やスケジュールを変更することがある。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△．大矢 暢久） 運動器系疾患、物理療法人分野における課題を探索し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定を中心に展開する。それら一連の研究過程を経て、問題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶ。収集した文献については、学生を主体とする文献抄読会を開催し、問題の解決に活用できる情報を獲得する能力を養う。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△・加藤 剛平） 「理学療法研究基礎ゼミナールⅡ」は、理学療法諸領域における課題を探究し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定を中心に展開する。それら一連の研究過程を経て、問題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶ。文献検索による情報収集においては、実際に学術誌関連データベースから目標とする文献を検索する作業を演習する。また、収集した文献については、学生を主体とする文献抄読会を開催し、問題の解決に活用できる情報を獲得する能力を養う。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△・武井 圭一） 「理学療法研究基礎ゼミナールⅠ」で選定した研究テーマに関連する先行研究を検索し、さまざまな研究方法を知り、卒業研究に必要な研究計画書、および倫理審査書類を作成する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△・富田 義人） 「理学療法研究基礎ゼミナールⅡ」は、理学療法諸領域における課題を探究し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定を中心に展開する。それら一連の研究過程を経て、問題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶ。本ゼミナールでは、理学療法諸領域における課題を探究していく。文献検索方法や、文献の査読方法の指導を行い学生に良質な文献の検索方法を教示することが目的である。また、収集した文献については文献抄読会を開催し問題解決に活用できる情報を獲得する能力を養う。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△・田中 直樹） 研究の基礎である研究倫理、研究デザイン方法、データ管理、手法について学修する。データ収集に使用する機材の使用方法を学習する。研究を行うのに必要な研究計画書や倫理審査書類について学修し、それらの目的や構造について理解する。「理学療法研究基礎ゼミナールⅠ」で決定した研究課題について文献調査を行い、研究課題に対する仮説および研究計画を立案し、研究計画書および倫理審査書類を作成する。立案した研究計画はゼミにて発表する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△・清宮 清美） 「理学療法研究基礎ゼミナールⅠ」の継続として、興味を持ったジャンルの課題を抽出し、関連した事項について講義する。医療・経済・環境などの社会的変化が醸し出す課題を抽出し、それらを踏まえて個々の研究デザインを探り、研究テーマを決定し、研究計画書を作成する。	
総合科目	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△△・杉山 真理） 「理学療法研究基礎ゼミナールⅠ」の学修内容および受講してきた講義内容をもとに、研究テーマを決定し、研究計画書を作成する。倫理的な配慮についても学修し、倫理審査申請の準備を行う。次年度の卒業研究作成のために論文検索、構造化抄録を作成し、先行研究で行われている内容、明確になっている事実を踏まえ、自身のテーマの新規性を明確にする。主に車椅子シーティング、褥瘡予防・治療、障がい者スポーツをテーマとする。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」は、自らの研究テーマや研究の意義、研究計画の立案から、文献検索などの情報収集の方法、統計学的分析法などを演習し、理学療法研究を実践する。また、演習により研究手順を実践し、研究計画書を作成することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△・田畑 稔） 研究テーマから具体的にデータ収集・実験を行うことを中心に演習を行う。研究テーマを設定し、仮説を立てた上で研究計画書を作成する。研究の実行段階として位置づけ、設定した研究テーマと具体的な実験または調査方法を実施し、研究計画書に基づき準備・実行した上で結果の検証を行う。また、データ収集が客観的に行われるよう検討を重ね、実験や調査により得られたデータの統計的な解析方法を学ぶ。専門分野は、呼吸器、循環器、代謝疾患、運動生理学であるが、一般的な理学療法計測による研究であれば対応可能である。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△・灰田 信英） 「理学療法研究基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」で修得した知識や技能を活用し、自らの研究テーマに沿って実験・調査などによる研究を実施する。ここでは、教室では学ぶことのできない地域社会の場に飛び込み、生きた課題に触れ、大学で獲得した知識や技術を活かし能動的かつ主体的に研究を展開する。これまでの講義や演習と異なり、自ら進んで研究の計画、立案、そして実施を行い、事象は多面的な構造から成り立ち、正解は一つではないことを理解することを目的とする。自ら課題を見つけ、探索し、結論を導く過程を学ぶことにより、将来の職業や創造的な生き方の構築に役立つことを目標とする。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△・岩本 浩二） 主に運動器障害、スポーツ外傷・障害に関して、文献検索、研究テーマや研究の意義、統計学的分析などを演習し、研究計画書の作成について学習する。研究デザインは各自が自主的に提案することが望ましいが、進捗においては共同で行う。指導教員は、学生が行う研究計画書作成について、助言を与えることで研究方法の学習を支援する。学生の希望や進捗に応じて研究課題やスケジュールを変更することがある。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△・大矢 暢久） 運動器系疾患、物理療法分野で、自らの研究テーマや研究の意義、研究計画の立案から、文献検索などの情報収集の方法、統計学的分析などを演習し、理学療法研究を実践する。演習を通じて、統計学的分析により明らかにできることや限界、適切な統計分析の選択、そして応用的な統計学的分析を実践できる能力を養い、学生が科学的な思考能力を身につけられるように授業を進める。最終的には、演習を通じて、研究計画書を作成し、研究手順を実践し、理学療法研究を実践できることを目標とする。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△・加藤 剛平） 「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」は、自らの研究テーマや研究の意義、研究計画の立案から、文献検索などの情報収集の方法、統計学的分析などを演習し、理学療法研究を実践する。演習を通じて、統計学的分析により明らかにできることや限界、適切な統計分析の選択、そして応用的な統計学的分析を実践できる能力を養い、学生が科学的な思考能力を身につけられるように授業を進める。最終的には、演習を通じて、研究計画書を作成し、研究手順を実践し、理学療法研究を実践できることを目標とする。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△・武井 圭一） 「理学療法研究基礎ゼミナールⅡ」で立案した研究計画に基づいて、データ収集を実施する。適宜、得られたデータを記述統計を用いて分析を開始し、結果の傾向を把握する方法を学ぶ。自身の研究計画の問題点に対して可能な範囲で修正を加える。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△△・富田 義人） 「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」は、自らの研究テーマや研究の意義、研究計画の立案から、文献検索などの情報収集の方法、統計学的分析などを演習し、理学療法研究を実践する。演習を通じて、統計学的分析により明らかにできることや限界、適切な統計分析の選択、そして応用的な統計学的分析を実践できる能力を養い、学生が科学的な思考能力を身につけられるように授業を進める。最終的には、演習を通じて、研究計画書を作成し、研究手順を実践し、理学療法研究を実践できることを目標とする。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△△・田中 直樹） データ収集で使用する機材などに関して、データ収集可能かどうかの予備研究を行い、データ収集が可能となれば、「理学療法研究基礎ゼミナールⅡ」で立案した研究計画に基づき、データ収集を行う。得られたデータは定期的に集計し、研究の進捗状況を適宜担当ゼミ教員に報告する。研究の進捗状況によって、研究手法の変更や追加の研究を行う。定期的（月1回程度）にゼミ内で報告会を開催し、研究の進捗、得られているデータ、研究の見通しなどについて発表する。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△△・清宮 清美） 3年次までに決定した研究テーマに沿って、地域社会の現場で生きた課題に触れ、実験・アンケート研究等を実施する。実験・アンケート結果から抽出した研究テーマに関連した事項について、地域社会の資源等を活用して卒業研究につながる課題を決定する。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△△・杉山 真理） これまでに学習した演習・実習・学修から生じた疑問点や問題点に対して結論を導き出すことを目標とする。様々な視点から考察し結論を導き出すプロセスを学ぶ。研究デザインを作成し、調査研究を行う。ゼミ形式で行い、お互いに情報・意見の交換をしながら実施する。主に車椅子シーティング、褥瘡予防・治療、障害者スポーツをテーマとする。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」に引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、発表を行う。これら一連の研究過程を経て、問題解決能力高めるための思考過程とその手法を学ぶ。研究論文として簡潔にまとめ知識を身につけることを目標とする。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	（△△・田畑 稔） 「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」において実験・調査の実施により得られた結果に検討を加えて考察する。研究で明らかとなったことを明確にするために、得られた結果が妥当なものか、特に結果が仮説と異なった場合には時間をかけて考察を加える。卒業研究発表会は、指導教員の元で行った一連の研究・演習の活動やその過程を発表報告し、その後できる限り論文（あるいは報告書）として文章化しまとめる。なお、研究内容については、新規性を求めず、従来の研究についての追試でもよい。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	（△△・灰田 信英） 「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」で収集したデータを解析し、考察を加え、成果を卒業研究論文としてまとめることを目的とする。研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し、教員と共に論理的な研究論文に仕上げていく。卒業論文の作成では、仮説の構築・研究の目的・実験方法・結果・考察などを加え、研究論文として成果を公表する。公表した成果は、科学的な論理性を有しているか否かを学生、教員、専門家などで検討し、討議を経て検証する。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	(△. 岩本 浩二) 主に運動器障害、スポーツ外傷・障害の課題に関して、課題解決のための研究の実践、結果の考察、論文作成、発表を行う。研究デザインは各自が自主的に提案することが望ましいが、進捗においては共同で行う。指導教員は、論文作成や発表などについて助言を与えることで研究方法の学習を支援する。学生の希望や進捗に応じて研究課題やスケジュールを変更することがある。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	(△. 大矢 暢久) 運動器系疾患、物理療法分野における課題解決のための研究の実践、結果の考察、発表を行う。これら一連の研究過程を経て、問題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶ。研究論文として簡潔にまとめる知識を身につけることを目標とする。最終的には、ゼミナール内で論文発表を演習し、議論を通じて、論文の質を高める。学生には当ゼミナールの経験を通して、卒業後も研究を実践し、科学的な視点から問題解決にあたり、社会に貢献できる素養を身につけることを期待する。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	(△. 加藤 剛平) 「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」に引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、発表を行う。これら一連の研究過程を経て、問題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶ。研究論文として簡潔にまとめる知識を身につけることを目標とする。研究論文の演習においては、得られた研究成果がどのような集団にどの程度波及させることができるのか、他の文献と比較して妥当性はあるのか、そして限界はあるのかについての考察を実践する。最終的には、ゼミナール内で論文発表を演習し、議論を通じて、論文の質を高める。学生には当ゼミナールの経験を通して、卒業後も研究を実践し、科学的な視点から問題解決にあたり、社会に貢献できる素養を身につけることを期待する。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	(△. 武井 圭一) 確率統計を用いた分析を実施する。この際に、統計学的手法から得られた結果の解釈について議論し、統計学についての理解を深める。また、自身の研究の理学療法学における意義について議論する。これらの課題を通して卒業研究を作成していく。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	(△. 富田 義人) 「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」に引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、発表を行う。これら一連の研究過程を経て、問題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶ。研究論文として簡潔にまとめる知識を身につけることを目標とする。研究論文の演習においては、得られた研究成果がどのような集団にどの程度波及させることができるのか、他の文献と比較して妥当性はあるのか、そして限界はあるのかについての考察を実践する。最終的には、ゼミナール内で論文発表を演習し、議論を通じて、論文の質を高める。学生には当ゼミナールの経験を通して、卒業後も研究を実践し、科学的な視点から問題解決にあたり、社会に貢献できる素養を身につけることを期待する。授業は基本的にゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	
総合科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	(△. 田中 直樹) データの解析について、統計ソフトを用いて、統計検定の方法、統計結果の判定方法を学習する。「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」で得られた研究データを解析、分析し、得られた結果を整理する。研究の発表に必要な学術論文の書き方、発表スライドの作り方を学習し、整理した研究結果を基に卒業論文を作成し、卒業研究報告会用の発表スライドを作成する。卒業研究報告会で得られた質疑やアドバイスを加味して卒業論文を修正し、完成させる。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 理学療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	(△ ₁₃ . 清宮 清美) 「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」を踏まえて研究データを収集・整理し、得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析する。研究背景・目的・実験方法などを見直し、レジュメと発表資料（パワーポイント）を作成し、研究発表を行い、卒業研究を仕上げる。	
総合 科目	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	(△ ₁₄ . 杉山 真理) 「理学療法研究卒業ゼミナールⅠ」を踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に研究論文を仕上げていく。中間発表会を開催し、研究の進捗状況、修正箇所を確認しながら行っていく。 卒業研究の仕上げるに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジュメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。主に車椅子シーティング、褥瘡予防・治療、障害者スポーツをテーマとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	社会	敬心における共生論 敬心学園の一員として、学園理念「他人を敬い、自らを律し、人々の心をもっとも大切にして、一人ひとりが輝いて生きる社会を創造する」を踏まえ、「共生社会」や「リハビリテーション」さらには「QOL (Quality of life) の向上・獲得」について理解を深める。敬心学園の理事長や大学の学長等、本学のリーダーから、「理念」や「養成する人材像」について、直接学ぶ機会を設け、その真意について学ぶ。 共生社会における自らの役割について考える。	
基礎科目	社会	心理学 心理学は、全ての専門職の基礎となるコア学問である。心理学では、専門職業人として心理学を学ぶ学生に対し、心理学とはどのような学問で、どのようなことが研究され、どのようなことが明らかにされてきたのか、そしてそれが私たちの日常生活や職業生活にどのように関係するののかについて学ぶ。また、心理学的知見を自己理解や他者理解、障がいを持った患者の心理の理解や精神的健康の維持・促進のために応用できることを目標とする。具体的には、授業は、知覚心理学、学習心理学、認知心理学、動機づけ・感情心理学、人格心理学、発達心理学分野における代表的な心理学実験などを模擬的に体験することを通して学ぶ。	
基礎科目	社会	社会学 この授業では、受講者が社会学の基礎的な理論や概念を学び理解するとともに、実社会におけるさまざまな現象や問題を考える視座を獲得することを目標とする。テーマは、自己、人間関係、家族、ライフコースといった身近に経験されるものを中心としつつ、その背景にある現代の社会・政治問題や、参照軸としての歴史や海外の状況まで幅広い視野を得られるような構成とする。受講者は、社会のなかで「これが当たり前」とされていることを定式通りに考えるのではなく、それに疑問を感じ、新たな視点や切り口でその問題を考え直し、社会的な見方で考察できるようになることが求められる。講義を中心とするが、可能な限りグループワーク等も積極的に取り入れる。	
基礎科目	社会	実務英会話 近年、グローバル化の波が、福祉の分野にも押し寄せつつある。そうしたことから、英語コミュニケーション能力を高めるため、保健医療福祉の様々な状況の場面を設定した教材を用いて学習をすすめる。それぞれのユニットの登場人物となり実際に演じることにより将来実際に起こりうる場面でも活用されることを期待している。また、ダイアログやエクササイズから保健医療に関する専門用語などを覚え、関連表現を学び現場で役立つ英会話力を身につける。授業はテーマと場面設定等を複数提示し、それに応じたペア、グループなどを組み、英語でコミュニケーションをとりあうことを重ね、実践に役立てられる英会話力を身につけることを目指す。また福祉英語検定への挑戦の機会としたい。	
基礎科目	社会	観光学 国を挙げて力を入れている観光・ツーリズムとはなにか、基本的なものを学ぶ。 移動・交流に係る観光を支える産業（旅行、宿泊、観光産業等）の特性や事業の仕組みについて、及び、日本各地の観光振興事業等、観光客を受け入れる地域の様々な取り組みなどについて学ぶ。 また、OTA（オンライントラベルエージェント）、インバウンド（訪日外国人旅行）、民泊など、近年の動向についてもとりあげる。	
基礎科目	社会	経営学 経営について初めて学ぶ学生が興味を持てるように、経営学の基礎的な内容を、実務家教員がビジネスパーソンとして直面した経験・事例の紹介を交え、実践的な授業を行う。 経営者・マネジメント層の役割について解説する。 ヒト・モノ・カネ・情報あるいは昨今注目されるデザインといった側面から経営の基礎について分かり易く解説する。 理論的な解説を土台にしつつ、学生自らが主体的に調査し、議論するプロセスを重視する観点から、グループディスカッション及びプレゼンテーションの機会を設け、実践的な学びの場を提供する。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	社会	音楽文化論	音楽は趣味として楽しむだけでなく生活の中の様々な場面で活用されており、保健医療の現場も例外ではない。生物と人類の歴史の中で音楽はどのように生まれ、どのような社会的機能を果たしてきたのか、様々な文化の中でどのように発展し、また変容してきたのかを、民族音楽学・音楽人類学・音楽社会学の視点から、西洋音楽・ポピュラー音楽・日本の音楽の歴史を通して見てゆく。最後に、保健医療の現場での音楽の活用例について紹介する。	
基礎 科目	社会	法学	法律を初めて学ぶ学生でも興味を持てるように、日常の社会生活における身近な事例を通して、法律の基礎知識や原則を分かりやすく講義する。具体的には、毎回の授業において、人権侵害、契約トラブル、犯罪行為、パワハラ・セクハラなどの事例を検討する。その中で、憲法、民法、刑法、労働法の基礎を学習し、社会人として必要とされる法律に対する基本的な素養を身につける。また、学生の関心が高いと思われる医療・福祉現場での事故事例も取り上げ、従事者の刑事・民事上の責任について正しく理解する。	
基礎 科目	社会	国際関係論	国際関係論は、政治、経済、環境分野の今日的な問題を取り上げ、今日の国際社会が直面する諸問題についての問題意識、それら諸問題の解決、あるいは国際社会における日本の位置付けなどに対する関心を高め、国際的な視野・意識の醸成を図る科目である。国際的な事象、問題は極めて身近なものであることを理解し、1つ1つを考える機会を持つことが本科目の主眼である。日本の食料自給率は40%を下回って久しい。このことは、私たちの食卓が他国の生産現場と繋がっていることを意味する。なぜ、TPPが議論されるのか、地球環境問題はなぜ起こったのか、私たちは将来に向けてどのように他の国々と協力していくのか、グローバル化した世界の中で、私たちの前にある現実を、身近なトピックを取り上げながら検討し、自立した個人として自ら考え、行動するための知識を醸成する。	
基礎 科目	組織	職業倫理	職業倫理とは、「特定の職業に要請される倫理、または職業人に求められる倫理」のことをいう。職業人としての行動を律する基準・規範のことであり、多くの職能団体が職業倫理を定め、明文化している。医療福祉に係る限り、業務上、個人情報を得ることがあり、業務上で個人情報を得ることができる仕事には、すべて守秘義務が課せられている。仕事に従事する一人ひとりが、職業倫理を持って働いていくことが求められる。最新の事例なども題材にして、「職業倫理」の涵養に努める。	
基礎 科目	組織	チームワーク概論	作業療法士は、保健医療の専門職として、その専門性を持ちながら、対象者とその家族の生活支援のために多職種や多くの社会資源とのつながりを活用していく視点も重要である。本科目では、講義により、保健医療の現場で行われているチームとしての連携のあり方を、今後に必要なが高まる保健医療連携を念頭に、医療の回復期や介護保険関連施設での実践を中心に、多職種連携の基本的な考え方を教授する。このことにより、リハビリテーション職として必要な知識や態度を理解し、本学内での職種間の連携のための科目である「地域共生のための連携活動Ⅰ・Ⅱ」につなげることや実践現場での連携協働に向けた自らの課題解決能力を養うことを目標とする。	
基礎 科目	組織	リーダーシップ論	医療現場では多様な人材が、多様な考え方や背景をもとに業務に当たっている。そういった組織でリーダーシップを発揮するためには、従来のような統率型だけではなく、「チームと個人の成長を支援するリーダーシップ」が求められる。そのためにリーダーシップの二大機能である集団維持機能と課題達成の二大機能を理解し、支援型リーダーとして活躍できる考え方や手法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	組織	社会人基礎力	職場をはじめ地域活動や日常生活に欠かせない要素の一つがコミュニケーションである。近年、SNSの発達により利便性は高まったがFace to Faceの心を添わせたコミュニケーションが不足しているのは否めない。自発的なコミュニケーション能力を高めるには学生時代から習慣化させることが望ましい。経済産業省が提唱した3つの能力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を基軸に12の能力要素を授業に取り入れ、即実践できる人材の養成を目指す。またグループワークで協業し実行する「実践的な授業」を積極的に取り入れる。セルフコントロールを基軸に平常心で相手の話を聴き、心を添わせた「相手を慮るコミュニケーション」を理解し、人間関係における意思疎通と信頼性の重要性を学ぶ。	
基礎科目	組織	コミュニケーション論	社会人にとっての悩みの多くが対人関係の悩みといわれる。そして多様性のある人材が集まる組織や職場の中では、これだけコミュニケーションツールが発達していながらコミュニケーションの問題は多くの人々を悩ませている。この科目では、友好的なコミュニケーションを阻む要因を手掛かりに、コミュニケーションの主要スキルについて体験的に学び、活用できるようにする。さらに様々な対人関係の問題を効果的に解決する手がかりをつかんでいただくことをねらいとする。	
基礎科目	組織	国際協力論	国際協力について、国連の動きを中心に国際的な動向を理解する。日本政府の政府開発援助（ODA）、民間の国際協力や国際交流等の具体的な事例を元に、国際協力における参加型開発等の手法について解説する。さらに、「国際関係論」で教授した「地域に根ざした共生社会づくり（CBID）」について、より専門的に取り扱う。世界各国でのCBIDの展開事例を取り上げ、そのきっかけ、活動内容、活動の成果など、国際的に共生社会の推進をするための考え方を学ぶ。	
基礎科目	地域・ボランティア	スポーツボランティアⅠ	ボランティアとはなにか、自分は何ができるか、何のためにするのかを学ぶ。さまざまな領域で行われているボランティア活動を通じて、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深める。さらに、スポーツ活動に対する支援活動（地域、高齢者、障がい者等）に焦点をあて、その価値、意義、役割、実際の活動について理解すると共に、専門職としての知識を生かし、障がい者スポーツについて理解する。また、一人の人間として、将来の医療・福祉専門職として、ボランティアに自分がどう関わるのかについて考える機会とする。	
基礎科目	地域・ボランティア	スポーツボランティアⅡ	スポーツ関連団体（日本障がい者スポーツ協会等）と連携し、学生がスポーツイベントの運営に関わる機会を設け、ボランティアとして参加する。スポーツイベントを「競技の場」として捉えるだけでなく、障がい者の「社会参加の場」と位置付け、ダイバーシティ社会を実現するために何が必要かを体験的に学ぶ。イベント終了後、振り返りのグループディスカッションを行い、様々な知見に触れる中で実践力や応用力の醸成につなげる。また、障がいのある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためには、既存のルールや用具をどのように工夫したらよいかを実技を通して学ぶ。	
基礎科目	地域・ボランティア	地域ボランティア論	ボランティア活動の思想、全国の活動の実態、地域におけるその意義や課題等について多角的に考察する。「ボランタリズム」理念の理解、欧米と日本のボランティアに関する認識や活動実態の比較、ボランティア活動の先進事例、ボランティア活動とNPO法人活動の相違等を理解する。欧米のシチズンシップ教育やサービスマーケティングについての理解も深める。日本のコミュニティ再興の柱の一つといわれるボランティア活動を、地域の中でどのように展開し根付かせていくことができるか、ボランティアコーディネーターの資質とはどのようなものか等を深く考察することで、将来、地域ボランティアのリーダーになりうる人材の養成を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	地域・ボランティア	地域防災	わが国における防災行政、地域防災計画、市民活動による防災のまちづくり等、地域防災の理論と実践について学ぶ。前半では、日本の災害の歴史、災害の地域特性、防災および災害支援行政の変遷について理解する。後半では防災のまちづくりとソーシャルワーク、「防災福祉」概念、学校および福祉施設における防災活動、地域における防災・減災ネットワークの構築等について学ぶ。地域防災に取り組む先進自治体の事例や災害ボランティアの事例を多く学び、防災ゲームの体験ワークショップ、地域特徴別の防災マップ比較検討のグループワーク等を行うことで、受講生に地域防災のリーダーとしての資質や実践力を涵養することを目標とする。	
基礎科目	科学	建築・まちづくり	建築及び都市計画・まちづくりについての基本的知識を修得する。建築については、建築物の設計や建築計画の基本を学ぶとともに近年の建築物において注目されている視点や事例について学ぶ。都市計画・まちづくりについては、法制度に基づく都市計画の基本を学ぶとともに、都市開発や都市基盤の整備の考え方や、地域レベルのコミュニティ形成まちづくりのプロセス、その主体のあり方などについて学ぶ。また、福祉政策とまちづくりなど専門科目との関係や、官民市民が連携した地域のマネジメントや公共空間の利活用のあり方など、この分野で注目されている取り組みや事例について学ぶ。	
基礎科目	科学	統計学序論	医療・福祉へ携わる際に、確率と統計に関する基礎的知識は、臨床や研究の分野で必要である。特に統計学を学ぶにあたり確率及び統計について基礎的な知識の修得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方を認識できるように統計の見方、考え方、応用と具体的な計算方法を学ぶ。なお、はじめて確率・統計を学ぶ者にとっては、統計学への理解を深めるために必要な内容を学修する。	
基礎科目	科学	統計学	本講義では、仮説をデータに基づいて統計的に検証したり、データ解析の結果から、新たな事実を発見したりするときに役立つ統計的手法を身につける。講義はデータの整理の仕方、平均、分散等を求める記述統計学より始め、確率、母集団、標本抽出、確率分布を学び、探索データ解析を行い、最終的に推定、検定といった推測統計学を解説、演習する。演習は統計ソフトRコマンドーを使用し、結果の解釈や使用法の注意点を理解できるようにする。本講義は作業療法研究の基礎となる科目である。	
基礎科目	科学	生物学	生物学では、個々の生物のあらゆる構造（造り）や性質について、その特性や機構を分子レベルに至るまで学修する。さらに生命の起源、生物の多様化、ヒトの起源と進化を学び、次に、生物の集団、動物の社会、生態系のエネルギーの流れを学び、生物と環境とのかわりを学修する。最後に、地球環境とヒトとの共存を理解すべく、人間活動による環境への影響を学修する。	
基礎科目	科学	物理学	物理学は自然科学の中心的分野であり、多くの科学・技術を理解し利用する上で有用な学問である。今回は物理学の諸領域の中でも最初期に数理化に成功した古典力学の領域を中心に講義を展開する。古典力学は日常感覚に近い領域であり、比較的簡単な実験によって様々の原理を確認することができ、入学以前に物理学に接したことがなかった学生も、無理なく履修できる。授業は自然科学を題材としたディベートや演示実験を実施する予定であり、アクティブな授業とし、既にある程度物理学を理解している学生にも十分な内容である。	
基礎科目	科学	情報リテラシー	コンピュータとインターネットは20世紀終盤から今世紀にかけて急速に普及し、生活とビジネスの仕組みを大きく変えた。今後の情報系科目の基盤として、コンピュータとインターネットの基本的な仕組みと効果的な使い方、セキュリティの課題と対策を中心に学ぶ。情報分野の基礎概念と各種用語の正確な理解、情報システムの基本的な構成と利用、アルゴリズムの基礎概念、機械学修・認識技術の基本について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	科学	ICT概論	ICTを代表するものとしてクラウドサービスとIoT（Internet of Things）に焦点を当て、AIとともに、その特徴と今後の動向を身近な適応事例としてのスマホアプリや音声認識サービスの体験を通して学ぶ。 次に、ICTの進化による医療福祉分野における今後の活用見込みについて、省力化とQOLの向上の観点から、同分野におけるこれら技術の適応事例における考察結果も踏まえて学ぶ。	
基礎科目	科学	健康科学	運動不足、飽食、不規則な生活習慣を送る者が多い現代人の生活様式では、生活習慣病のリスクが大きくなっている。健康作りの3要素である運動、栄養、休養を中心に講義し、対象者や自分自身の健康を維持、増進するために健康に関わる基本的な知識を修得することを目的とする。	
基礎科目	科学	食と健康	この科目は、食生活の観点から「健康」について考え実践していくことを目的とする。 氾濫する様々な情報から適切な知識を選択し、活用していくスキルを習得することでバランスの良い食生活を実践し、健康を維持・増進していく力を養う。 また、食事の在り方や留意点などの基礎知識・技術を身につけ、自ら献立を考え調理できる能力を習得する。	
基礎科目	科学	化学	化学は物質の構造や性質さらにそれらの相互の反応を研究する学問であり、様々な有用な物質に関わり、興味深い理論体系を持ち、我々の体内で起こる様々な現象を説明するツールである。今回は化学の諸領域の中から、基礎となる理論化学と無機化学を中心に講義を展開する。化学では、個々のバラバラに見える性質が、実はある種の関連を持っているということを認識することが大切であり、物質たちの相互の関係をいかに少ない原理で統一的に理解するかというところである。授業は自然科学を題材としたディベートなど、単純な座学とはしない。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	ヒトの体は、その骨組みである骨と体を動かす骨格筋などからなる運動器系、体内にある諸器官の内臓器系、および身体統合・統制を行う神経系で構成されている。この人体の構成と構造を学ぶのが解剖学である。解剖学はこの後に学ぶ運動学をはじめとするリハビリテーション専門科目の入り口となる重要な学問と位置付けられている。解剖学Ⅰでは骨、靱帯、関節および骨格筋から成る運動器系の構造を学修する。講義ではスライドや解剖学カラーリングテキストを用いて運動器の構造を修得していく。また、運動器の成り立ちと機能を理解するために、顕微解剖学で骨組織および筋組織構造の特徴を、それを構成する細胞のレベルまで学ぶ。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱでは、神経系、内臓器系および人体の発生を学修する。内臓器系ではさらに感覚器系、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、泌尿器系および生殖器系に分けてそれぞれの機能と関連付けて学んでいく。講義では総論的な内容に絞りこんだ系統解剖学をスライドやカラーリングテキストを多用して理解の深度を深めていく。また、器官の成り立ちと機能を理解するために、顕微解剖学でそれぞれの器官の組織構築とそれを構成する細胞のレベルまで学ぶ。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学実習	肉眼解剖学の実習を少人数グループ編成で行う。リハビリテーションを学修する上で特に重要な骨、軟骨、関節および靱帯の構造および骨と骨格筋の関係性に主眼を置いて、模型標本の詳細な観察とスケッチによる実習を行う。人体を構成するさまざまな骨の形状や骨同士の繋がりなどを立体的に把握し、さらにそこに現れる筋の起始・停止部位の形状を細密にスケッチする。併せて、難解な作りの神経系、特に中枢神経系についても同様の実習を行う。教員から学生への一方的な指導ではなく、学生が自主性を持って学習し、質疑・討議を繰り返すことで高度な解剖学知識の涵養に努める。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	機能解剖学	本科目では、解剖学的な観点から「心身機能」を学ぶ内容のうち、作業療法の実践に必要なこととして、人体の動きを理解するために運動学的な視点から、関節の構造と関節の運動、筋の走行と関節の動き等を実習体験を通じて学ぶ。 学修方法としては、学生同士による触診等の手法により、人間の動作の理解につながるよう、解剖学的な位置の確認や人体の動きによる変化等を理解することを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅰ	本科目では、生理学としての人間の細胞から個体に至る正常な働きや生命現象の基本的な機能のうち、「動物系生理学」として、人体の運動に関連する「筋細胞・神経細胞」のマクロから、「神経系の機能」「筋張力・収縮」「運動・反射」「随意運動・不随意運動」等といった内容を中心として講義により学ぶ。 本科目の内容は、ICFの「心身機能」の理解を主な目的とするが、解剖学で学んだ「身体構造」を基盤として、2年次の「生理学実習」による体験実習等で「身体構造・心身機能」として広義に理解することを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅱ	本科目では、生理学としての人間の細胞から個体に至る正常な働きや生命現象の基本的な機能のうち、「植物系生理学」として、生命を維持調節する機能である「呼吸・循環」「代謝」「消化」「排泄」等といった内容を中心に講義により学ぶ。 本科目の内容は、ICFの「心身機能」の理解を主な目的とするが、解剖学で学んだ「身体構造」を基盤として、「生理学実習」による体験実習等で「身体構造・心身機能」として広義に理解することを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学実習	本科目では、「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した知識を基盤として、実際の生理学的な機能について実際に取得できるデータを中心として、「心身機能」を実験的・体験的に実習を通じて学ぶ。 本科目では、グループにより実験を実施し、その結果を検討し、レポートとしてまとめる。また、実験項目は、可能な限り、作業療法の実践と関連してつながる内容とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学Ⅰ	本科目では、人間の運動（動き）を理解する上で必要なトルクや速度、また重力や時間的な変位などの基本的な知識を中心として、講義により学ぶ。 本科目の内容は、力学的な基盤とともに、運動生理学につながるような基礎代謝、呼吸・循環、疲労等を含み、人間が運動する（動く）ということを知りながら、解剖学・生理学等の知識を統合しながら、理解することを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学Ⅱ	本科目では、「運動学Ⅰ」の基本的な知識を基盤として、人間の運動（動き）を理解する上で必要な時間的な連続という概念から関節運動を統合した観点から運動について講義により学ぶ。 本科目の内容は、静止姿勢や姿勢の連続した変換という視点での運動に至るイメージを、座位・立位といった姿勢の維持調節、寝返り・立ち上がり・歩行といった連続した姿勢変換の結果の運動（動作）等について、人間が運動する（動く）ということを知りながら、解剖学・生理学等の知識を統合しながら、理解することを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学実習	本科目では、解剖学や生理学を基盤としながら学んだ運動学の講義の知識を基盤として、「運動」がどのようにして起こるのか、どのように調節しているのか、どのように理解すべきか等の観点から、「運動（動き・動作）」について学生同士の体験実習等により学ぶ。 本科目の内容は、運動生理学の講義内容の体験実習に加えて、動作分析・解析を「歩行分析」等を題材として、動画再生による視覚的な分析のほか、動作解析機器や反力計等の機器計測によるデータ抽出を検討し、レポート等にまとめることを通じて、「運動（動き・動作）」について理解することを目標とする。	共同

授業科目の概要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動生理学	本科目では、「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した知識と「生理学実習」による実験的な体験による理解を基盤として、作業療法の実践に結び付くような人間が運動する（動く）ことによる生理学的な機能に着目した内容を講義により学ぶ。 本科目の内容は、運動に着目した観点から、「運動と呼吸機能」「運動と循環機能」「運動と筋疲労」「運動と栄養（消化と吸収含む）」「運動と代謝」「運動と消化・排泄」等のテーマを設定して、理解を深めることを目標とする。	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	本科目では、発育・成長・発達（狭義）を新生児期から終末期までを発達（広義）に捉えて、運動発達と精神心理的な発達を中心として、講義を通じて学ぶ。特に、成人から老年期、終末期では、さまざまな退化や退行による課題も一連の流れとして捉えることやライフサイクルという観点からの対人関係やコミュニケーション、また成人期以降の退化・退行などについての「ひと」としての一生涯という全体的な観点で理解することを目標とする。	
職業専門科目	り疾病過立病程の及及び害進回の復成	病理学	本科目では、疾患の成り立ちやメカニズムについて、組織学的な理論を基盤に「正常な状態」から逸脱した状態という「病気」の原因についての基本的な考えを、講義により学ぶ。 内容としては、解剖学や生理学の基本的知識を踏まえながら、プレパラートなどの病理標本等を観察することで、病気（疾患・疾病）等の原因とその治療に対する考え方を、発展的に理解することを目標とする。	
職業専門科目	り疾病過立病程の及及び害進回の復成	臨床心理学	臨床心理学は心理学の一研究分野であるとともに、専門職業人として臨床実践する際の基礎（コア）となる学問でもある。患者のニーズを的確に把握し、患者から信頼されるためには、臨床心理学の知識とスキルは必要不可欠である。具体的には、全ての医療にとって必須の対人援助技法としての傾聴技法や共感技法などのカウンセリング技法から各種心理療法に関連した応用的援助技法などを学ぶ。	
職業専門科目	ち疾病及び病回障進復害過程の成り立ち及び促進	精神医学	本科目では、診断学と治療学を基本とした総論と器質性・気分障害等の疾患疾病による病理や治療法に当たる各論を中心として、精神心理的な疾患疾病（認知症を含む）について、講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断のための各種検査とその結果の考え方（CTなどの読影を含む）、治療学としての行動療法やその他の治療方法とともに、精神心理的な病因から表出する行動に対して、作業療法の治療的理論の適応について応用的に理解することを目標とする。	
職業専門科目	疾病及び病回障進復害過程の成り立ち及び促進	整形外科学	本科目では、整形外科領域における外傷学等の総論と各身体部位等による各論により、作業療法の対象となりやすい骨折や筋・腱損傷、脊髄損傷等の神経障害、骨軟部腫瘍とともに切断などの診断と治療の各論について、また、ロコモティブシンドロームなどと健康寿命の延伸との関係についても講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査結果の考え方（X線、CTやMRI等の読影を含む）や観血的治療などの治療方法、その他の保存的治療法について、理解する。 なお、がんによる骨転移等についても、本科目で取り扱う。	
職業専門科目	疾病及び病回障進復害過程の成り立ち及び促進	神経内科学	本科目では、神経内科領域における疾患疾病の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と脳血管疾患、神経・筋疾患、変性疾患（認知症を含む）等の診断と治療の各論について、また、神経内科領域における疾患疾病の在宅医療についても講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査結果の考え方（CTやMRI等の読影を含む）や投薬等の治療方法について理解する。 なお、脳血管疾患や頭部外傷等に起因する高次脳機能障害や認知症に伴う認知機能障害についても、本科目で取り扱う。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	小児科学	本科目では、小児科が対象とする0歳から16歳までを中心とした年齢期に発症等による疾患疾病の発現機序等の診断（検査含む）等の総論と感染、代謝、神経・筋等の疾患疾病の診断と治療の各論について、講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査の結果の考え方（X線、CTやMRI、その他の発達学的諸検査を含む）や投薬等の治療方法について理解する。 なお、新生児期に関連する周産期や胎児期からの染色体異常等、また年齢に因らず治療を必要とする場合の青年期や成人期等の対象についても、可能な限り本科目で取り扱う。	
職業専門科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学	本科目は、内科領域における疾患疾病の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と呼吸器・循環器・消化器・代謝・感染症等の診断と治療の各論について、また、在宅での医療・介護を含め講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査の結果とその考え方（血清・生化学、X線、CT・MRI等を含む）や投薬等の治療方法について理解する。 特に、糖尿病、高血圧等の生活習慣病等、その危険因子等の理解についても、健康寿命の延伸との関係を含め、本科目で取り扱う。	
職業専門科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	老年医学	本科目では、老年医学が対象とする加齢に伴う機能的変化を主変とする疾患疾病の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と内科疾患を中心とするほか、認知症を含めた診断と治療の各論について、またフレイルなど健康寿命の延伸の阻害要因なども、講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断学のうち各種検査の結果とその考え方（認知機能評価、CTやMRI等を含む）や投薬等の治療方法について理解する。 なお、がんに限らず、終末期や緩和ケアの考え方や見取り、健康寿命の延伸についても本科目で取り扱う。	
職業専門科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	救急救命の基礎	本科目では、救急救命の基本的な理論と実際について、一般的に身につけるべき対応を、実技（実習）を通じて学ぶ。 内容としては、ABCDEアプローチ、気道の確保、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの取扱い等のほか、外傷の応急手当（止血法）、傷病者の管理（安全確保）や搬送法等を体験することで、救急救命の必要性の理解と基本的な行動について体験する。	
職業専門科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	薬理学	本科目では、治療の1つである薬物療法について、生体に対してどのような影響を与えるのかという効果の機序等の基本的な考え方を、講義を通じて学ぶ。 内容としては、炎症、免疫や代謝等の病因別、呼吸器・循環器といった臓器別、腫瘍等の疾患疾病等に対する効果の機序とともに有害事象についても理解する。 なお、本科目では、最近のトピックスや過去の薬剤訴訟等についても、できる限り取り扱う。	
職業専門科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	栄養学	人の生命の維持や日常生活活動をするために栄養素を摂取し生体内で代謝としてエネルギーを取る。食事療法や栄養学を学ぶことは、療法士が管理する多くの健康状態の重要な要素のひとつである。その過程を学習し、リハビリテーションに関わる質の高い治療を実践するために学ぶことが必要である。積極的に障がい者や高齢者の栄養状態・栄養素摂取の方法や維持を理解することで、身体機能・日常生活活動・社会参加、QOLを最大限高め、質の高い栄養素を論理的に学習する。また、疾患の予防や治療に必要な回復力や機能維持のための専門的な知識と実践力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	本科目では、医学的・心理的・社会的・職業的リハビリテーションのうち、「医学的リハビリテーション」を中心として、疾患疾病・外傷等に伴うさまざまな障害に対して、その障害の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と対象とする疾患疾病・外傷等による障害の診断と治療の各論について、講義を通じて学ぶ。 内容としては、診断に必要な各種検査（X線、CTやMRIの読影を含む）や治療方法としての作業療法・理学療法・言語聴覚療法等に対する指示内容、特に適応と禁忌のうち運動負荷の程度や運動・動作上の禁忌（運動方向の禁止等）等について、理解する。	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	本科目では、リハビリテーションを学ぶ上で必要なノーマライゼーションやIL（Independent living：自立生活）の考え方、また欧米と日本のリハビリテーションの考え方の相違などを学ぶ。 また、関連するさまざまな職種が、どのような定義に基づいて、どのようなことをしてるのか、またどのような場所（施設等）で働いているのか等について知ること、自職種の専門性と多職種の専門性について理解する。	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	公衆衛生学	本科目では、地域保健、環境保健、産業保健や学校保健、母子保健等の幅広い領域を持つ公衆衛生のうち、疾病予防、生命の延長、心身の健康の維持・向上を図る方法等について、講義を通じて学ぶ。 内容としては、生活習慣改善等の健康増進、検診を受診すること等による早期発見・早期治療、社会生活維持のための社会復帰等を含めた健康寿命の延伸に関わる様々な課題とその解決について理解する。	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域福祉論	地域福祉の基本的な考え方、歴史、地域福祉を推進する様々な組織や団体について理解する。前半は古代から現代までの、地域福祉の歴史的発展について学ぶ。わが国の現在の地域福祉の様相と課題を、政治・経済・文化の歴史的展開という視点から理解する力を身につける。後半は、在宅福祉サービスの発展と課題、社会福祉協議会の機能、NPO法人の実践と課題といった地域福祉を推進する様々な機関や人材について学ぶ。これらを通じて、コミュニティワークからコミュニティ・ソーシャルワークへの変遷と現代の地域福祉の課題について考察する。また受講生の地域福祉への関心を深めるため、地域課題別のNPO法人立ち上げのワークショップも行う。	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域共生のための連携活動Ⅰ	2025年の地域包括ケアシステム構築のために、各自治体は、様々な取り組みを試行している。その人が住み慣れた地域でその人らしい生活を送るといった、保健医療福祉等の生活支援にかかわる諸サービス・諸活動を一体的かつ有機的・効果的に展開していくためには、当事者である本人とその家族を中心として関連する専門職間の連携・協働と地域住民のネットワークが不可欠なものとなる。 この講義では特に、本人とその家族が生活するための地域社会における専門職の役割、地域住民の主体的参加、関連専門職の連携・協働と地域住民との相互関係づくりを通して、いかにしたら地域共生の実現に向けての礎ができていくのか、多面的かつ具体的に実践的に学ぶことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （ ① 柳澤 孝主／9回） 地域共生の連携活動における各種制度を担当 （ ㊦ 齋藤 久恵／6回） 各種制度を学修した上で、リハビリテーション職・作業療法士としての事例を担当。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域共生のための連携活動Ⅱ	地域共生社会の創造や地域包括ケアシステムの構築に当たっては、それぞれの地域の特性に応じた職種間の連携・協働、また、対象者とその家族とのつながりが重要である。 この科目では「チームワーク概論」、「地域共生のための連携活動Ⅰ」で修得した知識を基盤として、学科を横断した小グループでインタビューなどのフィールドワークにより周辺地域での現状やニーズの把握や抽出の方法等について学ぶ。 グループワークの結果については、発表のためのプレゼンテーションを行うために内容を整理すると共に、他の症例や事例を共有することで広く実践に資する関連職種との連携や協働、対象者とその家族とのつながりをもつ能力を養う。	共同
	職業専門科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	
職業専門科目	基礎作業療法学	作業療法学各論	作業療法に必要な作業の体系や治療・アプローチに用いる基本的な理論とその体系について、講義を通じて学び、一部は演習形式を通じて体験し、主体的に課題解決ができることを目標とする。 特に、「生活行為向上マネジメント」については、作業療法の理論的实践として取り扱う。	
職業専門科目	基礎作業療法学	基礎作業学演習Ⅰ	「作業療法学概論」で修得した基本的な理論や考え方を基盤として、演習形式によりいくつかの「作業活動」を通じて、「作業」の体験及び「作業分析」による作業の意味づけを理解できることを目標とする。 本科目では、主に1人1人の作業のかかわりやその影響や集団の特性やその作業療法としての活用についての課題を取り上げる。	
職業専門科目	基礎作業療法学	基礎作業学演習Ⅱ	「作業療法学概論」を基盤として、いくつかの「作業活動」を通じて、「作業」の体験及び「作業分析」による作業の意味づけについて、演習を通じて、理解できることを目標とする。 本科目については、主に集団やその中の個々人の作業のかかわりやその影響についての課題を取り上げる。	
職業専門科目	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	作業療法が展開される場面で、どのように作業が用いられているのかについて、講義を通じて学ぶ。また、前期で体験する「体験実習Ⅰ」の準備や振り返りを通じて、実際の作業療法場面で作業がどのように活用されているのかについて、発表等の演習形式を通じて他学生の経験を共有し、自身の体験と合わせて作業療法としての問題解決につなげることができることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅱ	本科目では、作業療法士としての質を高めるために、職業的な倫理観を培い、国家資格取得後も生涯学習に努めるといった自己研鑽の必要性を理解し、将来的なスキルアップとともに、作業療法士としての基本的な姿勢を身につける。 また、職場組織の一員として勤務することから、将来的に職場の管理者となって組織を運営する段階に必要な組織マネジメントについて、よりよい職場として運営するための基本的な考え方を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法評価学	作業療法評価学概論	作業療法の流れの中で重要な位置づけである「評価」について、「作業」の活用の観点から、評価方法だけではなく、作業療法治療学に結び付けられるよう、講義を通じて一連の流れを学び、演習形式により作業療法の流れとしてどのように作業療法による治療・アプローチを考えるかについて主体的に解決できることを目標とする。 また、作業療法の評価は最終的に統合することで、「その人」そのものの評価として、心身機能・身体構造の評価に偏ることなく、活動や参加、環境因子や個人因子の重要性についても理解できることを目標とする。	
		身体機能作業療法評価学	作業療法の流れのうち、身体機能に関する評価内容について、講義を通じて基本的理論を学び、演習形式を通じて実技的な手技を経験することで理論と実技の統合を図ることを目標とする。 なお、「作業療法評価学概論」の講義の内容を踏まえて、基本的な理論・考え方から具体的な実技的な手技を実施する一連のアセスメントを理解できることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法評価学	精神機能作業療法評価学	作業療法の流れのうち、精神的心理的な機能に関する評価内容について、講義を通じて基本的理論を学び、演習形式を通じて実技的な手技を経験することで理論と実技の統合を図ることを目標とする。 なお、「作業療法評価学概論」の講義の内容を踏まえて、基本的な理論・考え方から具体的な実技的な手技を実施する一連のアセスメントを理解できることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法評価学	発達障害作業療法評価学	作業療法の流れのうち、新生児期からの運動・精神等の発達段階に応じた機能に関する評価内容について、講義を通じて基本的理論を学び、演習形式を通じて実技的な手技を経験することで理論と実技の統合を図ることを目標とする。 なお、「作業療法評価学概論」の講義の内容を踏まえて、基本的な理論・考え方から具体的な実技的な手技を実施する一連のアセスメントを理解できることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法評価学	高齢期作業療法評価学	作業療法の流れのうち、さまざまな認知機能に関する評価内容について、講義を通じて基本的理論を学び、演習形式を通じて実技的な手技を経験することで理論と実技の統合を図ることを目標とする。 なお、「作業療法評価学概論」の講義の内容を踏まえて、基本的な理論・考え方から具体的な実技的な手技を実施する一連のアセスメントを理解できることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法評価学	高次脳機能作業療法評価学	作業療法の流れのうち、脳血管疾患や外傷等を原因とするさまざまな高次脳機能に関する評価内容について、講義を通じて基本的理論を学び、演習形式を通じて実技的な手技を経験することで理論と実技の統合を図ることを目標とする。 なお、「作業療法評価学概論」の講義の内容を踏まえて、基本的な理論・考え方から具体的な実技的な手技を実施する一連のアセスメントを理解できることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法評価学	日常生活活動作業療法評価学	日常生活活動としての基本動作と活動に関する評価について、講義を通じて基本的理論を学び、演習形式を通じて実技的な手技を経験することで理論と実技の統合を図ることを目標とする。 また、日常生活活動等を支援するための福祉用具、義肢装具、住宅改修等に関する評価の基本的事項についても講義を通じて学び、理解することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療法治療学Ⅰ	作業療法の対象のうち、主として中枢神経系の疾患及び頭部外傷等による否定的側面・肯定的側面に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論や考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることを目標とする。 なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といったICFによる考え方や急性期・回復期・生活期などの継続的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的観点、「在宅医療の推進」の視点を含む内容とする。	
		身体機能作業療法治療学実習Ⅰ	「身体機能作業療法治療学Ⅰ」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。 また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の総合実習につなげる。 なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療法治療学Ⅱ	作業療法の対象のうち、主として運動器の疾患及び外傷等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることができることを目標とする。 なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といったICFによる考え方や急性期・回復期・生活期などの継続的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的観点、「在宅医療の推進」などの視点を含む内容とする。	
		身体機能作業療法治療学実習Ⅱ	「身体機能作業療法治療学Ⅱ」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。 また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の総合実習につなげる。 なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療法治療学Ⅲ	作業療法の対象のうち、主として内部疾患（循環器・呼吸器など）及びその他の疾患・疾病・外傷等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることを目標とする。 なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といったICFによる考え方や急性期・回復期・生活期などの継続的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的観点、「在宅医療の推進」の視点を含む内容とする。	
		身体機能作業療法治療学実習Ⅲ	「身体機能作業療法治療学Ⅲ」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。 また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の総合実習につなげる。 なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法治療学	精神機能作業療法治療学	作業療法の対象のうち、主として精神神経科の疾患（器質的・双極性障害、その他）等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることを目標とする。 なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といったICFによる考え方や急性期・回復期・生活期などの継続的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的視点を含む内容とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	精神機能作業療法治療学実習	「精神機能作業療法治療学」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。 また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の総合実習につなげる。 なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。	共同
職業専門科目	作業療法治療学	発達障害作業療法治療学	作業療法の対象のうち、主として胎児期・出生及び新生児期から児童・少年・青年期等の時期の疾患、外傷等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることを目標とする。 なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といったICFによる考え方や急性期・回復期・生活期などの継続的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的視点、「在宅医療の推進」の視点を含む内容とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	発達障害作業療法治療学実習	「発達障害作業療法治療学」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。 また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の総合実習につなげる。 なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	高齢期作業療法治療学	作業療法の対象のうち、主として高齢期の疾患及び認知症等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることができることを目標とする。 なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といったICFによる考え方や急性期・回復期・生活期などの継続的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的視点、さらに「健康寿命の延伸」の視点を含む内容とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	高齢期作業療法治療学実習	「高齢期作業療法治療学」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。 また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の総合実習につなげる。 なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法治療学	高次脳機能作業療法治療学	作業療法の対象のうち、主として脳血管疾患及び頭部外傷、先天性・変性疾患等による高次脳機能等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることを目標とする。 なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といったICFによる考え方や急性期・回復期・生活期などの継続的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的視点を含む内容とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	高次脳機能作業療法治療学実習	「高次脳機能作業療法治療学」の内容を踏まえて作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。 また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の総合実習につなげる。 なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動作業療法治療学	作業療法の対象のうち、日常生活活動としての基本動作や活動と参加に関する内容（職業関連活動を含む）等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることを目標とする。 なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といったICFによる考え方や急性期・回復期・生活期などの継続的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的視点、「在宅医療の推進」の視点を含む内容とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動作業療法治療学実習	「日常生活活動作業療法治療学」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。 また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の総合実習につなげる。 なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動支援治療学	作業療法のうち、日常生活活動・日常生活関連活動、社会参加等を支援するための福祉用具・義肢装具・住宅改修・その他の環境調整等に関する内容等による肯定的側面・否定的側面等に対する作業療法の治療・アプローチの計画立案とその実施の過程について、講義を通じて基本的な理論・考え方を学び、演習形式によりその内容を体験することで理解を深めることができることを目標とする。 なお、作業療法の治療・アプローチの計画立案に当たっては、心身機能・身体構造に偏重することなく、活動・参加や環境因子や個人因子といったICFによる考え方や急性期・回復期・生活期などの継続的な変化、病院・施設・自宅等といった生活の場などの多角的視点、さらに「健康寿命の延伸」及び「在宅医療・介護の推進」の視点を含む内容とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動支援治療学実習	「日常生活活動支援治療学」の内容を踏まえて、作業療法の流れに沿った作業療法計画までの一連の内容を、模擬事例などを通じて計画を立案し、その内容を実習体験する。 また、その実習体験内容を発表、フィードバックをすることで次の総合実習につなげる。 なお、他者の発表内容から、幅広く作業療法の流れを理解し、その理解内容を活用して、問題解決していく能力を向上させていくことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法治療学	健康寿命の延伸 我が国は、医学の発達、生活水準の向上に伴って、世界トップクラスの平均寿命の国となった。一方、健康寿命との乖離が大きいことが社会問題として指摘され、健康寿命の延伸により「寿命と健康寿命の差を限りなく縮める」ことが国家的な目標である。このためには、健康増進、介護予防のための様々な活動を生活の全ての場面で取り入れることが必要である。そして、作業療法士の有する知識、技能やその役割は、障がい者を有する人の社会復帰に留まることなく、その原因となる疾患を予防し、多くの人が健康である社会を構築することにも役立てるべきである。また、健康とは単に医学的視点のみで考えるのではなく、世界保健機関の健康の定義に謳っているように、身体的、精神的、社会的など人間を取り巻くあらゆる方向から考えることであり、作業療法士がどのような役割を担えるかを考える必要がある。 この科目では、これまでに学修してきた知識や技能を基盤にして、多角的に健康について考え、健康寿命の延伸のために広く活躍できる能力を身に付けることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （△ 星 克司／5回） 第1回 オリエンテーション 健康の概念と健康寿命延伸のための課題 第5回 自治体・事業所における健康寿命延伸のための課題と対応（健康経営など） 第13～14回 地域における社会資源の活用と健康寿命の延伸への対応 第15回 まとめ （△₁₀ 秋元 美穂／3回） 第6～8回 高齢期における健康寿命延伸のための課題と対応（認知症、フレイル、骨折転倒など） （△₁₁ 井口 佳晴／2回） 第11～12回 活動と参加に焦点を当てた健康寿命延伸のための課題と対応 （㊤ 小野寺 哲夫／2回） 第9～10回 こころの健康と健康寿命延伸のための課題と対応 （㊤ 佐久間 肇／3回） 第2回 公衆衛生的視点からの健康寿命延伸のための課題 第3～4回 疾病予防と健康の維持・増進のための課題と対応（生活習慣病、脳血管疾患など）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法治療学	在宅医療・介護の推進 超高齢社会の中で、住んでいる地域社会において、医療、福祉サービスを受けられる体制の整備が重要であり、その中心となるのが地域包括ケアシステムの導入である。ここでは、本人や家族の選択の上で、介護予防、介護支援、医療や看護、リハビリテーションなどの要素を組み合わせ、地域社会における多角的な支援を目指している。作業療法士は、このシステムの中で、全ての要素に関わりを持ち、在宅医療や介護予防、介護支援の中心として活動すべき職種である。 この科目では、これまでに学修してきた内容を基盤にして、在宅医療、介護の推進について学び、対象者の背景や環境など多様な側面を考慮して、在宅や地域における問題を解決するために活躍できる能力を身に付けることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （<u>△</u>₄ 小林 毅／2回） 第7～8回 在宅医療・介護支援の実際（内部疾患） （<u>△</u>₅ 猪股 英輔／5回） 第2回 在宅医療・介護における接遇とリスクマネジメント 第9～10回 在宅医療・介護支援の実際（認知症） 第13～14回 家族介護者への介助技術・健康支援 （<u>△</u>₆ 佐々木 清子／4回） 第1回 オリエンテーション 在宅医療・介護をめぐる社会動向と課題 第11～12回 在宅医療・介護支援の実際（障害児者） 第15回 まとめ （<u>△</u>₈ 坂本 俊夫／4回） 第3～4回 在宅医療・介護支援の実際（中枢神経疾患） 第5～6回 在宅医療・介護支援の実際（運動器疾患）	オムニバス方式
職業専門科目	作業療法治療学	生活行為を支援するための環境整備 本科目は、作業療法が対象とする生活行為を支援するために必要な機器の適合や住環境整備等の環境因子からの働きかけを理解するために、演習形式でその理論的背景と支援の実際を理解する。具体的には、日常生活活動・手段的日常生活活動・日常生活関連活動を中心に、各種の補装具・日常訓練機器・福祉機器と住宅改修等を活用した支援方法論について学ぶ。	
職業専門科目	作業療法治療学	緩和ケアと作業療法 「緩和ケア」は対象者とその家族の「トータルペイン（全人的苦痛）」に焦点を当て、その苦痛の予防、緩和を図りQOL向上を図るためのアプローチをいう。緩和ケアの対象疾患は、「がん」のみならず、難病、認知症、呼吸器疾患、心疾患、小児慢性特定疾患等幅広い。作業療法士は、これらの対象者に対して機能障害・活動制限の改善や社会参加を図り、その人らしい生活を取り戻すことを目的として関わるが、終末期に至り機能や活動・参加レベルの改善が難しい場合であっても、緩和ケアという視点から、対象者と家族の「全人的苦痛」に焦点を当てることにより、QOL向上に貢献することができる。 本科目では、緩和ケアの概念と緩和ケアにおける作業療法士の役割を学び、症状に対する評価と対応、ADL能力の維持、QOL向上、環境調整と福祉用具の選定、対象者と家族の心理的サポート等の緩和ケアの実践に必要な知識・技能を学ぶ。また、緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ケア、デイ・ホスピス等における緩和ケアの実践例や多職種連携について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	地域作業療法学	地域作業療法学	住み慣れた地域で、その人らしい暮らし・生活をするために必要となる社会資源等とその活用方法、主として地域包括ケアシステムモデルを、講義を通じて作業療法の基本的な理論や考え方に基づいて学ぶ。また、実際の地域にある社会資源等を演習形式により体験することで、どのように活用するのかについて理解すると共に「在宅医療の推進」という視点についても理解する。 また、「地域共生社会の実現」などを例にとり、作業療法がどのように活用できるのかについて理解を深め、地域作業療法学実習や地域実習による実際の現場での支援を体験・学習することにつなげる。	
		就労支援論	作業療法が対象とする障害のうち、就労を必要とする対象者へ作業療法を提供するために、講義を通じて基本的な就労支援のあり方などを学び、事例による就労の計画立案等により理解を深める。 なお、初めての就労に対する支援から、再就職、配置転換などいろいろな場面が考えられることから、ICFの参加という側面だけではなく、環境因子の調整などを含めて就労に至る過程を理解することを目標とする。	
職業専門科目	地域作業療法学	生活環境学	地域での作業療法を展開する際に必要な、ICFにある環境因子のうち「サービス」「制度」「政策」を含めて、講義を通じて「まちづくり」について学ぶ。さらに、いくつかのまちづくりの事例からまちづくりとそこに住む人々の関係の理解を深めることを目標とする。 可能であれば、災害復興からのまちづくりなども含めることで、災害時に作業療法ができることはなにかを考える。	
職業専門科目	地域作業療法学	地域作業療法学実習	その地域で暮らす、住み慣れた場所で生活する人々を支援する作業療法について、実際の現場での支援を体験・実習することで、どのようなことができるのかについて、課題解決できることを目標とする。 対象は在宅高齢者に限らず、障がい者や障がい児、その家族をどのように作業療法が支援できるのかに焦点を置き、さまざまな視点からその実際を体験する。	
職業専門科目	地域作業療法学	障害児教育と作業療法	障がい児は就学後に保健医療福祉の現場から疎遠になる経験をすることも少なくない。しかし、保健医療専門職の支援は引き続き重要な要素であり、障がい児教育の中での保健医療支援をどのように取り入れるかが課題である。現状としては、特別支援学校や特別支援学級において直接作業療法士が関わる場面は多くは無いが、障がい児教育について理解することは作業療法士には重要な素養の一つである。ここでは、障がい児を対象とした教育学の基本事項と、特に特別支援教育に関する教育方法論を理解し、作業療法士の知識や技能が障がい児教育現場にどのように活用できるのかを考察する。また、事例を用いて、自身の学ぶ専門職の専門性と障がい児教育の実際との関連を理解し、具体的にどのような連携が可能なのかを考察する。	
職業専門科目	地域作業療法学	発達・精神障害に対する社会生活力と作業療法	地域で暮らす成人期の発達障がい者は、社会生活力の低さ、失敗体験によるストレスによりうつ病などの精神疾患を合併することも多く、就学・就労が困難となり引きこもりになる事例も多い。 本科目では、就学・就労の前段階として必要になる社会生活力に関する支援のあり方、特性や強みを活かし社会で自分らしく生活を送るための環境調整や活動の場の提供など、地域における発達・精神障がい者の生活力支援について検討する。 内容としては、自立訓練(生活訓練)施設、地域活動支援センターなど事業所の現状を学び、生活面・身体面・心理面など広範囲な支援が求められる地域での作業療法の役割について、医学的知識に基づき疾患・障がい特性を把握した上で、当事者の多様なニーズにあわせた生活力に対する支援の分析・アプローチ、課題などを多面的に検討し、専門性への理解を深めることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	臨床実習	体験実習Ⅰ	入学早期にさまざまな作業療法士がはたらく現場を体験し、現場の作業療法士が「どのような対象に」「どのような作業療法を」「どうして」「どのくらい」などの視点から理解できることを目標とする。特徴の異なる施設・事業所を各施設につき1日程度、複数施設の見学を行う。 本実習では、入学後できるだけ早期に、できるだけさまざまな作業療法現場を体験することで、視野を広げ、作業療法の活動の現場が広いことを理解する。	共同（一部）
		体験実習Ⅱ	入学後、一定程度の学びをした上で、作業療法士がはたらく現場を体験し、現場の作業療法士が「どのような対象に」「どのような作業療法を」「どうして」「どのくらい」などの視点から理解できることを目標とする。 本実習では、一定期間は同一施設で、視点を明確にしながら体験することで、作業療法の現場での動きを理解する。	共同（一部）
職業専門科目	臨床実習	評価実習Ⅰ	実習施設での実習開始前に、学内で実習のオリエンテーションにて、実習の目的、内容、スケジュール、課題、成績評価等について理解し、実技試験を行い学生自身の臨床能力を確認し、実習の準備を行う。 実習施設での実習では、実習指導者の下で、対象者の同意を得て、学内での講義・実習で修得した評価手技を実際に体験し、検査・測定の結果を記録する。さらに記録した結果から、いくつかの内容について対象者の肯定的側面と否定的側面を考察し、対象者の全体像又はその一部について論理的に考察することを目標とする。 実習施設での実習終了後に、学内で実習内容の振り返りを発表形式で行い、自身の実習体験だけではなく、他者の実習体験を通じて、幅広く問題解決の手法を学ぶことを目標とする。また、学生自身が体験した検査・測定の手技や方法をより正確に実施できるように、そして検査・測定から得られた結果を作業療法の治療・アプローチにどのように活用することができるのかを検討することで、さらに主体的な問題解決へとつなげることができることを目標とする。	共同（一部）
		評価実習Ⅱ	実習施設での実習開始前に、学内で実習のオリエンテーションにて、実習の目的、内容、スケジュール、課題、成績評価等について理解し、実技試験を行い学生自身の臨床能力を確認し、実習の準備を行う。 実習施設での実習では、「評価実習Ⅰ」とは異なる施設で、特徴の異なる対象者の実習を行う。実習指導者の下で、対象者の同意を得て、学内での講義・実習で修得した評価手技を実際に体験し、検査・測定の結果を記録する。さらに記録した結果から、いくつかの内容について対象者の肯定的側面と否定的側面を考察し、対象者の全体像又はその一部について論理的に考察することを目標とする。 実習施設での実習終了後に、学内で実習内容の振り返りを発表形式で行い、自身の実習体験だけではなく、他者の実習体験を通じて、幅広く問題解決の手法を学ぶことを目標とする。また、学生自身が体験した検査・測定の手技や方法をより正確に実施できるように、そして検査・測定から得られた結果を作業療法の治療・アプローチにどのように活用することができるのかを検討することで、さらに主体的な問題解決へとつなげることができることを目標とする。	共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	臨床実習	総合実習Ⅰ 実習施設での実習開始前に、学内の実習のオリエンテーションにて、実習の目的、内容、スケジュール、課題、成績評価等について理解する。また、実習に必要な知識が備わっているかを筆記試験で確認をし、技術・態度面はOSCEを行い学生自身の臨床能力を確認し、実習の準備を行う。 実習施設での実習では、実習指導者の下で、対象者の同意を得て、学内での講義・実習で修得した評価手技を実際に体験し、検査・測定の結果を記録する、さらに記録した結果から、いくつかの内容について対象者の肯定的側面と否定的側面を考察し、対象者の全体像について論理的に考察し、作業療法の治療・アプローチの計画立案、その計画を実施する。可能な限り、その計画の実施の効果が測定できるような評価を実施し、効果について考察を深めることができることを目標とする。 実習施設での実習終了後に、学内で実習の内容の振り返りを行い、学生自身が体験した検査・測定手技からその結果解釈、作業療法計画の立案、作業療法の実施、その効果判定のための評価を通じて、作業療法の一連の流れを事例として理解する。 具体的には、事例発表の形式を実施するための準備から発表、質疑応答、そこからの気づきを経験し、事例レポートとしてまとめ、技術・態度面は、OSCEを実施し確認を行う。 また、自身の実習体験だけではなく、他者の実習経験を通じて、幅広く問題解決の手法を学ぶことを目標とする。	共同（一部）
職業専門科目	臨床実習	総合実習Ⅱ 実習施設での実習開始前に、学内の実習のオリエンテーションにて、実習の目的、内容、スケジュール、課題、成績評価等について理解する。また、実習に必要な知識が備わっているかを筆記試験で確認をし、技術・態度面はOSCEを行い学生自身の臨床能力を確認し、実習の準備を行う。 実習施設での実習では、「総合実習Ⅰ」とは異なる施設で、特徴の異なる対象者の実習を行う。実習指導者の下で、対象者の同意を得て、学内での講義・実習で修得した評価手技を実際に行い、検査・測定の結果を記録する、さらに記録した結果から、いくつかの内容について対象者の肯定的側面と否定的側面を考察し、対象者の全体像について論理的に考察し、作業療法の治療・アプローチの計画立案、その計画を実施する。可能な限り、その計画の実施の効果が測定できるような評価を行い、効果について考察を深めることができることを目標とする。 実習施設での実習終了後に、学内で実習の内容の振り返りを行い、学生自身が体験した検査・測定手技からその結果解釈、作業療法計画の立案、作業療法の実施、その効果判定のための評価を通じて、作業療法の一連の流れを事例として理解する。 具体的には、事例発表の形式を実施するための準備から発表、質疑応答、そこからの気づきを経験し、事例レポートとしてまとめ、技術・態度面は、OSCEを実施し確認を行う。 また、自身の実習体験だけではなく、他者の実習経験を通じて、幅広く問題解決の手法を学ぶことを目標とする。	共同（一部）
職業専門科目	臨床実習	地域実習 在宅生活を支援するための訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションの場面で、指導者の下で、対象者の同意を得て、学内での講義等で修得した地域包括ケアシステムや共生社会の構築に向けた作業療法実践について、生活行為向上マネジメント等を活用した支援内容について経験する。 また、「生活する」という視点を重視して、「健康寿命の延伸」及び「在宅医療・介護の推進」という視点を踏まえ地域での社会資源等の活用を含めた考察過程を理解することを目標とする。	共同（一部）
展開科目	統合分野	共生社会の展開と実践 超高齢社会、健康寿命の延伸など、現代社会の課題を認識し、共生社会の維持・向上に寄与できる作業療法士として、将来活動するための考え方を養う。「隣接他分野」で学修した日常生活支援と社会参加に隣接する他分野の知識・技術と「組織の経営・マネジメント」の学修を統合・総括し、共生社会の維持・向上に貢献しうる役割や支援にどのように展開・実践できるかについて、グループ演習により考察する。グループによるディスカッション結果の発表は、作業療法学科と理学療法学科の合同で行い、他学科における応用の考え方に触れる機会を設け、積極的に他職種と協働するための姿勢を育成する。この科目は展開科目と職業専門科目の担当教員が共同で行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	隣接他分野	共生福祉論	“共生福祉”に関する様々なとらえ方を把握した上で、“共生社会”との関連性を明確にする。また、援助専門職にとつての“共生福祉”の意味と意義を明らかにし、地域社会において多職種による連携・協働、市民の協力を得た上でのネットワーキングの必要性を明確にする。これらを具体的かつ実践的に学んでいく。	
展開科目	隣接他分野	ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅰ	年齢や障がいなどに関わらず、誰もが外出や旅行を楽しむユニバーサルツーリズムの定義、意義について学ぶ。高齢者や障がい者などは施設や住宅での限られた環境下の生活から、「お出かけ」をすることで徐々に社会参加が促進される。本人への刺激、生きがい、健康増進への意欲が促進されるだけでなく、周囲の人々への理解を深めるなど、外出の意味は大きい。外出や旅行の意義、共生社会へつながる一歩であることなどを、ユニバーサルデザインやバリアフリーとの関係、障がいの社会モデルについて、先進事例などを紹介しながら国内の状況について考える。	
展開科目	隣接他分野	ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅱ	年齢や障がいなどに関わらず、誰もが外出や旅行を楽しむユニバーサルツーリズムについて、実際の街を歩いてその課題と解決策についてグループワークを通して学ぶ。高齢者や障がい者が実際の街でどのような不便があり、誰もが外出や旅行を楽しむためには何が必要かをグループワーク、フィールドワークを通して考える。改善提案では地域の活性化につなげたプランについて、プレゼンシートを作成し、コンテスト形式で発表を行う。	
展開科目	隣接他分野	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ	本科目では、保健医療を学ぶ学生にとって実践的な美容ケアについて学ぶ。先天性のもの、あるいは怪我や病気、加齢などによる外表の形態及び心的ストレスに対し、美容の知識と技術によって、認知機能や、運動機能、ADLやQOLが向上する、あるいは社会復帰が促進されることが実証されている。本科目では、まず美容理論として、美容の歴史、理論的な基礎、最新の状況や心理的な作用を学ぶ。さらに、美容を施すことにより得られる対象者の心身への効果、リハビリや介護の領域における美容の応用事例について学ぶ。また、エンゼルメイクやリハビリメイクについても、意義や方法について説明する。「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ」で行う実技の具体的な内容や必要性と効果についても、グループディスカッション等を通じて理解する。	
展開科目	隣接他分野	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ	保健医療分野において対象者に美容・整容等を実践するための技術を学ぶ。高齢者にとって化粧は外出の動機づけにもつながり、外出頻度とも関係すると言われている。スキンケア・フェイシャルトリートメント・スカルプ&ヘアケア・メイクアップ・ネイルケアの技術の基礎について、学生相互に実践しながら学ぶ。対象者に実際に化粧・整容等の指導・アドバイスができるよう、必要な対象者へどのように美容・整容等の指導・アドバイスを行っていくのかを実技を通して理解する。また、保健医療の分野で対象者に美容・整容等の指導・アドバイスを施す際に必要な用具や化粧品等の種類や使用方法等について理解を深める。	
展開科目	隣接他分野	音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ	イントロダクションでは、介護予防や在宅医療を含む医療福祉の様々な現場で行われている音楽療法について体験的に学び、対象者のQOLの維持・向上の為に音楽をどのように活用できるかを考える。次に音楽療法の基礎理論として、音楽が自律神経や情緒・感情に与える作用、音楽が身体運動を誘発し促進する作用、非言語コミュニケーション・ツールとしての音楽の役割と、乳幼児期の言語獲得に深く関わる音楽の役割、音楽の社会的機能について学び、これをリハビリテーションや発達支援に活用する方法を学ぶ。講義の後半では、各領域の事例から具体的な音楽の活用法を紹介し、3年次の実技に向けて、音楽療法で用いる技法の一部とツールとしての音楽の特性および使用する際の留意点について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	隣接他分野	音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ	心身の機能を高め交流を促進する音楽の特性を活かし、対象者のQOLの維持・向上を目指す活動プログラムを考え、模擬活動として実施しながら課題や改善点について話しあい、修正していく。自分の音楽スキルを知り、それを有効に活用できるようになるために、グループ単位で音楽演奏にも取り組んでもらう。最終的に、医療や福祉の現場を想定した集団プログラムもしくは在宅医療・介護の現場を想定した介護者にもできる簡易な個別プログラムのどちらかを選択し、音楽を活用した活動計画書を作成する。	
展開科目	隣接他分野	身体障害への支援システム工学Ⅰ	ロボットに代表される保健医療分野における支援システムの開発から市場投入までの一連のプロセスを、実証実験手法も含めて体系的に学ぶ。 基礎として、人間の感覚、認知、認識特性に基づくヒューマンインタフェースの設計手法について学習する。次に障害特性の定義と代行手段の選択に基づいた要件定義と製品化手法について、福祉介護の現場で行う試作機を用いた実証実験による仮説検証手法とアンケートの評価手法に重点を置いて学ぶ。	
展開科目	隣接他分野	身体障害への支援システム工学Ⅱ	保健医療機器の製品化プロセスを障がい当事者向けのマウス操作作用のインタフェースを事例に学ぶ。インタフェースは、障害種別を想定して試作する。実証実験では、試作したインタフェースをPC（Windows）の補助機能の組み合わせで機能評価とアンケートを実施し、統計的解析手法を用いてその有効性を検証する。	
展開科目	隣接他分野	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ	手話とは日本語とは異なる独自の文法・語彙体系を持った視覚言語であり、聴覚障がい者とのコミュニケーションツールの一つである。手話をはじめとするさまざまなコミュニケーションを持つ聴覚障がい者についての学習（障がいについて、コミュニケーション方法、暮らし、置かれている社会状況など）を通して、聴覚障がいに関する基礎知識を理解することを目的とする。コミュニケーションの一つである手話であいさつや自己紹介程度の簡単な会話ができることを目指す。	
展開科目	隣接他分野	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ	手話とは日本語とは異なる独自の文法・語彙体系を持った視覚言語であり、聴覚障がい者とのコミュニケーションツールの一つである。手話をはじめとするさまざまな聴覚障がい者とのコミュニケーション方法を学び、手話で日常会話ができることを目指す。また学んだ手話を活かして療法実践の場で活用できるようにする。	
展開科目	組織の経営・マネジメント	実務リーダーのための経営戦略論	経営戦略の基本概念を、経営理念と経営ビジョンとの関係を交えて理解する。事業別戦略や機能分野別戦略について、各分野の実務家講師による事例を扱った講義と意見交換を通じ、実践的に理解をする。保健医療に関する事例も取り上げる。グループワークや発表を通じて、将来を主体的に構想し、その実現に向けて関係者の協力を形成する基礎的な能力を養う。	
展開科目	組織の経営・マネジメント	組織・人材マネジメントの理論と実践	人材の持つ潜在能力を引き出し発揮させる仕掛けやしぐみは重要な経営の要素である。 本科目では、組織を一から創っていく時に必要な考え方を時系列に学ぶことによって、組織および人材マネジメントの考え方を理解できるようにカリキュラムを組んでいる。 また人が成長し活力ある組織にするために良い組織の要件の理解から始まって、組織のあり方、組織の創り方や組織と人を主体的に動かすマネジメントのあり方、そして人材のマネジメントの仕方とともに、保健医療の組織論についても学ぶ。	
展開科目	組織の経営・マネジメント	実践マーケティング戦略	顧客のニーズを理解し、顧客に対しどのような価値を提供するべきかを考えることは、企業活動の基本であるだけでなく、社会的組織においても重要である。本科目では、マーケティングの基本的な考え方から、各種のフレームワーク、理論、調査分析手法を学ぶことにより、顧客のニーズを把握し、事業や商品サービス開発につなげるための知識を身に着ける。保健医療分野とともに、保健医療分野に親和性の深いサービス業におけるマーケティングについても、考え方を事例により学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	組織の経営・マネジメント・マネジ	保健医療経営Ⅰ	急激に進行しつつある超高齢化、人口減少社会にあつて、保健医療分野の役割が重要化しつつある。また、膨らむ医療費・介護費の問題、医師不足などの人的資源の問題、情報資源活用等、問題・課題が山積している。本講義では、保健医療の経営を考えるうえで根幹となる介護報酬（社会報酬）や診療報酬等制度の仕組みを中心に解説する。保健医療経営の事業構造を経営主体別に学び、介護経営、病院経営等のソリューション（問題解決）に役立つ人材育成を目指す。	
展開科目	組織の経営・マネジメント・マネジメ	保健医療経営Ⅱ	保健医療経営Ⅰを踏まえ保健医療経営Ⅱでは、各分野の経営（病院、介護、社会福祉法人、在宅サービス）をヒト、モノ、カネ、情報から捉え、そのマネジメント手法を解説する。具体的には、病院、介護、社会福祉法人、在宅サービス等を実践している施設のケースを通し、業務改善、経営改善手法を学び、診療報酬、介護報酬（社会報酬）、地域福祉計画（社会福祉増進計画）、医療計画等についてより実践的に学ぶ。また、起業した人材や会社の事例から、保健医療領域での現場改善や起業のニーズ、シーズの活かし方を深める。	
展開科目	組織の経営・マネジメント	実務リーダーのための財務会計Ⅰ	財務諸表の理解は、ビジネスの世界で必須であるが、単に会計ルールや会計用語を学んでも意味はなく、経営に活かす視点こそが重要である。 当授業では、長年、様々な法人の会計監査を行ってきた専門家が、実際の財務指標を教材にしながら、経営と関連付けた実践的な授業を行う。 「実務リーダーのための財務会計Ⅰ」では、実務リーダー・マネジメント層として理解すべき基本的な会計理論を学び、保健医療分野の会計についての講義も行う。	
展開科目	組織の経営・マネジメント	実務リーダーのための財務会計Ⅱ	財務諸表の理解は、ビジネスの世界で必須であるが、単に会計ルールや会計用語を学んでも意味はなく、経営に活かす視点こそが重要である。 当授業では、長年、様々な法人の会計監査を行ってきた専門家が、実際の財務指標を教材にしながら、経営と関連付けた実践的な授業を行う。 「実務リーダーのための財務会計Ⅱ」では、実務リーダー・マネジメント層として実務上把握すべき財務数値とその活用方法について講義を行う。金融機関との付き合い方など、実務上役立つ知識も提供する。	
展開科目	組織の経営・マネジメント・マネジメ	ビジネスのための法律	専門的・実務的な能力を活かして就職あるいは起業する上では、その事業に関する様々な法令を遵守する必要がある。 当授業で、事業に必要なライセンス、会社や法人の立ち上げ、人の雇用、事業遂行上のリスク管理などすべてのビジネスに共通する情報とともに保健医療分野にかかわる情報をインプットし、保健医療の世界で活躍するための実践力を身に付ける。 長きに渡り法律のプロフェッショナルとして実務に当たってきた教員が、経験を通して得た、実践で役立つエッセンスを分かり易く解説する。	
展開科目	組織の経営・マネジメント	ビジネスのためのIT	情報技術（IT）は一般企業にも行きわたり、ビジネスを組み立てる、実行するうえでも必須の要素となっている。ITがビジネスで活用されている身近な事例を教材として用い、ビジネスの具体的な場面で用いられているITの用語や、保健医療分野ではどういった目的でITが活用されているか等を学習する。講義内では、本講義で学ぶ事例、いままでに情報関連の科目で学んだ知識を活用するためのグループディスカッションの機会を複数回設け、学習した事例をもとにITを活用したビジネスアイデアを練る力を身につける。 （キーワード） IT、Webサービス・アプリケーション、ビッグデータ、IoT、ウェアラブルコンピュータ	

授 業 科 目 の 概 要				
リハビリテーション学部 作業療法学科				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	組織の経営 ・ マネジメント	在宅サービスの事業経営	地域包括支援システムの構築にあたり、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし、安定した日常を送るためには、適切な住まいが必要である。 本講座では、地域密着型サービス、小規模多機能型サービスやサービス付き高齢者向け住宅等を全国で展開している企業で実務を担う専門家が、実際の施設やサービスを元に、「市場認識」・「事業継続」・「事業運営」など、実際の事業において成否を決める視点を教授する。地域包括支援センターとの関係や地域交流など、運営面でのポイントも学ぶ。	
	組織の経営 ・ マネジメント	事業計画策定概論	企業の継続的成長や顧客創造を実現するために新たな事業活動は不可欠である。新たな事業活動の出発点である事業を構想（アイデア出し）する発想法を学び、グループで協力し、保健医療分野において新しい事業やサービスを計画するための事業計画書を策定するプロセスを習得する。策定過程において、ビジョン、事業コンセプト、マーケティング戦略、財務戦略等の重要性を理解する。グループの意思集約を重視したオンリーワンの構想を形にする。	
展開科目	組織の経営 ・ マネジメント	総合事業開発	経営分野の学びを、どのように保健医療分野及び隣接他分野で活かすことができるか、両者の接続を図ることを目的とする。事例研究を基に、ディスカッション形式による授業を展開する。保健医療福祉分野の経営戦略・マーケティング・財務戦略・IT・人事戦略の事例、隣接他分野での新しいサービス開発事例などを取り上げる。ゲストスピーカーを招き、実務現場の臨場感を伝える場を設けるなど、実践的な授業を行う。	
総合科目		作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」では、作業療法研究に関する基礎を学習する。 作業療法研究は、臨床（病院や施設で作業療法を実践すること）、教育（後輩作業療法士や学生の指導を行うこと）と並び、重要な業務の一つである。作業療法の基礎をなす作業療法概論や基礎作業について学び、さらに作業療法に関連する学問を学びつつある。今後、この学びを通して見出した作業療法の関心事から学生自身の研究テーマを探して決定することとなる。 本ゼミナールでは、作業療法における研究の意義や目的、方法、プロセス等の基本的な事項について学習する。そして、担当教員が実践した研究の紹介から、研究テーマがどのようなものであるのかについて理解を深めるものとする。これらの学びを通して、学生は研究の概略を理解し、自らが作業療法研究に勤しむ者としての態度と知識を得ることを目標とする。	
総合科目		作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△ 里村 恵子） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」では、作業療法研究に関する基礎を学習する。 作業療法研究は、臨床（病院や施設で作業療法を実践すること）、教育（後輩作業療法士や学生の指導を行うこと）と並び、重要な業務の一つである。作業療法の基礎をなす作業療法概論や基礎作業について学び、さらに作業療法に関連する学問を学びつつある。今後、この学びを通して見出した作業療法の関心事から学生自身の研究テーマを探して決定することとなる。 本ゼミナールでは、作業療法における研究の意義や目的、方法、プロセス等の基本的な事項について学習する。そして、担当教員が実践した研究の紹介から、研究テーマがどのようなものであるのかについて理解を深めるものとする。これらの学びを通して、学生は研究の概略を理解し、自らが作業療法研究に勤しむ者としての態度と知識を得ることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△ 小林 毅） 本科目では、学科の目指す学習目標に則り、作業療法士として必要な臨床・教育と研究の関係性と必要性を理解し、学生自身が疑問をもつテーマを構築できることを目標として、基本的な研究に関するプロセスを身につける。 具体的には、担当教員の過去の研究に鑑みた例示を用いることで、研究疑問－研究命題の構築などの一連のプロセスを理解する。なお、本科目では、「作業療法研究基礎ゼミナールⅡ」に発展的に学習が継続できるよう、研究テーマを設定する過程で研究に対する基本的な知識と研究に対する態度を身につける。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△ 猪股 英輔） 高齢期における作業療法について、疾患・障害別、実践領域ごとに概観する。作業療法実践では、先行研究の成果がどのように活用され、研究と臨床が結びついているのかを学習する。 研究と実践の結びつきの具体例は、病院、施設入所、通所、訪問、介護予防・健康増進活動、終末期まで幅広く紹介する。そこで学生が視野を広げ、研究テーマの探求に至るまで、学生自身が興味に気付けるように指導する。 その結果、学生は、作業療法の研究の意義や目的を理解し、臨床実践と研究の両立した態度と知識を得ることとする。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△ 星 克司） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」では、作業療法研究に関する基礎を学習する。 作業療法研究は、臨床（病院や施設で作業療法を実践すること）、教育（後輩作業療法士や学生の指導を行うこと）と並び、重要な業務の一つである。作業療法の基礎をなす作業療法概論や基礎作業について学び、さらに作業療法に関連する学問を学びつつある。今後、この学びを通して見出した作業療法の関心事から学生自身の研究テーマを探して決定することとなる。 本ゼミナールでは、作業療法における研究の意義や目的、方法、プロセス等の基本的な事項について学習する。そして、担当教員が実践した研究の紹介から、研究テーマがどのようなものであるのかについて理解を深めるものとする。これらの学びを通して、学生は研究の概略を理解し、自らが作業療法研究に勤しむ者としての態度と知識を得ることを目標とする。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（△ 齋藤 久恵） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」では、作業療法研究に関する基礎を学習する。 作業療法研究は、臨床（病院や施設で作業療法を実践すること）、教育（後輩作業療法士や学生の指導を行うこと）と並び、重要な業務の一つである。作業療法の基礎をなす作業療法概論や基礎作業について学び、さらに作業療法に関連する学問を学びつつある。今後、この学びを通して見出した作業療法の関心事から学生自身の研究テーマを探して決定することとなる。 本ゼミナールでは、作業療法における研究の意義や目的、方法、プロセス等の基本的な事項について学習する。そして、担当教員が実践した研究の紹介から、研究テーマがどのようなものであるのかについて理解を深めるものとする。これらの学びを通して、学生は研究の概略を理解し、自らが作業療法研究に勤しむ者としての態度と知識を得ることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（ <u>△</u> ₁₀ 秋元 美穂） 本ゼミナールは高齢者を対象に、まずはわが国の高齢者を取り巻く現状を理解し、病院から自宅または施設等に戻る高齢者が、その後どんな生活を送るのか、必要な介護保険サービスとは何かについて学ぶ。実際に在宅生活を行う高齢者が介護老人保健施設の通所リハビリテーションを利用し、多職種連携のもと行うチームアプローチから得られた効果についての具体的な研究の紹介を行い、その一連のプロセスを通して研究の概略を理解することを目標とする。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（ <u>△</u> ₁₁ 井口 佳晴） テクノロジー（科学技術）の進化は日進月歩である。作業療法領域においても、治療や支援の場面で様々なセンサー、インターフェース、情報通信技術（ICT）、ロボットなどのテクノロジー（科学技術）を活用している報告は少なくない。今後さらに、テクノロジーの導入により、作業療法のあり方も様変わりするであろう。ゼミでは、テクノロジーの進化が、将来の作業療法にどのように影響を及ぼすかを探求していく。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（ <u>△</u> ₁₂ 佐々木 清子） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」では、発達障害領域における作業療法研究に関する基礎を学習する。発達障害領域の研究の意義や目的、方法、プロセスの基本事項について学習する。これまで発表した発達障害領域に関する研究を紹介し、研究テーマへの理解を深め、学生自ら研究テーマを探し決定する。紹介する研究対象の疾患は、脳性麻痺などの中枢神経系の障害、発達障害、低出生体重児、知的障害や自閉症スペクトラム症、発達性協調運動障害などの発達障害であり、広く多様な疾患に対する作業療法研究の意義や理解を深めていく。さらに、それらの疾患に対する、摂食嚥下機能、上肢機能、感覚調整などの心身機能の改善と活動や参加の関係を理解し、研究の意義を深め、学生自ら、作業療法研究における態度と知識を得ることを目的とする。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（ <u>△</u> ₁₃ 近野 智子） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」では、作業療法研究に関する基礎を学習する。作業療法における研究の意義や目的、方法、プロセス等の基本的な事項について学習し、研究の概略を理解し、自らが作業療法研究に勤しむ者としての基本的態度と知識を得ることを目標とする。本ゼミナールでは、主に身体障害領域の研究を中心に紹介し、これまでの作業療法における基礎研究、臨床研究、事例研究等に触れることにより、研究の概略を理解し、自らが作業療法研究に勤しむ者としての基本的態度と知識を得ることを目標とする。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	（ <u>△</u> ₁₄ 坂本 俊夫） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」では、研究テーマとして「日常生活活動」の支援方法の発展に焦点を当て、その構成要素となる「健康状態」「心身機能・身体構造」「参加」「背景因子（環境因子および個人因子）」との関連についての研究を取り上げる。「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」（3年前期）では作業療法研究の基礎として、指導教員がこれまで実践した身体障害、発達障害、老年期領域の作業療法研究を概観し、研究の背景や研究の意義、目的から考察までの研究の流れを学ぶ。この学びから学生は研究の概略を理解し、研究の重要性とともに自らが作業療法研究に勤しむ者としての態度と知識を得ることを目標とする。また研究に関する各手法（文献研究・調査研究・実験研究・質的研究など）について参考となる研究論文を供覧し、研究の基礎から発展まで理解できるように進める。ゼミの終了時には、学生一人一人が「研究の元となるタネ」（以下、「研究のタネ」）を見出すことを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	「作業療法研究基礎ゼミナールⅡ」は、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」の学習を継続して行う。作業療法を科学的に考察するために必要な研究方法における基本的な理論を学習し、作業療法研究領域で主に用いられる研究手法について学習する。また様々な先行研究について文献検索による情報収集を行い、学生を主体とする文献抄読の演習を行い、問題の解決に活用できる情報を獲得する能力を養う。これらの学びを通し、研究テーマの決定方法、情報収集の方法、適切な手法の選択方法、研究計画の立案方法、分析方法等研究の基本的なプロセスを学習することを目標とする。様々な科目を履修する中で、継続して学生が研究テーマを構築していくことができるように、担当教員が継続して指導を行う。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△ 里村 恵子） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅡ」は、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」の学習を継続して行う。作業療法を科学的に考察するために必要な研究方法における基本的な理論を学習し、作業療法研究領域で主に用いられる研究手法について学習する。また様々な先行研究について文献検索による情報収集を行い、学生を主体とする文献抄読の演習を行い、問題の解決に活用できる情報を獲得する能力を養う。これらの学びを通し、研究テーマの決定方法、情報収集の方法、適切な手法の選択方法、研究計画の立案方法、分析方法等研究の基本的なプロセスを学習することを目標とする。様々な科目を履修する中で、継続して学生が研究テーマを構築していくことができるように、担当教員が継続して指導を行う。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△ 小林 毅） 本科目では、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて、研究命題を解決するための具体的な方法を学習し、実際に学生自身で体験することで、研究の一連のプロセスを理解することを目的とする。 具体的には、文献抄読などに因り、研究の基本的なプロセスと抄録や原著などの発表に至る一連のプロセスを、実際の文献検索や実験から結果の集計や統計等の量的研究、質問調査等の質的研究等のさまざまな事例（文献抄読等）から、その方法を理解する。また、PECO等のリサーチクエッションから解決方法までの過程を模擬的に体験することで、「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」で学生自身が実際に経験する科目に向かうための準備とする。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△ 猪股 英輔） 研究領域は、高齢期における作業療法実践の知識をもとに、医療・介護保険サービス、認知症をもつ人と家族の生活支援、介護予防・健康増進等の地域リハビリテーション、地域における共生社会の実現に向けた挑戦的課題などに焦点を当てていく。 研究テーマの構築には、研究疑問の立て方が重要となる。研究テーマの選択は、講義で学んだ作業療法の実践モデルや事例、臨床実習の経験から生まれた疑問を重視する。 とくに高齢期における作業療法のうち、学生自身が興味をもつ領域の先行研究を調査できるように指導し、具体的な文献検索の方法や研究課題の導き方を学習する。	
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△ 星 克司） 身体障害領域において、身体機能の回復を促すための様々な治療方法、生活動作に応用する日常生活動作支援、工学的、生活環境に支援する技術などに関して多岐にわたるアプローチがとられる。その過程の中で様々な疑問に対して多様な分析、研究手法がとられる。それらを理解するために先行研究の文献等の検索、抄読により情報の獲得、研究方法の過程などを学び、今後行っていく研究のテーマの設定、研究方法などの基本的プロセスを学んでいく。そして今後、主体的に研究テーマの策定等を行っていくための基礎を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△ ₈ 齋藤 久恵） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅡ」は、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」の学習を継続して行う。作業療法を科学的に考察するために必要な研究方法における基本的な理論を学習し、作業療法研究領域で主に用いられる研究手法について学習する。また様々な先行研究について文献検索による情報収集を行い、学生を主体とする文献抄読の演習を行い、問題の解決に活用できる情報を獲得する能力を養う。これらの学びを通し、研究テーマの決定方法、情報収集の方法、適切な手法の選択方法、研究計画の立案方法、分析方法等研究の基本的なプロセスを学習することを目標とする。	
総合 科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△ ₁₀ 秋元 美穂） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」で学んだ事を基礎として、介護保険下の高齢者に効果または非効果のあった様々な論文を検索し抄読を行う。それらの論文から手法を学び、自分が行いたい研究やテーマをより明確に考えていく。研究テーマに沿った情報を得て、実際に研究計画を立案し、分析の手法についてはどんな方法があるのかを学び、そこから得られる結果の予測を行う。このような基本的なプロセスを自分のテーマをもとに考えていく。	
総合 科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△ ₁₁ 井口 佳晴） 作業療法領域において、テクノロジーを活用した実践報告を中心に、情報収集を行う。情報収集により得られて知見を分野や場面などで分類していく。この過程の中で、どのようなテクノロジーが利用されているのか、どのような領域で効果的に活用されているのかを分析する。	
総合 科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△ ₁₈ 佐々木 清子） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅡ」は、発達障害領域の「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」の学習を継続して行う。作業療法を科学的に考察するために、発達障害領域の作業療法研究領域で主に用いられる研究手法について学習する。また様々な先行研究について、文献検索による情報収集を行い、学生を主体とする文献抄読の演習を行い、問題の解決に活用できる情報を収集できる能力を養う。これらの学びを通し、研究テーマの適切な手法の選択や決定方法、研究計画の立案、分析方法等研究の基本的なプロセスを学習する。また、学生が研究テーマを構築できるように、学生間で意見交換をしながら進めていく。	
総合 科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（△ ₁₉ 近野 智子） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅡ」は、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ」の学習を継続して行う。作業療法を科学的に考察するために必要な研究における基本的な理論を学習し、作業療法研究領域で主に用いられる研究手法について学習する。本ゼミナールでは、主に身体障害領域における様々な先行研究について文献検索、文献抄読の演習を行い、ある問題の解決に活用するための情報を獲得し、批判的に検討する能力を養う。また、演習授業を通して、研究テーマの決定、情報収集、研究手法の選択、研究計画の立案、研究実践及び分析方法等の研究の基本的なプロセスを学習することを目標とする。学生が自ら興味のあるテーマを探索し、今後も研究テーマを構築していけるように継続して指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	（<u>△</u> 坂本 俊夫） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅡ」では、学生一人一人が見出した「研究のタネ」を元に、これまで作業療法学科の学生として得た知識を加え「研究テーマ」（研究できる形の命題）を決定することを目指す。ゼミでは、まず学生一人一人が各自で「研究のタネ」に関する資料（関連書籍や先行研究など）を収集することから始める。収集した資料は、各自で要約とクリティカルレビューを行う。この要約やクリティカルレビューはゼミ内で各自の発表を通して、グループワークから他者の貴重な意見を得ることで、さらに複眼的に捉えて自らの興味関心を洗練することを目指す。最終的に「研究テーマ」（研究できる形の命題）を決定し、研究テーマの説明と研究計画のガイドラインをまでを小論文として作成する。授業の最後には、学生一人一人がこの小論文について発表する機会を通じて、研究の実現に向けた学びとさらなる研究への情熱を培う場とする。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」は、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」から引き続いて、作業療法を科学的に考察するために必要な研究方法について、より実践的に学習を進める。これまで継続的に検討してきた学生自身の研究テーマの策定や研究の意義の検討・確認、研究計画の立案、文献検索等の情報収集、データ収集、結果の整理、統計学的手法やその他の方法による分析・考察等を演習し、作業療法研究を実践する。この実践の学びを通して、統計学的分析やその他の方法による分析により明らかに出来ることとその限界、適切な分析方法の選択等を実践できる能力を養い、学生が科学的な思考能力を身につけられるように授業を進める。最終的には、これらの演習を通して、研究計画書を作成し、研究手順を実際に行い、作業療法研究を実践できることを目標とする。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（<u>△</u> 里村 恵子） 「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」を基礎として、学生の希望研究テーマを深め、研究計画の立案のために、文献研究から着手する。研究方法の検討を経て、結果の処理を立案の上、研究計画を実施する。専門職大学の特性を生かし、地域等のフィールドを研究対象にできるよう指導を行う。対象とする領域は作業療法の特に精神科臨床領域、地域における精神科リハビリテーション、作業療法教育、作業療法管理である。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（<u>△</u> 小林 毅） 本科目では、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」で修得した研究に関する基本的な考え方や方法を元に、学生自身が持つ「疑問」を解決するために、PECO等の流れに沿って、考察までの過程を体験、理解することを目的とする。 具体的には、学生自身のリサーチクエッションから解決に至る一連のプロセスと計画を立案し、実験や調査等を行い、その結果をまとめて考察する。質的・量的研究等については、学生がもつ疑問から適切に研究を進めることができる方法を選択するが、作業療法に必要な研究課題の設定とその解決の過程を理解することに重きを置く。 なお、研究に関する倫理的配慮等についても、一連の過程を通じてその必要性和方法について理解する。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（<u>△</u> 猪股 英輔） 高齢期の作業療法に関する卒業研究のテーマを決定する。次に学生自身の研究疑問をもとに課題を見出し、これを解決するための研究計画書を立案、作成する。 どの研究デザインにも共通する初期工程として、学生自身の研究テーマに合わせた文献レビューにより、先行研究の成果と課題を導けるように指導する。学生個々の課題解決手段に応じて、文献研究、調査研究、実験研究などから研究デザインを選択できるように指導し、一連の研究過程を理解する。 最終目標として、研究計画書の手順に従い、高齢期における作業療法に関する研究を実践できるように指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△ 星 克司） 身体障害領域において、身体機能の回復を促すための様々な治療方法、生活動作に応用する日常生活動作支援、工学的、生活環境に支援する技術などに関して専門的知識として学んだこと、演習、見学などで体験したことを整理する。そこで生まれた興味、疑問に関して、学生自身の研究テーマの策定に結び付くよう、文献等の情報収集により得た知識、分析を行う。さらに障害のどのレベルをテーマとするかにより異なる研究手法の選択などを演習を通して実践能力を身につける。自らの研究計画書を作成できるようにする。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△ 齋藤 久恵） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」は、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」から引き続いて、作業療法を科学的に考察するために必要な研究方法について、より実践的に学習を進める。本ゼミナールでは青年期の精神障害・発達障害領域における医療から地域・福祉への連続した支援（退院促進支援・生活支援・就労支援など）における作業療法の現状、その意義、今後の可能性などを検討するために求められる研究テーマを学生自身が策定し、その研究の意義の検討・確認・研究計画書の立案、文献検索等の情報収集、データ収集、結果の整理、統計学的手法やその他の方法による分析・考察等を演習し、作業療法研究を実践する。この実践の学びを通して、統計学的分析、その他分析方法の選択、その実践と限界、思考能力の向上を目指し、最終的には研究計画書を作成し、研究手順に沿って研究を実践できることを目標とする。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△ 秋元 美穂） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」は、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」から引き続いて、作業療法を科学的に考察するために必要な研究方法について、より実践的に学習を進める。これまで継続的に検討してきた学生自身の研究テーマの策定や研究の意義の検討・確認、研究計画の立案、文献検索等の情報収集、データ収集、結果の整理、統計学的手法やその他の方法による分析・考察等を演習し、作業療法研究を実践する。この実践の学びを通して、統計学的分析やその他の方法による分析により明らかに出来ることとその限界、適切な分析方法の選択等を実践できる能力を養い、学生が科学的な思考能力を身につけられるように授業を進める。最終的には、これらの演習を通して、研究計画書を作成し、研究手順を実際に行い、作業療法研究を実践できることを目標とする。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△ 井口 佳晴） これまで継続的に検討してきた学生自身の研究テーマの策定や研究の意義の検討・確認、研究計画の立案、文献検索等の情報収集、データ収集、結果の整理、統計学的手法やその他の方法による分析・考察等を演習し、作業療法研究を実践する。この実践の学びを通して、作業療法領域にテクノロジー導入にする際の効果判定について分析できるように、学生が科学的な思考能力を身につけられるように学習を進める。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（△ 佐々木 清子） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」は、発達障害領域の作業療法を科学的に考察するために、必要な研究方法について、より実践的に学習を進める。これまでの学生自身の研究テーマの策定や研究の意義を検討・確認し、研究計画を立案する。その際、必要な文献検索等の情報収集、研究データの収集、結果の整理、統計学的手法やその他の方法による分析・考察等を演習し、発達障害領域の作業療法研究を実践する。この実践を通して、明らかに出来ることとその限界、適切な分析方法の選択等を実践できる能力を養い、学生が科学的な思考能力を身につけられるように授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総 合 科 目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（<u>△</u> 近野 智子） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」は、「作業療法研究基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」に引き続いてより実践的に学習を進める。これまで継続的に探索してきた学生自身の研究テーマを定め、先行研究の検索と情報収集を行い、研究計画書を作成し、研究方法の具体的な策定を演習する。この学びを通して統計学的分析やその他の研究方法による分析の適応と限界を理解し、適切な分析方法の選択を実践できる能力を養い、科学的な思考能力を身につけることを目標とする。演習では学生と教員によるディスカッションを通して、研究者としての基本的態度と研究の実践をブラッシュアップできるようにする。	
総 合 科 目	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	（<u>△</u> 坂本 俊夫） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」において、坂本ゼミではこれまで継続的に検討してきた学生自身の研究テーマの確定や研究の意義の検討・確認からより実施可能な研究計画の策定を目指す。このため研究において求められるデータ収集法や統計学的分析手法および考察の進め方などについて実践的に演習を進める。また必要に応じて各自の研究計画の適切性を確認するためにゼミ生を対象とした予備研究の実施や関連する他領域の研究のクリティカルレビューについても含めることとする。最終的には、これらの演習を通して、研究の背景から研究方法までを論文化し、ゼミ内での研究経過発表会の機会を設け、進行状況や研究の方向性の再確認を進める。この取り組みを通して、統計学的分析やその他の方法による分析により研究の可能性とその限界の判断や適切な分析方法の選択などについて学び、学生自身が科学的な思考能力を身につけられるようになることを目指す。	
総 合 科 目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	「作業療法研究卒業ゼミナールⅡ」は、「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」に引き続き、作業療法諸領域における課題を、科学的に考察するために必要な研究方法について、より実践的に学習を進める。これまで継続的に検討してきた学生自身の研究テーマ・研究計画書に沿って、その研究を実践し、結果の考察等を行い、論文を作成し、発表を行う。これらの一連の研究過程の学びを通して課題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶと共に、研究論文として簡潔にまとめる知識及び効果的なプレゼンテーションの方法を身につけ、さらに、自己の研究課程や結果だけでなく、他者の研究内容を共有することで、幅広く知見を収集できることを目標とする。また、研究者として求められる倫理観や倫理的配慮に伴う適正な手続きの方法についても学習する。最終的に、学生が、本ゼミナールの学習を通して、卒業後も研究を実践し、科学的な視点から課題解決にあたり、社会に貢献できる素養を身につけることを期待する。	
総 合 科 目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（<u>△</u> 里村 恵子） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅡ」は、「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」に引き続き、作業療法諸領域における課題を、科学的に考察するために必要な研究方法について、より実践的に学習を進める。これまで継続的に検討してきた学生自身の研究テーマ・研究計画書に沿って、その研究を実践し、結果の考察等を行い、論文を作成し、発表を行う。これらの一連の研究過程の学びを通して課題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶと共に、研究論文として簡潔にまとめる知識及び効果的なプレゼンテーションの方法を身につけ、さらに、自己の研究課程や結果だけでなく、他者の研究内容を共有することで、幅広く知見を収集できることを目標とする。また、研究者として求められる倫理観や倫理的配慮に伴う適正な手続きの方法についても学習する。最終的に、学生が、本ゼミナールの学習を通して、卒業後も研究を実践し、科学的な視点から課題解決にあたり、社会に貢献できる素養を身につけることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（△ 小林 毅） 本科目では、「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」で修得した研究過程の一連の過程を、いわゆる「論文」形式にまとめるとともに学会発表等に準じて「発表する」ことを経験することを目的とする。具体的には、他者に読んでもらうことを前提に研究論文の形式にまとめ、発表のプレゼンテーションを作成し、プレゼンテーションを実施することで「研究を発表する」という過程を経験する。なお、研究論文にまとめる、発表プレゼンテーションを作成する過程で生じる引用許諾等の手続きについても理解することで、卒業後にも研究の一連の過程が実践できるようにする。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（△ 猪股 英輔） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」を継続し、高齢期の作業療法における研究テーマについて、科学的な研究方法を用いた研究を進める。学生自身の研究テーマ・研究計画書に従い、研究を実践し、結果の考察を行い、卒業論文を作成して発表まで行う。これらの一連の研究過程を学び、実践することで課題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学習する。また、研究論文の作成では、論理的な文章構成力や簡潔にまとめる知識及び効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。さらに、他学生の研究内容を共有することで、幅広く知見を収集できることを目標とする。研究過程のなかでは、ヒトを対象とする研究者として求められる倫理観や倫理的配慮に関する手続きの方法についても学習する。最終的な目標は、学生が、高齢期における作業療法研究の学習を通して、卒業後も応用的に研究を実践し、科学的視点から課題解決に当たり、社会に貢献できる素養を身につけられるようにすることである。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（△ 星 克司） 身体障害領域において、身体機能の回復を促すための様々な治療方法、生活動作に応用する日常生活動作支援、工学的、生活環境に支援する技術などに関して学生自らが検討し、策定した研究テーマに関して、実践を行い、論文を作成する。その方法は卒業後、研究分野だけでなく、日々の臨床の場でも日常活動の疑問を解決する手法として役立つものとなることを目標とする。着眼点から結果につながるプロセス、デザイン、他の人に理解してもらえるまとめる力、表現する力などを学習する。	
総合科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（△ 齋藤 久恵） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅡ」は、「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」で学生自身が研究テーマとして策定した研究テーマ課題について、科学的に考察するために必要な研究方法について、より実践的に学習を進める。青年期の精神障害・発達障害領域における医療から地域・福祉への連続した支援（退院促進支援・生活支援・就労支援など）における作業療法の現状、その意義、今後の可能性などを検討するために求められる研究テーマ・研究計画書に沿って、その研究を実践し、また臨床実習・地域実習で自ら経験した事項も含めての結果から考察等を行い、論文作成、発表を行う。これら一連の経験を通して、研究過程の学び、問題解決能力を高めるための思考過程とその手法、プレゼンテーションの方法を身につける。また、研究に必要な倫理観や倫理的配慮、そして今後への問題提起と、それらを科学的視点から問題解決でき、社会に貢献できる素養を身につけることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（ <u>△</u> 秋元 美穂） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅡ」は、「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」に引き続き、作業療法諸領域における課題を、科学的に考察するために必要な研究方法について、より実践的に学習を進める。これまで継続的に検討してきた学生自身の研究テーマ・研究計画書に沿って、その研究を実践し、結果の考察等を行い、論文を作成し、発表を行う。これらの一連の研究過程の学びを通して課題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶと共に、研究論文として簡潔にまとめる知識及び効果的なプレゼンテーションの方法を身につけ、さらに、自己の研究課程や結果だけでなく、他者の研究内容を共有することで、幅広く知見を収集できることを目標とする。また、研究者として求められる倫理観や倫理的配慮に伴う適正な手続きの方法についても学習する。 最終的に、学生が、本ゼミナールの学習を通して、卒業後も研究を実践し、科学的な視点から課題解決にあたり、社会に貢献できる素養を身につけることを期待する。	
総合 科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（ <u>△</u> 井口 佳晴） これまで継続的に検討してきた学生自身の研究テーマ・研究計画書に沿って、その研究を実践し、結果の考察等を行い、論文を作成し、発表を行う。これらの一連の研究過程の学びを通して課題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶと共に、研究論文として簡潔にまとめる知識及び効果的なプレゼンテーションの方法を身につけ、さらに、自己の研究課程や結果だけでなく、他者の研究内容を共有することで、幅広く知見を収集できることを目標とする。研究過程の学びを通して、テクノロジーが作業療法に与える影響を考察すると共に、効果検証の方法を明らかにする。さらに、作業療法領域の中で、新たなテクノロジーの活用手段を提案することを目標とする。	
総合 科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（ <u>△</u> 佐々木 清子） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅡ」は、発達障害領域の作業療法における課題を、科学的に考察するために必要な研究方法について、より実践的に学習を進める。これまで継続的に検討してきた学生自身の研究テーマ・研究計画書に沿って研究を実践し、結果の考察等を行い、論文を作成し、発表を行う。これらの一連の研究過程の学びを通して課題解決能力を高めるための思考過程とその手法を学ぶと共に、研究論文として簡潔にまとめる知識、わかりやすく伝えるプレゼンテーションの方法を身につける。さらに、自己の研究課程や結果だけでなく、他者の研究内容を共有することで、幅広く知見を収集できることを目標とする。また、研究者として求められる倫理観や倫理的配慮に伴う適正な手続きの方法についても学習する。 最終的に、学生が、本ゼミナールの学習を通して、卒業後も研究を実践し、科学的な視点から課題解決にあたり、社会に貢献できる素養を身につけることを期待する。	
総合 科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（ <u>△</u> 近野 智子） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅡ」は、「作業療法研究卒業ゼミナールⅠ」に引き続き、学生自身が定めた研究テーマ・研究計画書に沿ってその研究を実践し、研究結果の考察を行い、その成果を論文にまとめ、発表を行う。この一連の研究課程の実践的な学びを通して、研究実践能力を高め、基本的な論文の書き方、効果的なプレゼンテーションの方法を習得する。また、研究者が身につけるべき倫理観や倫理的配慮に伴う適正な手続きの方法についても学習する。最終的に、学生が本ゼミナールの学習を通して、卒業後も作業療法における課題解決のために研究を実践し、科学的に問題解決を図るための素養を身につけることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
リハビリテーション学部 作業療法学科			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	（ 坂本 俊夫） 「作業療法研究卒業ゼミナールⅡ」は作業療法研究の集大成として、研究論文の作成と公表の方法を実践的に学ぶ。研究成果（結果）を複眼的視点から十分に分析し、考察においては学生が進めた研究の成果として得られた新たな知見を論理的に考察を加え、実際の作業療法の場合に十分活用できうる視点をも含めた論文を目指す。また研究の進行状況においては、各自の創出した新たな研究テーマへの関連・継続の研究開始も視野に含めることも可能とする。さらに研究の公表の機会に向けて効果的なプレゼンテーション資料の作成と公表の方法を個々の論文を基に実践的に学ぶ。また公表の場では学生自身の発表の経験に留まらず、他者の研究成果を共有することで幅広い視点を学ぶ機会とする。本ゼミを通して、研究者として卒業後も各自がそれぞれの立場で研究活動を継続できるように科学的な視点を持った課題解決方略の定着と高い倫理観を身につけることを目指す。	